

四 外国人待遇に関する国際会議

「外国人待遇ニ関スル国際会議経過調書」

昭和四年十二月

外國人待遇ニ關スル國際會議經過調書

祕

外務省條約局第三課

注 意

一、本調書ハ外國人待遇ニ關スル國際會議ニ出席シタル帝國代表ヨリ提出アリタル報告書ヲ其ノ儘印刷ニ附シタルモノナリ

一、本調書ハ機密扱トスルヲ要ス

外國人待遇ニ關スル國際會議經過調書

目次

第一章	會議開催ニ至ル迄ノ經過	一
第二章	總會ニ於ケル一般討議及委員會ノ構成	七
第一節	總會ニ於ケル一般討議要領	七
第二節	委員會ノ構成並副議長及全權委任狀審査委員任命	一三
第三章	第一委員會議事經過	一七
第一節	緒論	一七
第二節	逐條審議	一八
前文		一八
第一條		一八
第二條		二三

第五條	二四
第六條	二九
第七條	三五
第八條	四六
第九條	五二
第十條	五四
第十一條	五九
第十五條	六四
最終議定書	六五
第四章 第二委員會議事經過	六七
第一節 緒論	六七
第二節 逐條審議	六九
第三條、第四條及第十二條第二項	六九
第十二條第一項	八三

第十三條及第十四條	八五
第五章 第三委員會議事經過	九七
第一節 緒論	九七
第二節 各項審議	九九
第十六條第一項	九九
第二項	一〇四
同	一〇五
同	一〇六
同	一〇六
同	一〇六
同	一一一
同	一一四
同	一一七
同	一一七
同	一一七
第六章 第四委員會議事經過	一二五
第一節 緒論	一二五

第二節 逐條審議	一二七
第十七條及第十八條	一二七
第十九條	一三三
第二十條	一三六
第二十一條	一三八
第二十二條	一四〇
第二十三條乃至第二十六條	一四六
第二十七條	一五一
第二十八條	一五二
英國提議ノ新條項	一五九
英帝國ニ屬スル諸政府代表ノ宣言	一六一
第七章 委員會報告審查及會期終了議定書作成	一六三
第一節 委員會報告審查	一六三
第二節 會期終了ト議定書作成	一七一

第一章 會議開催ニ至ル迄ノ經過

國際聯盟理事會ハ一九二一年九月十九日ノ決議ヲ以テ經濟委員會ニ聯盟規約第二十三條(左記規定ノ意味ヲ研究セシメタリ

(前略)一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スルタメ方法ヲ講スヘシ

經濟委員會ハ通商衡平待遇ノ原則ニ反スル各種ノ事實ヲ列舉シ研究ニ着手スルコト最善ノ方法ト思考シ右事實中ニ「一聯盟國カ其ノ國內ニ於テ商工業其ノ他ノ職業ヲ行フ他聯盟國ノ國民及會社ニ對シ租稅其ノ他ノ事項ニ關シ不公平ナル待遇ヲ與フルノ事實」ヲ指摘シ右ノ事實ハ

(イ) 一國內ニ於テ各種職業ヲ營ムコトヲ正當ニ許可セラレタル外國人及外國會社ニ適用スル制度

(ロ) 個人及會社カ他國ニ於テ職業ヲ營ムコトヲ許可セラルヘキ條件

ノ二點ニ於テ最モ顯著ニ表示セラルル處右第二點ハ入國問題ニ關シ當時尙研究ノ時期ニ非ストシ右第一點即チ入國後ノ外國人及外國會社ノ地位ノミヲ研究スルコトトセリ其ノ結果經濟委員會ハ一九二三年五月十個ノ勸告ヲ作成セルカ右ハ主トシテ租稅問題ニ關シ(内外人待遇ノ差異ハ課稅

ニ於テ最モ顯著ナルヲ以テナリ）外ニ外國人ノ財産所得及占有權ニ關シ一般的ノ意見ヲ附セルモノナリキ理事會ハ右勸告ヲ各聯盟國ニ送付シ其ノ國內法制定、通商條約締結ニ當リ右勸告ノ原則ニ準據センコトヲ勸誘セリ

一九二三年九月第四回聯盟總會ニ於テ日本代表ハ本問題ニ關シ經濟委員會ハ從來ノ研究ヲ擴張シ一國ニ居住スル外國人ハ如何ナル條件ヲ以テ商工業其他ノ職業實行ヲ許可セラルルヤヲ研究スヘキ旨ノ提議ヲナシ總會ノ採擇スル處トナリタルヲ以テ經濟委員會ハ一九二四年二月本問題研究ニ着手シ同年八月各國現行法制ニ關スル詳細ナル材料ヲ蒐集シ新ナル勸告ヲ採擇シテ理事會ニ提出スル所アリ理事會ハ一九二五年七月右勸告ヲ各聯盟國ニ送付シ其ノ實行方ニ關シ意見ヲ求メタルカ約二十箇國ヨリ回答アリ其ノ多數ハ國內法制上右勸告實行ニ何等困難ヲ感スルモノナラサル旨ヲ通告セリ

一九二七年五月國際經濟會議開催ニ際シ國際商業會議所ハ外國人待遇ニ關スル一報告ト共ニ（イ）旅券査證廢止及居住ノ自由並ニ（ロ）外國人ノ待遇ニ關スル二條約案ヲ提出セリ
第一條約案ハ凡テノ旅行者ニ對シ入國及通商ノ査證義務ヲ廢止シ且正當ニ入國ヲ許可セラレタル外國人ニ移轉、滞在、旅行等ニ關シ内國民ト同様ノ自由ヲ與ヘントスルモノニシテ第二條約案ハ

（イ）外國ニ於ケル商工業其ノ他一切ノ職業實行（ロ）外國人ノ私法上ノ地位（ハ）法人ノ地位（ニ）外國人ノ課税上ノ待遇ノ四問題ヲ最モ自由ナル主義ニ基キテ規律セントスルモノナリキ
經濟會議ハ一國ノ國民又ハ會社ニシテ他國ノ地域内ニ居住スルコトヲ許可セラレタルモノノ待遇ニ關シ左ノ趣旨ノ勸告ヲ採擇セリ

- 一、國際條約締結ニ至ル迄經濟委員會及國際商業會議所既成ノ事業ニ準據シ經濟、法律及課税ノ諸點ヨリ外國人ノ地位ヲ最モ善ク規律スルニ國間條約ヲ締結センコト
- 二、同一ノ精神及目的ヲ有スル國際條約作成ノ爲理事會ハ外交官會議開催ヲ準備スルコト
- 三、右會議ニ提出セラルヘキ條約案中ニハ特ニ左ノ諸點ニ留意スルコト

（イ） 一國ニ入國ヲ許可セラレタル外國人ニ賦與スヘキ滞在、居住、移轉及旅行ニ關スル國民待遇

（ロ） 外國人及外國會社ニ依ル商工業其他一切ノ經濟活動實行ノ條件

（ハ） 外國人及外國法人ノ法律的地位

（ニ） 外國人及外國法人ノ納税上ノ地位

一九二七年六月十六日ノ理事會決議ニ依リ經濟委員會ハ同年七月臨時會議ヲ開催シ經濟會議決議

中緊急ヲ要スル事項ヲ審査シタル結果直ニ前記外交官會議開催ノ準備ニ着手スルコトニ決シ佛國委員「セルイス」氏及國際商業會議所「リードル」氏ニ條約案ノ作成ヲ委託セリ

右兩氏ハ一九二七年十二月ノ經濟委員會ニ條約案ヲ提出シ審議ノ結果各委員ノ意見ニ基キテ之ヲ修正シ更ニ一九二八年三月ノ委員會ニ修正條約案ヲ提出セルヲ以テ委員會之ヲ審査シタル後理事會宛報告中ニ右條約案ノ主義原則ヲ説明スル所アリキ

聯盟事務總長ハ一九二八年三月ノ理事會決議ニ基キ同年五月右條約案ヲ各國政府ニ送付シ意見ヲ求ムルト共ニ會議ニ參加ノ意思アリヤ否ヤヲ尋ネタリ

續イテ經濟委員會ハ同年十月ノ會議ニ於テ同委員會カ國際會議召集ノ時期ナリト思考スル時ハ事務總長ハ會議ノ期日ヲ決定シ各國ヲ之ニ招請シ得ル樣理事會ニ要請スル所アリ理事會ハ同年十二月之ヲ承認セリ

本年一月經濟委員會ハ各國政府ノ回答ヲ審査シ會議ヲ十一月初旬招集ニ決シ直ニ小委員會ヲ構成シテ準備調書ヲ作成セシメ右調書ハ本年四月十日附事務總長ヨリ各國ニ宛テタル會議ニ對スル正式招請狀ト共ニ各國政府ニ送付セラレタリ

本年六月理事會ハ本會議々長トシテ前白耳義國防大臣「デニグエーズ」氏ヲ任命シ且經濟委員會租

稅委員會及國際商業會議所各代表者ヲ諮問的資格ヲ以テ會議ニ出席セシムルコトトセリ

會議ハ十一月五日ヨリ壽府ニ開催ノ豫定ナリシモ本年第十回聯盟總會ニ於テ南米諸國代表ノ發議ニ基キ同期日ニ之ヲ巴里ニ開催ノコトニ變更セラレタリ

斯クテ本件會議ハ十一月五日午前十一時ヨリ巴里海洋學會(Institut Océanographique)ニ於テ「デニグエーズ」氏議長ノ下ニ開催セラレタリ參加國ハ本邦ノ外獨逸、濠太利、奧太利、白耳義、「ボリヴィア」、「英國、勃牙利、加奈陀、支那」、「コロンビア」、「玖馬、丁抹」、「ドミニカン」共和國、「エストニア」、「芬蘭、佛國、希臘」、「グアテマラ」、「ハイチ」、「洪牙利、印度、愛蘭、伊太利」、「ラトヴィア」、「ルクセンブルグ」、「諾威、巴奈馬」、「バラグイ」、「和蘭、祕露、波蘭、葡萄牙、羅馬尼、「サルバドル」、瑞典、瑞西、智惠古、「ウルググイ」、「ヴェネズエラ」、「ユーゴースラヴィア」、伯刺西爾、「ダンチヒ」、米國(但シ「オブザーヴァー」トシテ)、埃及、「メキシコ」、土耳其、「ソ」聯邦ノ聯盟國及非聯盟國四十七箇國ナリキ

帝國政府ハ伊藤大使館參事官ヲ其ノ代表委員ニ任命シ之ニ出席セシメタリ

第二章

總會ニ於ケル一般討議及委員會ノ構成

第二章 總會ニ於ケル一般討議及委員會ノ構成

第一節 總會ニ於ケル一般討議要領

會議ハ十一月五日ヨリ同七日迄總會ヲ開催シ一般討議ヲ行ヘリ

先ツ聯盟副事務總長「アブノル」氏ハ事務總長ヲ代理シテ挨拶ヲナシ本會議巴里ニ開催セララル
ニ當リ佛國政府ノ示サレタル好意ニ對シ謝辭ヲ述フル所アリ、佛國代表「ド、ナヴァイユ」氏之ニ
答ヘタリ

次イテ議長ハ各代表者ニ對シ歡迎ノ辭ヲ呈シタル後本會議開催ニ至レル經過ヲ述ヘ（其ノ中一九
二三年第四回聯盟總會ニ於ケル帝國政府代表ノ提案ニ言及セリ）聯盟規約第二十三條（ホ）規定ハ
一國國民カ他國ニ於テ私權及經濟活動ノ諸點ニ關シ最大ノ保障ヲ享有セサルニ於テハ死文ニ終ル
ヘキヲ述ヘテ會議ノ目的ヲ説明シ條約ヲ多數國ノ加入シ得ルモノタラシメンカ爲各條ノ意義ヲ減
シ其ノ效果ヲ制限シ以テ自由主義ノ退歩ヲ來スノ結果ニ至ラサランコトヲ希望シテ開會ノ辭トナ
セリ

希臘代表「ポリチス」氏ハ本件ノ如キ技術的問題ニ關シ一般討議ノ不必要ヲ述ヘ直チニ委員會ヲ

構成シテ各條ノ討議ニ移ランコトヲ提案セルモ會議ハ之ヲ認メス一般討議ヲ行フコトナレリ右討議中各國代表ノ爲シタル演說要旨左ノ如シ

十一月五日討議—葡萄牙代表（「ダ、ヴィラ、リマ」）ハ國家ノ政治、行政及國家の利害ニ關スル經濟的活動ハ之ヲ國民ニ留保スルノ必要ヲ述ヘ且課税ニ關スル均等待遇ノ困難ヲ述ヘテ第三條及第四條ノ削除ヲ主張シ

國際商業會議所代表（「リードル」）ハ不安定ナル通商條約ト獨立セル國際協定作成ノ必要ヲ説キ本年七月「アムステルダム」ニ於ケル商業會議所會議ニ於テ採擇セラレタル決議即多數國ヲ無理ニ加入セシムルノ不可、本件條約ハ問題ノ第一歩ニシテ更ニ將來外國人入國及查證廢止ニ關スル條約作成ニヨリテ之ヲ完備スルノ必要ヲ述ヘ

玖馬代表（「ド、ブランク」）ハ昨年「ハバナ」ニ於ケル汎米國際會議ニ於テ採擇セラレタル條約ト本條約トヲ比較シ天災等ノ場合外國人カ警察事務ニ採用セラルコトアルヘキ旨、外國人カ國內裁判權ト國際裁判權トノ何レヲモ選擇シ得ルモノトスルノ不可、及革命又ハ國內戰爭ニ際シ國民ニ損害賠償ヲ與ヘサルニ外國人ノミニ之ヲ與フルノ不道理ヲ説明シ條約案第九條、第十一條修正ノ必要ヲ述ヘ

白耳義代表（「ド、ラ、ヴァレ、ブーサン」）ハ外國人待遇問題ハ多數國間條約ヲ以テ規定スルコト可ナリト説キ

和蘭代表（「ネーデルブラヒト」）ハ同國政府ノ本條約ニ對スル利害關係ノ重大ナルヲ説キ蘭領印度ニ對シテハ或ハ留保ノ要アルヘキモ同地ニ於テモ次第ニ外國人及外國企業ニ對シ經濟的活動ヲ許可スルノ方針ヲ採リツツアル旨ヲ説明シ參加國ハ少數ナリトモ進歩的ノ條約作成ノ必要ヲ力説セリ

獨逸代表（「マルチウス」）ハ本會議ハ外國人待遇ニ關スル法規ヲ世界的ニ確立スルニ在リ單ナル條約ノ「モデル」ヲ作ルヘキニアラサルモ多數國ノ參加ヲ得ル爲ニ條約ノ内容ヲ薄弱ナラシムヘカラストシ條約案第十八條ヲ強調シテ更ニ自由ナル二國間條約ノ締結ヲ希望シ又多數國條約ニ於テモ關係國カ自由語ヲ使用スルコトヲ許サルヘキモノナリトテ「本條約ハ關係國ノ要求ニヨリテ英佛文以外ノ公式ノ翻譯ヲ爲サルヘク各關係國ハ自國內ニテ右翻譯文ヲ正文ト看做シ得ヘキ」モノナリト主張シ且第七條第二項及第二十八條（植民地條項）モ獨逸ニ満足ヲ與フルモノナラスト述フ

十一月六日討議—伯國代表（「ラフェール」）ハ現今本問題ニ關スル各國法制ノ相違ハ恰モ法律

的帝國主義ノ觀ヲ呈シ被審判者ノ利益ヨリスルモ司法行政又ハ法律學ノ利益ヨリスルモ之カ統一ヲ實現スルコト有益ナリトシ右統一ノ爲メニハ多數國ノ條約ニ依ルヘキ旨ノ決議案ヲ提出セリ

英國代表(「サー、ギルバート、ヴィール」)ハ本會議ノ成功不成功ノ世界經濟政策ニ及ホス影響ノ大ナルニ鑑ミ責任ノ重大ナルヲ說キ最惠國待遇適用ノ必要ヲ述ヘ國際經濟會議ノ採譯セル最惠國待遇ニ關スル決議ヲ援用シ來リ之ニ合致セサル態度ヲ執ルコトノ不可ヲ說ケリ

經濟委員會代表(「セルイス」)ハ條約案ノ作成セラレタル主義主張ヲ說明シ現行二國間條約ニ依ル保障ハ相對的ノモノニシテ之ニ代フルニ實體的保障ヲ以テスヘキモ唯多數國條約上ノ義務ヲ負擔セス二國間條約中ノ最惠國條款ニヨリテ其ノ利益ノミニ均霑スルノ事實ヲ許スヘカラスト主張セリ

支那代表(高魯)ハ同國ノ特別地位ヲ說明シ外國人カ內國人以上ノ待遇ヲ享有シ政府ハ外國人ニ對シ或種ノ權利ヲ保障シ得サル事態ニアル旨ヲ述ヘ適當ノ留保ヲナスヘシト聲明シ

羅馬尼代表(「ボベスコ」)ハ自國ノ經濟政策、經濟關係法制ノ自由主義ニ依ル旨ヲ說明セリ

埃及代表(「モハメッド、ファクリー、バシヤ」)ハ諸外國ノ同國ニ於テ有スル領事裁判權ノ爲外國人ハ內國人以上ノ待遇ヲ受クルノ事實ヲ說明シ裁判、課稅及立法ニ關シ條約案第九條及第十二條ニヨリテ同國ニ於テモ内外人均等待遇トナサレ度キ旨ノ希望ヲ表明セリ

丁抹代表(「エンゲル」)ハ同國ノ自由主義ナル旨ヲ說明シ條約實施條項ハ輸出入禁止制限撤廢條約ニ倣フヘシト述フ

瑞典代表(「サンドストローム」)ハ條約ハ理想ニ走り批准ナキ爲死文ニ終ランヨリモ活力アリ外國人ニ對シ眞ノ保障タルヲ要スト說ケリ

伊國代表(「ランドウツチ」)ハ同國カ外國人待遇ニ對シ自由主義ヲ採用スル次第ヲ說キ外國人入國問題ノ重要ナル旨本件ハ公安保護ト國際經濟協調實現ノ二點ヨリ考慮スルコトヲ要ストシ又條約ハ出來ル限り融通性アル形式ヲ採リ一般原則ノ決定ヲ主トスヘシトシ本條約案ハ餘リニ内容微細ニ互リ多數國條約ノ最善ノモノトスルニ足ラストテ條約案全般ニ對シ留保スル旨ヲ述フ

巴奈馬代表(「メンデス、ペレーラ」)ハ内外人平等主義ヲ實行スル同國ノ地位ヲ說明シ略々玖馬代表ト同趣旨ノ陳述ヲナセリ

芬蘭代表（「ホルマ」）ハ同國ニテ外國人待遇關係法規改正中ニシテ政府ハ本條約案ノ原則ニ準據スヘキコトト信スルモ現行法規ハ外國人ノ不動產所得權及經濟活動實行條件ニ關シ本條約案ト異ル旨ヲ説明セリ

米國代表（「ゴールドン」）ハ同國政府ハ原案ヲ審查シタル結果條約案中ノ問題ハ同國憲法ニヨリテ各聯邦ノ立法權ノ範圍ニ屬スルモノ多キヲ認メ從テ各聯邦ノ權利ニ觸ルルカ如キ國際條約ヲ締結スルコトヲ成ルヘク避ケ度キ意思ニテ代表者ヲ派遣セサリシモ此ノ事實ハ外國人カ同國ニテ内國人ニ劣レル待遇ヲ受クルコトヲ意味スルモノナラストテ身體財產ニツキ内外人均等保護、外國人ニ對スル經濟的活動及自由職業ノ實行ノ許可ヲ説明シ合衆國憲法第十四修正規定ハ「聯邦ハ正當ナル合法的手段ニ依ラスシテ人ノ生命、自由、財產ヲ奪フコトナク又居住民ニ同一條件ノ法律上ノ保護ヲ拒絶スヘカラス」ト定ムル旨ヲ述ヘ同國最近ノ修交通商條約ハ國民待遇及最惠國待遇無條件適用ヲ其ノ基礎トスル旨ヲ陳述セリ

智惠古代表（「ペルーツカ」）ハ同國ニ於ケル外國人ノ平等待遇ハ相互主義ナル旨及外國會社ハ事前ノ許可ヲ要スル旨ヲ説明セリ

十一月七日討議—波蘭代表（「ボツナンスキー」）ハ多數國カ條約ニ加入シテ初メテ條約ノ普遍

性ヲ實現シ得ヘキヲ以テ各國ノ特殊地位ヲ考慮シ條約ニ融通性ヲ認メ成ルヘク多數ノ參加國ヲ得度キ旨ヲ希望シ且移民問題ハ重要ナル經濟問題ナレハ近キ將來ニ之ヲ解決シテ本條約ヲ完成スルコトヲ要スト述ヘタリ

第二節 委員會ノ構成並副議長及全權委任狀審查委員任命

（第一） 委員會ノ構成

右ヲ以テ一般討議ヲ終了シ議長ノ提案ニヨリ會議ハ四個ノ委員會ヲ構成シ左記ノ通各審議事項ヲ確定セリ

第一委員會（國際通商ニ對スル保障、居住ノ自由、商工業其他ノ職業ノ實行、私法上及裁判上ノ保障）第一條、第二條、第五條乃至第十一條、第十五條、第二十八條、第二十九條及最終議定書

第二委員會（課稅制度）第三條及第四條並第十二條乃至第十四條

第三委員會（會社及法人ニ關スル制度）第十六條

第四委員會（一般規定）第十七條乃至第二十七條及各條文起草

續イテ更ニ議長ノ提案ニ基キ各委員會議長及報告者ヲ左ノ通り任命ス

第一委員會議長 「サー、シドニー、チャブマン」(英國代表)

報告者 「ポリチス」(希臘代表)

「ピロチ」(伊國代表)(之ハ後ニ追加任命セラレタリ)

第二委員會議長 「ゲレロ」(「サルバドル」代表)

報告者 「エンゲル」(丁抹代表)

第三委員會議長 「マルチウス」(獨逸代表)

報告者 「ディニシール」(瑞西代表)

第四委員會議長 「ド、ミケリス」(伊國代表)

報告者 伊藤 (日本代表)

尙第四委員會ノ權限タル條文起草ニ關シテハ「ド、ミケリス」(伊)伊藤(日)「ペバン」(佛)「ベケット」(英)「ダ、ヴィラ、リマ」(葡)ノ五氏之ニ當ルコトニ決セリ

(第二) 總會副議長及全權委任狀審査委員任命並幹部會構成

一般討論中會議ハ「ド、ナヴァイユ」(佛國代表)「ズメッタ」(「ヴェネズエラ」代表)「フロレス、デ、レミユス」(西國代表)及「ボツナンスキー」(波蘭代表)ノ四氏ヲ總會副議長ニ任命シ且

ツ「ポリチス」(希臘代表)「ウルチア」(「コロンビア」代表)及「ド、ブランク」(玖馬代表)ノ三氏ヲ全權委任狀審査委員ニ任命セリ
尙本會議幹部會ハ本會議々長、四副議長、四委員會議長及五委員會報告者ノ十四名ヲ以テ之ヲ構成スルコトニ決セリ

第三章 第一委員會議事經過

第三章 第一委員會議事經過

第一節 緒 論

第一委員會ハ十一月七日外國人待遇國際會議本會議ニ於テ原案タル經濟委員會作成ノ條約第一條第二條、第五條乃至第十一條、第十五條、第二十八條及第二十九條竝ニ最終議定書及右ニ關スル附屬「プロトコール」ノ審議ヲ附託セラレ後ニ至リ第二十八條ハ同條ノ性質上第四委員會ノ審議ニ移スニ至リタル處第一委員會ハ右諸條文案ニ對シ十一月八日ヨリ十二月二日夜半ニ至ル迄前後三十數回ノ委員會議及十數回ノ小委員會議又ハ分科會議ヲ重ネテ逐條的ニ審議シ出席各國ノ修正案竝ニ諮問諸機關ノ提案ヲ討議シ第一讀會ニ於テ右討議ニ基キ本會議ニ提出スヘキ報告書ヲ作成シ更ニ第二讀會ニ於テ之ヲ精査スルノ方法ニ依リ最後ニ於テ前記諸條文最終議定書及附屬「プロトコール」ニ關スル報告書ヲ本會議ニ提出シタリ

而シテ本委員會委員長ハ英國代表タル「サー、シドニー、チャブマン」氏ニシテ報告者ハ希臘代表「ポリチス」氏及後ニ至リテ伊太利代表「ビロッチ」氏ヲ加ヘ兩氏之ニ當リタリ、各國代表ノ本委員會ニ出席セルモノハ C. I. T. F. / Com. A/6 ノ通りニシテ我方ヨリハ伊藤參事官、坂根領事、

秋山書記官、門脇官補出席シ本委員會關係トシテ C.I.T.E. 14. 及 C.I.T.E. / Com. A/35 ノ如キ修正案ヲ提出シ其他ハ各場合ニ當リ主張シタルカ左ニ本委員會審議ノ經過並ニ成績ヲ逐條的ニ敍スヘシ

第二節 逐條審議

前 文

第一委員會ハ本條約草案前文ニ關シテハ審議ヲ附託セラレサリシモ十一月八日ノ委員會ニ於テハ蘭代表側ヨリ本條約前文ニハ本條約ハ一國內ニ定住スル外國人ニ關スル條約ナル旨ヲ述ヘ居ルニ拘ラス第一條ニ定住セサル外國人ニ對シテモ國民待遇ヲ與ヘ居ルハ矛盾ナリト述ヘタルカ議長ノ申出ニヨリ右前文ノ書方ハ第四委員會又ハ起草委員會ノ審議ニ附託スルコト、ナレリ

第 一 條

(第一) 白國代表側ヨリ本條ニ謂フ國民ナル字義ニ就テ決定ヲ與フルヲ要ス、然ラサレハ本條約ニ調印セル國ニシテ其ノ植民地カ加入セサル場合植民地ニアル國民ニ對シテ本條約ノ待遇ヲ保障スルノ不合理ヲ來タス虞アリト述ヘタルニ對シ經濟委員會側ヨリ本條案文トシテハ植民地ニアル國民中土人タル *subject* ヲ除キタル *citizen* ハ之ヲモ含マシムルノ意ナルモ第二十八條トノ

關係モアリ同條ニ於テ討議スヘシト述ヘ議長ノ申出ニヨリ本件ハ植民地ト本國トノ關係並ニ國民ノ意義ヲ決定スル標準如何ノ二問題ヲ含ムニヨリ第四委員會ニ於テ審議スルコト、ナレリ

(第二) 和蘭代表側ヨリ本條ニ謂フ商業ノ意義ニハ保險業モ含マルヤ否ヤ、包含セラル、場合ハ和蘭ニ於テハ保險ニ付保證金ノ點ニ於テ内外人差別シ居リ且本條ニハ納税ニ對スル待遇ニ關シテ課税問題モ含ミ居ルヲ以テ此點ヲ明ニスルヲ要スト述ヘ瑞典側ヨリモ同様ノ申出アリタルカ經濟委員會側ヨリ本條ノ商業ノ字義中ニハ保險ヲ包含セス單ニ商品ノ賣買ニ關シ居ル處右ハ第七條トノ關係モアルニ付同條ニ於テ討議然ルヘシト述ヘ且課税問題ニ關シ困難アルニ於テハ此點ハ削除シ差支ナカルヘシト述ヘ結局本件ハ第七條ノ討議ニ讓ルコト、ナレリ

(第三) 日本代表側ヨリ本條ハ一見國民待遇ヲ保障セス、絶對待遇ヲ與ヘタルカ如キ虞アルニ付「國民ト同一ノ條件ニ基キ」ナル字句ヲ挿入スヘシト述ヘ諾威及國際商業會議所側ヨリモ同様ノ申出アリタルニ對シ右ハ第一項後段ニ於テ國民待遇ヲ明記シ居ルノ點ニ顧ミ國民待遇ヲ二重ニ規定スルヲ要セストノ意見モアリ單ニ之ヲ報告書中ニ記載スルコト、シ本文ハ其儘ニシ置クコト、ナレリ

(第四) 西班牙代表側ヨリ補助金問題ニ關シ同國ニ於ケル外國企業ニ併行シテ別ニ國內企業ヲ盛

ナラシムル爲補助金ヲ與ヘ居ルカ右ハ何等外國企業ヲ壓迫スル目的ヲ有セサルニ付本條約ト牴觸スルモノニ非サルコトヲ明ニシ度旨申出タルカ右ハ第二十條トノ關係多キ故同條ノ審議卽第四委員會ノ審議ニ讓ルコト、ナレリ

(第五) 英國側ヨリ本條ノ“even”ナル語ハ不用ナルニ付削除スヘシト述ヘ削除ニ決ス、又同國ヨリ第二項ノ“shall be free to advertise”ニ代フルニ“shall not be prevented from advertising”トスヘシト申出テ右ヲ承認ス

(第六) 英國側ヨリ更ニ“Concession”ナル字句ハ狹キニ失スルニ付キ“licence or permit”ナル字句ニ變更スヘシト述ヘタルニ對シ經濟委員會側ヨリ“concession”ハ商業活動ノ一種ニシテ右ハ内國民ニ留保スルモ差支ナキモ之ヲ英國提案ノ如キ字句ニ變更スルニ於テハ“licence or permit”ハ單ニ商業活動ノ一條件ニ過キサル故外國人ノ享有スヘキ國民待遇ノ範圍狹クナル虞アリト述ヘタル結果單ニ内外人ノ服スヘキ條件ノ説明トシテ“to any condition”ノ次ニ右字句ヲ挿入スルコト、セリ

(第七) 次ニ本條「プロトコール」ニ關シ英國側ヨリ「プロトコール」第一項ノ“contract”ノ前ニ“special”ナル語ヲ挿入スヘシト述ヘタルカ本項ハ所謂例外事項タル“Government Concession”

ノ説明ナルヲ以テ右ハ不要ナリトノコトニ意見一致シタリ、更ニ英國側ヨリハ本條ハ自由意識ヲ以テ組織セラル、商工業團體ノ團員規定ヲ何等阻害セサルヘキ旨ノ「プロトコール」ヲ置クコトヲ主張シタルカ右ハ何等本條ト關係ナキ事項ナル結果承認セラル、所トナラス

(第八) 更ニ英國側ヨリハ十一月二十日ノ本條第二讀會ニ於テ同國現行外國商會ノ商號登録ニ關スル規定ハ何等本條約ノ規定ニ牴觸セサル旨報告書中ニ記載シ度旨申述ヘ十一月二十三日第七條ニ關スル討議ニ際シテモ又之ヲ主張スル處アリタルカ獨逸及伊太利代表側ヨリ右カ單ニ商業取締ノ爲ノ規定ナラハ差支ナキモ若シ内外人ヲ差別スルカ如キ規定アラハ困難ヲ感スト述ヘ何レニスルモ右法律ヲ審査セル後決定スヘシトノコトトナリ英國側ヨリ右法律ヲ提出スヘシト述ヘタルモ結局他ノ諸事項ノ審議多忙ナリシ爲此點ハ其儘トナレリ

(第九) 「プロトコール」第二項ニ關シテハ議論紛糾シタルカ「オーストリア」代表側ヨリ本項ノ存在ハ同國ノ如キ武器輸出取締ノ必要アル國ニ取リテハ困難ナル問題ナリト述ヘ埃及、土耳其、英國側ヨリモ本項ノ削除ヲ主張シ殊ニ「エストニア」代表ハ本項ヲ存置シ置クコトハ同國現行農產物、鶏卵ノ輸出管理ノ實施上困難トスル所ナリト述ヘ瑞典代表之ニ贊シタルカ經濟委員會側ヨリ右諸國ノ削除論ハ今日ノ經濟活動ヨリ見テ不當ニシテ輸出入管理ニ際シテモ内外人ヲ區

別スヘキニ非スト述ヘ結局關係國ヨリ分科會ヲ作成シテ成案ヲ得ルコト、シ分科會ニテ協議セル結果第二項トシテ左ノ規定ヲ置クコト、ナレリ

“Notwithstanding the provisions of Article 1, if, according to the operation of the laws of the country, the granting of licences, authorisations or permits arising out of the control of imports and exports is subject *de jure* or *de facto* to obligations as regards establishment, residence or registration applicable to nationals, these obligations shall be equally applicable to foreigners”.

(第十) 尙十一月二十日ノ第二讀會ニ於テ前記第七ニ關シ西班牙代表側ヨリ政府トノ契約ニ基キ特定會社カーノ「コンセツション」ヲ得タル場合更ニ同會社ヨリ特定契約ニヨリ「コンセツション」即 Sub contract ヲ受クルハ本條ノ「コンセツション」ニ入ルヘキヤ否ヤ、入ラサルニ於テハ之ヲモ加ヘタキ旨申述ヘ議論アリタルカ右ハ要スルニ Sub contract ノ性質如何ノ問題ナリト説明セラレタルカ埃及及芬蘭側ヨリモ同様ノ質問アリ結局 Sub contractor 及其ノ事業ノ性質如何ニヨリテ決定スヘシ豫メ之ヲ記入スルハ「コンセツション」ノ意義ヲ擴張スル虞アリトテ其儘ニスルコトニ落付キタリ

(第十一) 以上討議ノ結果トシテ報告者側ヨリ提出セル C.I.T.E./Com.A/20 報告ニ上記ノ修正

第二 條

ヲ加ヘタルモノヲ本會議ニ提出スルコト、ナレリ

(第一) 十一月九日ノ討議ニ於テ英國側ヨリ“shall be free to participate”ニ代フルニ“shall not be prohibited by law from participating”ヲ以テシ且“of any High Contracting Party”ナル字句ノ次ニ“in conformity with the law and ordinances of the country”ナル字句ヲ挿入スヘシト述ヘタル結果右ハ當然ナリト承認セララル

(第二) 獨逸代表側ヨリ「プロトコール」第一項中ノ“mandate”ヲ存置スヘキヤ否ヤハ問題ナリトシ其ノ結果第二十八條ノ討議ニ於テ右ヲ審議スルコト、ナレリ

(第三) 智國代表側ヨリ「プロトコール」第二項ニ關シ隣接國ノ國民ニ對シテ例ヘハ博覽會ノ如キヲ留保シ得ルノミナラス之ヲ擴張シテ特定目的ノ爲ニハ特定國ノミノ博覽會ヲモ開催シ得ル様規定スヘシト述ヘタルニ對シ獨逸側ヨリ本條ハ單ニ市場竝ニ市ニ限定シ居リ何等博覽會ノ如キニハ關係ナシト述ヘ結局何等關係ナシトノ議一致ス尤モ“group of neighbouring States”ナル字句ハ最廣義ニ解シ差支ナキ旨承認セラレタリ

(第四) 和蘭代表側ヨリ“free admission”ハ人ヲ目的トセルヤ又商品ヲ目的トスルヤトノ質問ア

リタルニ對シ本條ハ何等商品ニハ關係ナシトノ説明アリ

(第五) 「プロトコール」第二項ノ “of the convention” ハ不要ナリトテ削除ス

(第六) 以上討議ノ結果トシテ C.I.T.E./Com.A/20 ノ如キ報告書ヲ提出スルコト、ナレリ

第五 條

(第一) 十一月九日ノ審議ニ於テ本條第一項ニ關シ瑞典側ヨリ瑞典ニ於テハ旅商ハ “authorization” ヲ豫メ求ムル要アルヲ以テ本條ノ規定ニ困難ヲ感スト述ヘタルニ對シ内外人ノ區別ヲセサレハ右制度差支ナシト述ヘタルモノアリタルモ獨逸代表及國際商業會議所側ヨリ本條ハ右 “authorization” ハ通商ノ自由ヲ害スルヲ以テ之ヲ廢止ヲ目的トスルモノナリト主張シ議長ヨリ旅商ニハ “authorization” 又ハ許可ヲ要スヘキヤ否ヤヲ問ヒ採擇ノ結果本條ハ右ノ如キ制度ノ廢止ヲ目的トスルモノナリト決定セラル

(第二) 十一月十二日ノ審議ニ於テ本條ノ適用ヲ受クヘキ旅商ノ範圍ニ關シ議論續出シタルカ國際商業會議所側及英國側ヨリハ本條ハ締約國ノ何レカニ於テ商工業ニ従事スル締約國國民ニ限定スヘシト述ヘ他方ニ於テ瑞西代表側ヨリ締約國內ニ於テ商工業ニ従事スルモノハ何人ト雖モ本條ノ適用ヲ受クヘク右ハ一九二三年調印ノ關稅手續簡捷ニ關スル條約ニ一致スルモノナリト

主張シ伊太利側ヨリハ本條ハ國籍ノ問題ト證明ノ問題トヲ包ミ居ル處何レモ正確ニ規定スル必要アリト述ヘタルカ結局國際商業會議所側ノ意見ヲ容ル、コトニ決シ、尤モ右ヲ餘リニ嚴格ニ解セス非締約國民ニシテ締約國ニ於テ商業ニ従事スルモノニモ及ホスヘキコトヲ希望シタリ尙本件討議ニ際シ本條ハ本條ニ記載スル商工業ニ従事スルモノ、旅商ノ場合ニシテ其ノ使用スル旅商ニハ本條ハ何等關係ナシト認メラレタリ

(第三) 次ニ證明ノ問題ニ關シテハ英國側ヨリ identity card ヲ所有スヘキ制度ハ各國必シモ要求セサルモノナルヲ以テ之ヲ絕對條件トセス必要ニ應シ提出スヘキコト然ルヘシト述ヘタル結果本文ヲ「必要ニ應シ identity card ヲ提示スルコト」ニ改ムルコトナレリ全文 C.I.T.E./32 page 6 ノ通リトナレリ

(第四) 佛國及獨逸側ヨリ見本トシテ輸入スルモノ、内寶石類ノ取扱ニ關シ修正案提出セラレタルモ右ハ本條約ノ範圍ニ非ス關稅手續簡捷ニ關スル條約關係ナルヲ以テ同條約ノ處理ニ讓ルコト、ナレリ

(第五) 和蘭側ヨリ第五條第一項後段ノ They ノ場合ノ They ハ旅商及旅商使用者何レヲ意味スルヤトノ質問アリタルニ對シ双方ヲ包マシムルコト然ルヘシトノ結果右ヲ “the said nationals

and their commercial travellers” ト改ムルコト、ナレリ

(第六) 波蘭代表側ヨリ第一項後段ノ“sale”ノ前ニ“public”ナル字句ヲ加ヘ且六行目ノ“producers”ヲ“manufactures”ト改メ以テ外國旅商ヲシテ濫リニ個人的生産者ニ接近セシメサルヲ可トスルノ修正案提示セラレタルカ前者ニ關シテハ別段改ムル必要ナシトノ意見多ク後者ニ關シテハ本件修正ヲ入ルル時ハ商工業者ノミヲ利益スルコト、ナリ不可ナリトノ議論多ク寧ロ其儘トシ且七行目ノ“manufacturers”ヲ改メテ“producers”トシ一切ノ生産業者ハ商人ト等シク賣買ノ自由ヲ得セシムルコト、セリ、尤モ右ハ獨立生産者ニシテ他人ノ爲ニ働ク生産者即勞働者ノ如キハ含マスト認メラレタリ、依テ波蘭ハ此點ニ關シ留保ヲ爲スニ至リタリ

(第七) 十一月九日ノ審議ニ於テ瑞典側ヨリ前記“authorization”ノ問題ノ外旅商ニ對スル課稅問題ニ關シ之カ免除ハ同國ノ困難トスル處ナリト述ヘタル處課稅問題ハ第二委員會側即財政關係委員會側ノ財政專門家ノ出席ヲ俟チテ議スル事トナリ十一月十九日ノ委員會ニ於テ討議シタルカ「ヴェネズエラ」及印度代表側ヨリハ本件ハ寧ロ國民待遇トスルヲ可トスト主張シ英國側ヨリ旅商ノ課稅ニ關シテハ旅商ノ入國ニ際シ licence ヲ與フル意味ニ於ケル課稅ト旅商ニ對スル一般的所得課稅トアル所前者ハ之ヲ免除スヘシ後者ハ相互條約ニヨリテ本國ニ於ケル課稅ト

ノ重複ヲ去ルコト然ルヘシト述ヘ國際商業會議所及國際聯盟財政委員會側ヨリハ旅商ノ課稅免除ハ一般通商條約ニテ既ニ認メラレ居ルノミナラス二重課稅免除ノ問題トシテ廢止スルヲ可トスト述ヘタルカ結局本條第一項後段“Tax or duties”ノ前ニ“special”ナル語ヲ挿入シ且“not payable by national business firms or their representatives”ヲ附加シ以テ旅商夫レ自體ニ關スル課稅ハ國民待遇トスルコト、ナレリ

(第八) 尤モ瑞典側ヨリハ現行外國人旅商ノ滞在ニ基ク特別手數料制度ヲ變更スルハ到底輿論ノ承認セサル處ナルニヨリ右國民待遇ヲ承認スルヲ得スト主張シ同様ノ制度ヲ有スル丁抹、「エストニア」、芬蘭、諾威側ヨリモ之ニ贊シ議論紛糾シタルカ採否ヲ取リタル結果瑞典側ノ申出ヲ認ムルト共ニ右制度ヲ維持スル國ニ對シテハ他ノ締約國ハ本條ノ定ムル旅商手數料ニ關シ何等ノ義務ヲ負擔セサルコト竝ニ單ニ商用視察ヲ目的トシ商買ニ加入セサルモノニ對シテハ此種手數料ヲ賦課セサル旨ノ「プロトコール」ヲ置クコトニ決定セリ、右「プロトコール」全文左ノ如シ

“The levying, in respect of the operations referred to in Article 5, of a special fee based on the length of stay of the foreign trader or commercial traveller shall be permitted to those

of the High Contracting Parties who at present adopt this system, on the understanding that the other High Contracting Parties shall be exempt in relations to these High Contracting Parties, as regards the special fee levied on commercial travellers, from the obligations arising out of the present Convention.

“It is understood that no tax or fee of this nature shall be levied in the case of traders who have no intention of soliciting orders or making purchases”.

(第九) 右「プロトコル」挿入ニ關シ國際商業會議所側ノ意見ニ從ヒ單ニ數ヶ月ノ滞在ニ過キサル外國旅商カ内國旅商ノ一定期間(例ヘハ一年)有效ナル手数料ト同一額ヲ支拂フハ不公平ナリト認メ左ノ如キ一項ヲ「プロトコル」トシテ挿入スルコトヲ承認シタリ、右モ單ニ旅商カ旅商タルコトニ基ク特別手数料ノミニ關シ何等他ノ諸課税トハ關係ナキモノナルコトニ意見一致セリ

“Nevertheless, if the commercial traveller stays only a short time in the country, he shall be liable, as regards the tax or special licence payable by national travellers for one year, only in respect of the amount corresponding, generally speaking, to the number of months which he actually spends in the country.”

(第十) 本條第三項ニ關シ洪牙利側代表ヨリ本項ハ第一條ニモ關係アルコトニ付之ヲ合シテ「プ

ロトコール」ニ置クヘシト主張シタルカ委員會側トシテハ右ハ第七條第二項(f)ニモ關係スル處アルニ付第四委員會側及起草委員會側ニ附託シテ適當ノ條文トスルコト、セリ

(第十一) 以上討議ノ結果トシテ總會ニ提出セラルヘキ報告書ハ C. I. T. E. /32(confirmation 1)ノ通りナリ

第 六 條

(第一) 十一月十二日ノ委員會ニ於テ瑞典側ヨリ同國ニ於テハ一時的の入國ト永久の入國トヲ區別シ前者ハ入國ノ時ノ宣言ニヨリ永久的性質ヲ有スル諸活動ニ從事スルヲ得ス、右ハ第七條トモ關係アル處 “admitted into the territory” ノ意義如何ト質問シ瑞西側ニ於テモ同國ニ於テハ各州ニ依リ居住ノ條件ニツキ異レル制限アリ第二十九條トノ關係モアル處入國ニ付如何ナル條件ヲ附スルモ差支ナキ意ナリヤト質シ日本代表側ヨリ第六條ヲシテ入國ノ時ノ條件ニヨリ無効タラシムルハ穩當ナラスト主張シ經濟委員會側ヨリモ入國ニ當リ各種ノ制限ヲ附スルハ可ナルモ一度入國ヲ許サレタルモノハ本條ニヨル自由ヲ享有スヘキモノナリ本條ハ無條件ニ入國ヲ許サレタルモノノミニ關係シ入國問題ニ付キ討議スルコトヲ避クヘキハ理事會側ヨリモ申入レラレタル處ナリト述ヘ和蘭代表ハ入國ニ際シ條件ヲ附シ得ルトセハ本件條約ハ何等ノ價值ナキニ至

ルヘシ入國條件ハ本條約ニ反セサル範圍ニ止マルヘシト述ヘタルモ更ニ伊國代表ヨリ入國ニ如何ナル制限ヲモ附シ得ルハ第二十九條ノ規定ヨリ見テ明ナリト主張シ特ニ國內勞働市場保護ニ關シ議論續出シタルカ結局原案ニ於テハ充分ナラスト認メ獨逸側ノ申出ヲ入レ本條ヲ分科會ニ於テ討議シ其結果ヲ委員會ニ於テ審議スルコトニ纏リ希臘代表「ポリチス」ヲ議長トシテ同日ヨリ數回分科會ヲ開催シタリ、同分科會ニ於テモ異論續出シテ成案ヲ得ルニ困難ナリシヲ以テ一方委員會側ニ於テハ本條ト關係深キ第七條及第八條ノ審議ヲ進ムルト共ニ分科會ハ其ノ事業ヲ繼續シタルカ十一月十八日ニ至リ成案 C.I.T.E./Com. A/57 ヲ得ルニ至レルヲ以テ同日ヨリ右分科會案文ヲ基トシテ委員會ヲ開催セリ

(第二)「ポリチス」報告者トシテ本案ハ居住職業ニツキ制限ヲ附スル國多キヲ以テ第二十九條ト第六條ヲ合シ第一項ハ第二十九條、第二項ハ第六條、第三項ハ新規ノ規定、第四項ハ六條「ブロットコール」ヲ大體採用シテ作成セルモノナルコト且最終議定書トシテ右第六條ノ規定ニ拘ラス本國際會議ハ各國カ右規定ニ基キ本條約ヲ無効トスルカ如キ制限ヲ附セサルヲ希望ストノ一項ヲ置クコト、セリト説明ス (C.I.T.E./Com. A/20 continuation 2 page 4 参照)

(第三) 委員會ハ大體右分科會案ヲ承認スルニ至レルカ瑞西側ヨリ同案第一項ノ「to travel,

sojourn etc」ノ前ニ「in particular」即チ「notamment」ナル字句ヲ挿入スヘシト主張シ旅行滞在ノミナラス他ノ諸條件ヲモ附シ得ル旨トスヘシト主張シ「ユーゴスラヴ」側モ之ニ贊シタルカ和蘭、獨逸側及國際商業會議所側ヨリ右字句ヲ挿入スルノ不可ナルヲ力説シ更ニ十一月二十三日ノ第二讀會 (C.I.T.E./Com. A/20 continuation 2) (審議) ニ於テモ伊國側ヨリ右字句ノ挿入ヲ主張シタルカ結局本案ハ報告者側ヨリ各國家ノ入國制限ノ自由ニハ何等ノ制限ヲ置クモノニアラスト説明シ採決ヲ取リタル結果第一項ハ報告者案通り可決セラレタリ

(第四) 十一月十八日ノ委員會ニ於テ日本代表側ヨリ本件分科會草案カ第一項ニ入國問題ニ關スル規定ヲ明記スルハ主義ノ問題トシテ承認シ得サルコト入國問題ハ本會議ノ議題外ナリト主張セルニ對シ報告者側ヨリ本項ハ單ニ第二十九條ノ規定ヲ明ニセルニ過キナルコト本項ヲ削除スルコトハ困難ヲ感スル國多キコト且本項ノ規定ハ單ニ事實ヲ記セルニ止マリ何等法律上ノ關係ヲ定メタルニ非ラサル旨ヲ説明シタルカ更ニ我方ニ於テハ十一月二十三日第二讀會ニ於テ主義上不當ナルヲ説明シ且右規定ノ結果本條約殊ニ第七條、第八條、第十條ヲシテ無効タラシムルノ危険アル旨ヲ主張シタリ、尙日本代表側ヨリ第一項中ノ remains free ヲ改メテ reserve its right to regulate the admission of foreigners to its territory, when they make トスルコトヲ主張シ

議長之ヲ承認シタルカ我方トシテハ右變更ノ場合ト雖モ前記ノ立場ヲ維持スル旨ヲ主張シ我方主張ヲ留保シ置キタリ

(第五) 第二項 “as the case may be” ナル字句ニ關シ瑞西側ヨリ右ハ字句曖昧ナルヲ以テ之カ削除ヲ主張シ伊國側ヨリハ危險ナルヲ以テ「プロトコール」中ニ説明ヲ與フヘシト述ヘ議論紛糾シタルカ報告者側ヨリ右ハ單ニ入國ノ條件ヲ附加セラレタル各種ノ場合ヲ意味スルモノナルヲ以テ其ノ各種ノ場合ニ應シ國民待遇ヲ保障スル上ニ於テ必要ナリ一度入國ヲ許サレタルモノハ入國條件ノ如何ニ拘ラス國民待遇ヲ得ヘシトスルニ非ラサルヲ以テ右ハ新原案通リトスヘシト述ヘ第二項ハ之ニ落付キタリ

(第六) 白國代表側ヨリ第四項ノ “public order” ナル字句ハ犯罪ニ基ク追放ニヨル出國ノ外行政手續ニヨリテ追放スル場合ニ起リ個人ノ自由ヲ濫リニ制限スルノ恐アルヲ以テ右ハ白國議會ニ於テ承認セサルヘシト述ヘ且 contractual obligation ノ爲ニ出國ノ自由ヲ阻害セラルルハ不當ナリト述ヘ英國側ヨリハ第四項ハ一九三〇年ノ海牙ニ於ケル國際私法會議ニ讓ルヘキヲ主張シ獨逸側ヨリ第四項ハ公法ニ基キ追放シ得ルノ形式トスヘシト述ヘ波蘭ヨリハ更ニ追放ノ外ニ再入國拒絶ヲモ加フヘシト主張セルカ結局英、獨、伊、白四ヶ國委員ヲシテ調停案ヲ作成セシメ

タル結果委員會ハ contractual obligation ナル字句ヲ削除シ且出國ノ自由制限ハ國法及國際法ノ規定ニ從ヒ正當官憲ニ於テ決定セル場合ニ限ルコト然ルヘシト認メ追放ニ關スル入國ハ寧ロ入國許可ト關聯スル處多キヲ以テ第二項ニ附加スルコトナレリ、以上論議ノ結果トシテ第六條トシテ左ノ案文ヲ作成シ之ヲ本條約ノ何條トスヘキカニ就テハ後日ノ論議ニ讓ルコトセリ

1. Each of the H. C. P. remains free to regulate the admission of foreigners to its territory and make this admission subject to conditions limiting its duration or the freedom of foreigners to travel, sojourn, establish themselves, elect their domicile and move from place to place. These limitations may be imposed either by means of the documents required of foreigners for their admission to the national territory (passport identity card, residence permit, etc.) or through the application of the laws and regulations in force in the country as regards the conditions for exercising the said right.

2. Nationals of any H. C. P. admitted into the territory of another H. C. P. shall enjoy therein, provided they comply with the laws and regulations of that Party, the same freedom, as the case may be to travel, sojourn, establish themselves, elect their domicile and move from place to place, as nationals of the country in question, without being subject to any conditions or regulations other than those to which nationals are subject with regard to each of the said rights, but without prejudice to the police regulations concerning foreigners, the provisions con-

evening the home labour market and the right of expulsion, the exercise of which each of the High Contracting Parties reserves in the manner sanctioned by ordinary usage according to its legislation and the provisions of international law.

3. They may not after admission be subjected to conditions, restrictions or prohibitions incompatible with the other provisions of the present Convention.

4. They shall have the right to leave the territory without let or hindrance unless individually prevented by a competent authority, in conformity with the laws of the country and with international law.

(第七) 佛國側ヨリハ勞働市場取締ニ關スル規定ハ一般的トスルヲ要スルヲ以テ寧ロ分科會案第二項ヲ第六條トシ他ハ第二十九條トスヘシト主張シタルモ右ハ新第六條各項ハ各關連シ居ルヲ以テ分割スルハ妥當ナラスト見ルモノ多カリシヲ以テ佛國側要求ノ一部ハ第二項ニ挿入セラレタルニモ不拘此點ニ付留保ヲナシタリ

(第八) 尙十一月十八日ノ會議ニ於テ支那側代表ハ現行不平等條約ノ基礎ニ立ツ限リ右第二項ヲ不平等條約締約國ニ對シ許容シ能ハサル旨宣言セリ

(第九) 以上討議ノ結果トシテ總會ニ提出スヘキ報告書ハ C. I. T. E. /32 (continuation 2) ノ通りナリ

第七條

(第一) 十一月十三日ノ委員會ニ於テ本條第一項ニ關シ瑞典代表側ヨリ同國ニ於テハ外國人ノ企業ニ從事スルモノハ三ケ年間引續キ供託金ヲ納付シテ許可ヲ受クルヲ要シ且公開ノ集會ヲ爲スニハ租稅ヲ支拂フヲ要スル處右ハ本條ト牴觸スルヤ否ヤヲ質シタルカ許可ヲ必要トスル點ニ關シテハ必シモ本條ニ牴觸セサルモノナルコト且供託金及納稅ノ點ニ關シテハ十一月十九日ノ會議ニ於テ右カ單ニ財政的意義ヲ有スルモノナルニ於テハ止ムヲ得サルヘシトテ瑞典側ノ留保ヲ認メタリ

(第二) 英國側ヨリ第七條(a)中ニ「通信及運輸事業」ヲモ附加スヘシト述ヘ和蘭ヨリハ船舶業ヲ附加スヘシト述ヘタルカ右ヲ併記スル時ハ意義制限的トナル虞アリト說出テ結局 “in general any transaction of an economic character” 中ニハ何レモ含マルモノナルコトヲ報告書中ニ記載スルコトトナレリ

(第三) 「ラトビア」側ヨリ同國ニ於テハ保險銀行等ハ內國人ニ留保セラレ居リ其ノ株式會社ノ取締役支配人等ハ內國人タルコトヲ要スト説明セルニ對シ前者ハ第七條第二項後者ハ第十六條ニ於テ審議スルコトトシ延期セリ(第十七及第二十參照)

(第四) 和蘭代表側ヨリ本條第一項中ノ“allowed to established themselves”ハ同國トシテ不要ニ付削除スヘシト述ヘ且第一項(b)中ノ“identical” with those “identical” ナル語ハ之ヲ“same”トスルコトヲ提議シタルニ對シ前者ハ入國ニモ關係アルヲ以テ之ヲ削除セス寧ロ“in accordance with Article 6 of the present Convention”ヲ附記シテ字義ヲ明白ニスルコトナリ後者ニ關シテハ之ヲ承認シ“the submission of the same titles or guarantees as those etc”トスルコトナレリ、尙此點ニ關シ後ニ述フル第二項(a)以下ノ審議ノ結果“if necessary subject to reciprocity”ナル字句ヲ“or recognised as being equivalent”ノ後ニ挿入スルコトナレルカ右ハ或種職業ニ關シ各國カ“identical or equivalent titles”ヲ要求スル以上當然ノ必要ナルノミナラス内國民ニ留保セル職業ヲ外國人ニモ與フル場合ニ必要ナリト主張セラレタル結果ナリ

(第四) 本條第一項「プロトコール」ニ關シ伊國側ヨリ「プロトコール」第三項第一段ニ「一時」のタルト永住のタルトヲ問ハス」トノ字句ヲ挿入スルコトヲ提議可決セラル

(第五) 日本側ヨリ修學及教育ノ自由ヲ本條ニ包含セシムル目的ヲ以テ「プロトコール」ニ於テ右ヲ包含セシムヘキ旨記載セシムルヲ主張シタルニ對シ獨逸、和蘭、波蘭之ニ和シ實業ノ實習ヲ修學スルノ自由ヲ有セシムルコトハ必要ナリト述ヘタルカ奧國及白國側ニ於テハ本條ニ包含

セシムルハ妥當ナラス且外國人ヲシテ内國人同様修學ノ自由ノ待遇保障ハ困難トスル旨ヲ述ヘ結局其儘トナリタリ

(第六) 「ラトビア」代表側ヨリ「プロトコール」第三項第一段ヲ削除スヘキ旨ヲ主張シタルカ伊國側ヨリ本條約ハ外國人ノ地位一般ニ關シテ規定シタルモノナルヲ以テ之カ削除ハ不可ナリト述ヘ經濟委員會側ヨリハ本項ハ各國主張ノ中間ヲトリテ起案シタルモノナリト述ヘ結局報告書中ニ右經濟委員會ノ見解ヲ附記シ置クコトニ決シタリ

(第七) 本條第二項ニ關シ瑞典側ヨリ瑞典ニ於テハ公有地ニ於ケル狩獵ハ國民ニ留保シ居ルヲ以テ右ヲ本條第二項ノ例外トシ度キ旨申述ヘタルニ對シ右ハ同國ノ特種事情ニ基クヲ以テ同國ノ要求タル外人ノ經營スル材木流筏ニ對シ特別保證金ヲ提出スルヲ要スル件ト共ニ一般留保ヲ置キ差支ナキコトト決定セリ

(第八) 獨逸代表側ヨリ十一月十三日ノ會議ニ於テ本條第二項ノ構成形式ハ一般的ニ見テ妥當ナラス本項ノ如キ例示の形式ニハ賛成スル能ハス本項ノ如キ形式ナルニ於テハ獨逸政府トシテハ審議ニ深入リスルヲ避クヘキ旨訓令ヲ與ヘ居レリト論シ十一月十四日ノ會議ニ於テ獨逸代表ヨリ本項ヲ削除シテ三ヶ條トナシ第一條ハ特定職業(公務業及自由職業)ハ第一項ノ例外トシテ

各國ノ制限自由ナルコト尤モ右職業ヲ開放スル場合ハ國民及最惠國待遇ヲ與フヘキコト第二條ハ專賣及國家管理ニ基ク諸企業ハ自由ニ制限シ得ルコト第三條ハ海運業、航空業、保險業等ハ國內法又ハ國際法ニ依ルコトノ修正案 (C. I. T. E. / Com. A/63) ヲ提出シテ其ノ説明ヲ加ヘ第七條ノ一般の留保事項トシテハ右ノ如ク一般の綜合的ニ規律スル案文ヲ必要トスヘキ旨ヲ力説シタリ、右ニ對シ經濟委員會側及智國、白國、佛國、洪牙利等ノ諸代表ヨリ獨逸提案ハ例外範圍ヲ餘リニ狭ク且嚴格ニシタルモノナルコト事實上殊ニ第三條ハ綜合的ニ非ラサルコト「國家ノ安全」ニ關係深キ諸企業ヲ包マサルコトノ非ナルコト等ヲ指摘シテ之ヲ批評スル處アリタルカ獨逸代表側ヨリ經濟委員會草案ニヨル時ハ範圍廣過キルノミナラス鑛山及水力電氣事業ノ如キヲ除外例トスルハ一般技術家ノ活動ヲ制限スルモノナリ、殊ニ主義上ノ問題トシテ例外事項ヲ多カラシムルハ賛成シ得サル所ナリト述ヘ更ニ午後ノ會議ニ於テ經濟委員會側ヨリ本條約草案ハ聯盟規約第二十三條(ホ)號ニ基キ通商衡平待遇ヲ基調トシテ作成セルモノニシテ特別例外ヲ認ムルハ當然ナリ獨逸案ノ如キ經濟活動ニ制限ヲ與フル如キ形式ノ不可ナルコトヲ主張シ和蘭ハ同國議會ノ承認ノ關係ヨリ草案ノ形式ヲ變更スルハ不可ナリト論シ英國側ヨリハ無條件最惠國待遇ノ保障ヲ與フルコト必要ナリト述フル等議論百出ノ有様ナリシヲ以テ議長側ヨリ原案及

獨逸案ノ何レヲ採用スヘキヤ又例外事項トシテ如何ナル事項ヲ加減スヘキヤニ付分科會ヲ開キテ討議スヘシト述ヘ伊國代表「ビロッチ」氏ヲ報告者トシテ其ノ審議ニ當ラシムルコトトセリ

(第九) 右分科會ハ數回ノ會合ヲ重ネ十一月十九日ニ至リテ報告書竝ニ草案ヲ委員會ニ提出シ (C. I. T. E. / Com. A/63) 報告者ヨリ一應ノ説明ヲ加ヘタルカ右草案ハ其ノ形式ニ於テ經濟委員會原案ノ如ク國家ヲシテ例外事項ニ關シ自由ニ制限ヲ加ヘ得ルカ如キヲ避ケ本條第二項前段トシテ單ニ例外事項ニツキ一項ノ原則ヲ適用セサル旨ヲ規定セルモノナリ

(第十) 而シテ右分科會ニ於テハ各國ノ提案竝ニ前記各國ノ主張ヲ考慮シ右草案ヲ作成シタルモノナルカ草案ノ大要ハ前記第四ノ如ク本條第一項(b)ニ相互主義ノ原則ヲ加ヘ第二項(a)ニ於テ“of a judicial, administrative military or other nature”ナル字句ヲ括弧内ニ入レテ右ノ例示的ナルコトヲ明ニシ且國家權力ノ發動ニ關係アル職務ト簡單ニ案文ヲ書キ且重大ナル變更トシテ“or the holder of which are chosen either by the state or by administrations under the authority of the state and endowed with judicial personality”ナル一句ヲ插入シテ總テノ公共事務特ニ公吏ノ職務ヲ含マルル意ヲ表ハシタリ(案文ハ C. I. T. E. / Com. A/63, page 8 以下參照)尤モ此點ニツキテハ第十二以下説明ノ如ク十二月二十一日以後ノ討議經過ニ願ミ administration

under the authority of state ヲ最モ廣義ニ解スルコトニ決定シタリ、從テ國家中央機關並ニ地方自治團體任命ノ諸官公吏ハ勿論英國ニ於ケル郵便局伊太利ノ鐵道關係ノ事務員、州「コミーシ」等ノ關係諸員宗教、教育等ニ關スル公共營造物關係事務員等總テ含マルルコトニナレリ、然モ此點ニツキテハ第一讀會ニテ議論盡キス後述ノ通り修正セラルルニ至レリ（第十二所說參照）

更ニ分科會案第二項(b)ニ於テハ意義ヲ明白ニシテ reserved transport ナル字句ヲ削除シ且漁業ニ準セラルル領海諸產業モ附加シタリ、又(h)項ニ於ケル鑛山及水力電氣事業ヲ存置スヘキヤ否ヤ又保險業ハ第七條第二項ノ除外事項トスヘキヤ否ヤハ之ヲ本委員會ノ審議ニ委シタルモノナリ尙右分科會案ニ對スル本委員會討議ハ左ニ述フル通りナルカ本件ハ最モ重要事項ナル故本分科會案ヲ基トシテ一度第一讀會ニ於テ討議後報告者ヨリ C. I. T. E. / Com. A/20 (continuation 4) ヲ作成シテ之ヲ第二讀會ニ提出シ更ニ之ヲ基トシテ討議ヲ續ケ結句 C. I. T. E. 32 (continuation 5) ヲ作成シテ總會議ニ提出スルニ至レル次第ナリ

(第十一) 十一月二十一日ヨリ分科會報告ヲ基トシ其ノ原案ニ基キ審議ヲ進メタルカ同日土耳其側ヨリ分科會案本條二項(a)中 Other nature 中ニ political nature ノモノ入ルヤヲ質シ報告

者ハ右ハ當然含マルルモノト説明シタリ

(第十二) 佛國側代表ヨリ分科會案本項(a)ニヨレハ地方團體ノ使用スル雇人ノ如キモ除外事項トスル形ナル故經濟委員會原案可ナリトシ議論多カリシカ奧國代表側ヨリモ國營ノ Corporation 中ニハ法人格ヲ有セサルモノアリ然モ事業ノ性質トシテ(a)項中ニ加ハラシムヘキモノアルニ付英文ヲ多少變更スルヲ要スト主張シタル結果 endowed with judicial personality ノ前ノ and ヲトリ even those are ヲ加ヘ更ニ和蘭代表側ヨリ現在同國ニ於テハ主權ノ存在カ國家ニアリヤ Commune ニアリヤ議論多ク又宗教ハ國家ノ支配下ニアルヤ否ヤニツキテモ議論多キ故國家ニ主權アリト前提シテ起草セル案文ニハ困難多キ故右ノ趣旨ニ非ラサル旨ヲ報告書中ニ記載スヘキヲ主張シタルアリ旁々案文(a)ノ終リニ and irrespective of whether they are of a general or local territorial nature ヲ附加スルト共ニ和蘭側ノ主張ヲ容認シタリ

(第十三) 本條第二項(a)ニ關シ十一月二十二日ノ會議ニ於テ埃及及波蘭側ヨリ新聞社ノ社長、仲介人、教師、藥劑師等ノ業務ハ特別ノ責任ヲ有スルモノナルニ付右カ包含セラルル様 “similar” ナル文字ヲ削除スヘシト述ヘ採決ノ結果多數ニテ承認セラレタルカ更ニ波蘭及土耳其側ヨリ寧ロ “public interest ノ見地ヨリ” ナル字句ヲ挿入シ且「國法ニ從ヒ特別ノ責任ヲ有スルモノ」ト

一般的ニ廣キ除外事項ト爲スヘキヲ主張シタリ、右ニ對シテハ報告者側ヨリモ獨逸、和蘭、日本等ノ代表側ヨリ右ハ餘リニ國家ノ自由ヲ大ナラシムルモノナリト説明シタルモ採決ノ結果右提案多數ニテ可決セラレタリ

(第十四) 本項(c)ニ關シテハ塙國側ヨリ government undertaking not constituting monopoly モ附加スヘシト述ヘタルカ右ハ寧ロ(d)ニ含マルル問題トノ説明アリ、右ニ對シ伊太利側ヨリ(d)ノ意味ハ國家企業ト同一私人企業カ外國人ニテ行ハルル場合國家企業ノ存在ヲ理由トシテ右私人企業ノ自由ヲ制限スルヲ得ルヤヲ質問シ之ニ對シ報告者ヨリ(d)ハ國家企業ノ特權及之ニ從事スル人ニ關シテ外人ヲ排除シ得ルニ過キス例ヘハ印刷局ノ如キヲ國家カ營ムトモ之カ爲私人印刷業ヲ制限スルヲ得サルモノナリト説明シ右ノ意義ニ(d)ヲ解スルコトニ意見一致シタリ

(第十五) 本項(f)ニ關シ英國側ヨリ現行「スコットランド」ニ行ハルル捕鯨業ハ之ヲ外人ニ禁スル處右ハ本項ニ入ルヤノ提議ニ對シ異議ナク之ヲ承認シ十一月二十三日ノ會議ニ於テ土耳其側ヨリ“internal service in ports”中ニハ、roundstead 及海岸ニ於ケル各種ノ業務ノ外 tonnage 及海難救助事業等モ包含セシムヘシト提議シ右ヲ認メタリ

(第十六) 塙國及洪牙利代表側ヨリ(b)中ノ「沿岸貿易」中ニハ「河川」殊ニ「ダニューブ」河沿岸

貿易ヲ含マシメサルコトヲ主張シ議論紛糾シ瑞西側ヨリハ湖水ノ貿易モ除外スヘシト述ヘタルカ更ニ十一月二十六日ノ會議ニ於テ本件國際河川ニ特別利害ヲ有スル諸國相寄りテ調停案ヲ作成スルコトナレルカ「ルーマニア」側ヨリ反對アリ旁々適當案文ヲ作成スルコト能ハサリシカ十二月二日ノ會議ニ於テ結局報告者側ヨリ二案ヲ提出シ(C. I. T. E. /Com. A/82) 大體其ノ一案タル本條ノ規定ハ現行河川、湖水貿易ニ關スル國際條約ヲ何等阻害セストノ「プロトコール」ヲ第七條ニ附加スルコトトセリ

(第十七) 「ベネズエラ」及「ラトビア」側ヨリ銀行業ニ關シ自國人ニ留保スル處アルニ付除外事項中ニ右ヲ加ヘタキ旨申出アリタルカ右ハ今日ノ經濟狀態ヨリ見テ除外事項トスルハ餘リ除外事項ヲ大ナラシムルモノナリトノ主張出テ結局右關係國ハ其ノ法規ノ關スル限り留保シ得ルコトヲ認メタリ

(第十八) 十一月二十三日ノ會議ニ於テ日本代表側ヨリ本邦ニ於テハ航空事業尙幼稚ニシテ從テ右ニ關スル法規モ尙充分ナラス且本件ニ關シテハ一九一九年國際條約ニ於テ特定事項例ヘハ沿岸貿易ノ如キハ除外サレ居リ殘サレタル問題ハ對外航空ノミノ問題ニシテ然モ對外航空ニツキテモ本案ノ(g)ニ於テハ航空機上ノ役務ハ除外シ居リ結局對外貿易ノ一點ノミカ殘サレ居ルニ過

キサル故寧ロ航空事業ヲ一般的ニ本條ヨリ除外スルコト然ルヘシト述ヘ和蘭側ヨリモ同様ノ申出アリタルカ結局報告者側ヨリ一般的ニ除外事項ヲ擴張スルモノナリト説明シタル結果十一月二十六日ノ會議ニ於テ「プロトコール」中ニ本條ハ何等航空ニ關スル國際條約ヲ阻害セストノ一項ヲ附加シ除外セサルコトニ議纏リタルカ我方トシテハ本件ハ尙總會議ニ於テ討議スルコトトセリ

(第十九) 白耳義側ヨリ武器及軍需品 war material 製造事業モ除外事項トスヘシト主張シ十一月二十六日ノ會議ニ於テハ更ニ佛蘭西及「ユーゴスラヴ」兩國ヨリモ國ノ vital interest ニ關スル事業ヲ除外スヘシト主張シタルカ十二月二日ノ會議ニ於テ報告者側ヨリ右ノ如キ文字ニヨル時ハ本條約例外ノ範圍ヲ餘リニ廣クスルヲ以テ不可ナリト説明シ結局(j)トシテ單純ニ arms and munition warノ製造業ヲ除外例トスルコトナレリ、尙和蘭側ヨリ同國ノ獨占利權會社ノ經營スル鐵道電氣事業、佛國側ヨリハ利權(concession)ニ關スル事項ヲ除外例トスヘキコトヲ主張シ右ハ國家ノ獨占事業ニ準セラルヘキ性質ヲ有スルノ理由ニヨリ結局(i)トシテ右ヲ除外事項トスルコトニ決定セリ

(第二十) 保險業ニ關シテハ「ラトビア」、希臘、土耳其、「ボルトガル」其他諸國ヨリ其ノ國法

上ノ理由ニヨリ或ハ監督ノ點ヨリ之ヲ除外事項トシ度キ旨申出アリタルヲ以テ關係國側ヲシテ分科會ヲ作成シ案文ヲ作成セシメタリ、十一月二十八日ノ會議ニ右案文提出(C. I. T. E. / Com. A/78)セラレタルカ獨逸、佛蘭西等ノ諸代表ヨリ現在ノ經濟狀態トシテハ右ハ之ヲ承認シ得サル旨ヲ力説シ保險會社關係トシテハ第十六條ニ規定アリ又個人ノ場合トシテモ保險業者ノ積立金監督等ハ入國條件トシテ處理シ得ルヲ以テ除外事項トスルヲ要セスト述ヘタルカ和蘭側ヨリ個人ノ場合ニ於テ詐欺等ノ場合モアリ之カ監督ハ會社ノ場合以上重大ナリト述ヘタル結果再ヒ分科會ヲ開キ C. I. T. E. / Com. A/80ヲ作成シテ討議ヲ重ネ其ノ結果個人ノ保險業ハ之ヲ(k)トシテ除外事項トシ會社ニハ及ハサルコトニ決定シタリ、尤モ英國、伊太利及智國等ヨリハ會社ノ經營スル保險業ニテ所謂社會保險(產業生命保險、產業傷害保險、老廢病疫保險等)ハ之ヲ內國人及內國會社ニ留保スヘキコトヲ主張シ委員會ハ右ヲ認メテ第十六條ノ「プロトコール」トシテ挿入スルコトトセリ(最終案文、C. I. T. E. 32/ Continuation a page 11 參照)

(第二十一) 尙土耳其側ヨリハ學校及病院等ノ經營ニ關シテモ除外事項トセラレタキ旨申出タルニ對シ十二月二日ノ委員會ハ本條第一項(b)或ハ第二項(a)ノ規定ヲシテ滿足スヘキコトニ決定セルヲ以テ同國ハ此點ヲ留保スヘキ旨述ヘタリ

(第二十二) 獨逸側ヨリハ鑛山及水力電氣事業ヲ削除スヘキ旨ヲ主張シタルカ印度其他各國ヨリ反對アリタル結果右ヲ除外事項中ニ存置スルコトト決定セラレ又瑞典側ヨリ鑛業權ヲ物權トシ居リ右ハ外國人ニ許ササル旨ヲ述ヘタルカ右ハ第十條ノ討議ニ延期スルコトトセリ

(第二十三) 以上討議ノ結果トシテ第七條ニ關シテハ C.I.T. E. 32 (continuation 9) 記載ノ如キ報告書竝ニ附屬トシテ本條ノ修正案ヲ本會議ニ提出スルニ至レリ、本條議定書ニ關シテハ前記説明セルモノノ外十一月十三日ノ會議ニ於テ「フィンランド」「ラトヴィア」等ノ代表側ヨリ同國ニ於テハ外國人ハ其ノ職業ヲ營ムニ付許可主義トナリ居ル故右ハ本條ト牴觸スルニ付留保シ度キ旨申述ヘ又委員會ハ伊太利側ヨリノ申出ヲ入レテ前記第四ノ修正ヲ認メ且智國側ノ申出ヲ容レテ佛文 “se prononcer” ヲ “statuer” ト修正スルコトトシ結局 (continuation 9 page 23 以下) ノ報告書ヲ本會議ニ提出スルコトナレリ

第八條

(第二) 以上ノ如ク第六條及第七條ノ討議意外ニ長引キタル爲本委員會ハ右條約ニ關スル分科會ノ協議中更ニ十一月十五日ヨリ第八條ノ審議ヲ開始シタルカ同日ノ會議ニ於テ瑞典側ヨリ本條第五行目 “fit and proper” ノ次ヘ文意ヲ明ニスル爲 “without being subject to the restrictions

other or stricter than those authorized by the present convention” ヲ挿入スヘシト主張シ右ハ必要ト認メ起草委員會ニ附託シ適當ナル字句トシテ挿入スルコトナレリ

(第二) 次ニ智國側ヨリハ本條ハ本件條約案ノ基礎タル國民待遇以外ノ問題ナル故削除スヘキコト伊太利側ヨリハ公益ノ必要アル場合ハ一時的制限ヲ置キ得ルコトトスルコト等ヲ主張シ削除論多カリシカ和蘭側ヨリ本條ニ規定スル位ノ範圍ノ經濟活動ハ許サルヘキモノナリ且全條約ノ中樞條文ナリト主張シ本條存置ニツキ採否ヲ決シタル處少數ノ差ニテ主義上之ヲ存置スルニ決シタリ

(第三) 埃及側ヨリハ同國ニ活動スル外國會社ハ其ノ資本ノ一部及取締役ノ一部ハ埃及人ノ所有スル處ナルヲ要スルニ付本條ハ右規定ヲ阻害セサルモノナルコトヲ報告書中ニ加フヘキコト且 “to employ in an administrative or technical capacity” ヲ削除シ以テ國內勞働ノ保護ヲ全クセサルヘカラスト主張シ智國及波蘭側ヨリモ本條ハ技術ヲ輸出スル國ニハ可ナルモ輸入國ニ於テハ智的勞働乃至一般勞働市場ニ脅威ヲ與ヘラルルニ付入國ト關係ナキ様修正スヘキヲ主張シ獨逸側ヨリハ本條ハ何等勞働市場ノ問題ト關係ナシト駁論セリ、十一月十六日ノ會議ニ於テ更ニ埃國代表側ヨリ同國ハ目下智的勞働者ノ失業ニ苦ムヲ以テ本條ノ「プロトコール」ニ於テ第七

條「プロトコール」第三ノ二項ノ如キ趣旨ノ「プロトコール」ヲ挿入セサルヘカラスト説キ「ブルガリア」、智國、波蘭、英國、羅馬尼、土耳其等之ト同種ノ主張ヲ爲シ議論紛糾シタリ、依テ議長側ヨリ上記ノ議論ニ基キ作成セル本條約第八條附屬「プロトコール」第一項ニ關スル新案文ヲ提示シ右ヲ基トシテ討議スルコトヲ求メタリ、右案文ニヨレハ第一項ニ於テ取締役、企業中心人物ノ任命ハ締約國側ノ自由ナルコト第二項ニ於テ産業未發達ノ國ニ於テハ右人物以外ノモノニ付外國企業家ハ内國人ヲ使用スルヲ要スルノ制限ヲ加ヘ得ルコトヲ定メタルモノナルカ提案全文左ノ如シ

Proposal for Article 8.

Leave Article 8 and paragraph 2 of the Protocol to Article 8 as printed in the Brown Book, but substitute the following for paragraph 1 of the Protocol to Article 8:—

“1. The High Contracting Parties hereby agree not to avail themselves of the right reserved to them to refuse admission to, or to expel, a foreigner with the intention of rendering inoperative the guarantees laid down in this Article, it being fully understood that the admission of persons to be engaged in the businesses of foreigners, in particular as directors, managers and chief technical officers or persons of like status, may be absolutely essential not merely to the conduct but even to the establishment of such businesses.

It is however agreed that in countries whose commercial or industrial conditions are undeveloped, or in other countries with regard to nascent industries, nothing in Article 8 or in the preceding paragraph of this protocol shall be regarded as preventing the imposition of regulations, so long as such conditions render them necessary, requiring the employment of a reasonable proportion of nationals in positions other than those referred to above as essential, provided the same rules apply to the businesses of nationals”.

右案文ニ對シ濠洲ヨリハ産業未發達ノ國ノ意義明ナラスト述ヘ波蘭、智國ヨリハ取締役及企業中心人物ノ意義ヲ明ニセサルヘカラスト主張シ經濟委員會、和蘭、獨逸等ノ代表ヨリ諸關係國ハ企業中心人物ノ選定ニハ自由ヲ許サルヘキモノナルコト勞働市場ノ關係ハ二十九條ノ規定ニ委スヘキコト本條ハ勞働市場ノ問題トハ何等關係ナキ事項ナルコトヲ主張シ議論盡キサリシヲ以テ更ニ同日ハ土曜日ナルニモ不拘午後會議ヲ繼續シタルカ洪牙利側ヨリハ新興國トシテハ本案文モ認メ得サルコト瑞西側ヨリハ企業經營者ト雖モ同國ノ勞働法ノ適用ヲ受クヘク本條ノ趣旨ヲ認ムル時ハ瑞西ノ如キ多數ノ外人多キ國ニ於テハ國家崩壞スヘシト迄極論シタリ

獨逸、和蘭側ヨリハ資本ノ活動ノ自由ノ點ヨリ見ルモ在外企業ノ名聲及信用ノ點ヨリ見ルモ第八條ノ趣旨ハ是非共存置シ度旨ヲ述ヘ日本代表側ヨリモ本條ニ關聯シテ勞働市場保護ヲ過重視

スヘカラサルヲ説キ更ニ在外企業ノ爲責任者選定ノ自由ニツキテハ一種ノ保障ヲ與ヘラルヘキヲ主張シタルカ經營中心者ヲ何處ヨリナリトモ自由選定シ得ヘシトスルノ點ニ關シテハ之カ否認ヲ主張スルモノ多ク議論盡キサリシヲ以テ更ニ十一月十八日討議ヲ繼續スルコトナレリ十一月十八日ノ會議ニ於テハ更ニ議論紛糾シタリ、「ルーマニア」側ヨリ之等討議ノ結果ニ基キ新案文ヲ提出シタルモ (C. I. T. E. /A. G. 参照) 更ニ纏ラス結局議長側申出ニヨリ分科會ヲ作成シ上記議論ヲ基トシテ案文ヲ作成セシメタル後討議ヲ重ヌルコトニ決シタリ

(第四) 右分科會ハ數回集合ヲ重ネタルカ右分科會ニ於テハ(一)第六條ニ規定セラレタル入國問題ハ第八條ニヨリテ何等阻害セラレサルコト尤モ本條ヲ無効トスルカ如キ手段ヲ取ラサルコトノ勸告案ヲ最終議定書ニ置クコト(第六節第二所說參照)(二)右ノ結果トシテ自由選定ノ範圍ニツキテハ取引又ハ企業ノ經營者ハ勿論含マシムルトスルモ其ノ從屬幹部員(支配人及技術者)及共同經營者ヲ含マシムルヤ否ヤニツキテハ說分レ大體企業運用ニ必要ナル從屬幹部ヲ含マシムヘシトノ傾向多カリシモ其ノ案文ニツキ說分レタル爲案文トシテハ取引又ハ企業ノ經營ノ爲ノミノ人員ヲ自由ニ選定ヲ爲シ得ルコトニ限定セラレタルコト(三)右ノ結果トシテ原案第八條附屬「プロトコール」(1)ハ之ヲ削除スルコトニ大體議纏マリ十一月二十五日ニ至リテ C. I. T. E.

/Com. A/71ノ如キ報告書ヲ作成シテ之ヲ委員會ニ提出シタリ

(第五) 十一月二十五日ヨリ右報告書ヲ逐次審議シタルカ智國側ノ申出ニヨリ報告書第八項ニ勞働市場ノミナラス上級俸給者市場保護モ目的トセルモノナルコトヲ記載スルコトヲ主張シ承認セラレタリ

(第六) 日本側代表ヨリ本報告書中ニ少數者ノ意見ヲ示ササルカ右ハ此場合トシテ重大ナル意味ヲ有スルニツキ記入ヲ主張シ和蘭側代表右ニ賛シ左ノ字句ヲ第八項中ニ附記スルコトナレリ

Sur ces points, certaines délégations ont insisté sur la nécessité de maintenir la règle telle qu'elle est contenue dans l'avant-projet de convention, en vue de ne pas entraver l'entreprise étrangère sur le territoire des II. P. C.

(第七) 獨逸側ヨリ本報告書ノ條文ニ對シ被選定者ノ範圍ヲ廣クスルコトヲ主張シ和蘭モ本條文ニヨレハ第八條原案ヨリモ改惡セラレ在外企業又ハ取引ノ爲數人ノ信用アル責任者サヘ選定シ得サルハ承認シ得スト述ヘ獨、和、丁三國共同修正案 (C. I. T. E./Com. A/75) ヲ提出シ自耳義側ヨリモ分科會條文ヨリヤ廣キ範圍即分科會案ノ “such person” ノ前ニ “together with collaborator” ヲ附加スル修正案ヲ提出シタルカ獨、和、丁三國案ニ對シテハ再ヒ智、波蘭、瑞

西、印度、伊太利等ヨリ反對説出テ結局採否ヲ謀リタル結果右ハ否決セラレタリ、又白國修正案ニ對シテハ波蘭側ヨリ白國修正案ヲ更ニ修正シテ「右人物カ其ノ國內ニ於テ發見シ得サルニ於テハ」ナル條件ヲ附加スヘキヲ主張シタルカ白國修正案及右波蘭修正ヲ加味セル白國修正案何レモ可決セラレタリ

(第八) 依テ十一月二十六日ノ會議ニ於テ和蘭側ヨリハ再ヒ右波蘭修正案ヲ再議ニ附シ度旨申述ヘタル結果委員會ハ右波蘭案ヲ取ルヘキヤ分科會原案ヲ取ルヘキヤヲ採決シタル處波蘭修正案可決セラレタリ依テ和蘭代表側ヨリ本案ノ如キ制限多キ條文ヲ含ム條約ハ到底調印シ得スト述ヘタリ

(第九) 以上ノ波瀾ヲ經テ委員會ハ C. I. T. E. / Com. A/71 ニ上述ノ修正ヲ加ヘタル報告書ヲ總會議ニ提示スルコトナレリ

第九 條

(第一) 上記ノ如ク第一委員會ノ審議ハ難問多ク時日ヲ要シタルヲ以テ第九條乃至第十一條ハ豫メ法律家専門小委員會ノ下審議ヲ爲サシメ其ノ報告ニ基キ審議ヲ重ヌルコトナリ十一月二十一日來數回右小委員會ヲ開催シタリ、第九條ニ關スル右小委員會報告書ハ十一月二十六日ニ至

リ提出セラレタルヲ以テ同日之ヲ討議スルコトナレルカ右小委員會報告書ノ内容ハ C. I. T. E. / Com. A/77 ノ通りナルカ其ノ要領ハ大體原案ノ趣旨ヲ明白ナラシムルニアリ、即(一)本第九條第三項ノ規定ハ之ヲ正確ニスルニハ尙充分ナル規定ヲ必要トシ且國際條約ノ關係モアルニ付削除スルコトトシ單ニ「プロトコール」ニ移シテ國際條約又ハ國內法ノ規定ニ委シタルコト(二)第一項ノ目的トスル所ハ其ノ享有權利ノ内容及範圍ノ問題ニ非ラスシテ身體財產ノ保護及右ノ爲正當官憲ニ出訴シ得ルコトニアル處此點原案ニハ明白ナラサル虞アルニ付之ヲ書キ改ムルコトトシ數回ノ修正案提出セラレタルカ餘リ原案ヲ變更スル時ハ反對論多カルヘキヲ以テ結局原案ヲ多少修正シ字義ヲ明白トスルコトトシ(三)第二項ヲ修正シテ第一項ノ原則ニ合致セシメ且出訴ノ自由ノミナラス保護請求權ヲモ確保スルコトトセルコト等ヲ主眼トセルモノナリ

(第二) 右報告書竝ニ其ノ附屬案文ニ對スル委員會審議ニ於テ洪牙利側代表ヨリ外人ノ能力ニ關スル本國法ハ何等國民待遇ナル字句ノ爲ニ阻害セラレサルコトヲ示ス爲右附屬案文第一項ニ關シ右報告書ニ示サレタル修正案ノ方ヲ承認スヘシト主張シタルモ否決セラレ報告書通りニ決定セラレ更ニ原案第九條「プロトコール」第二項ハ削除スヘシトノ議論アリタルモ結局字句修正ノ上其儘存置スルコトニ決定シタリ

(第三) 從テ本條ニ關シテハ分科會ニ於テハ議論多カリシモ委員會トシテハ大體 C.I.T.E./Comm. A/77 ノ通り承認シ之ト略同様ノ報告書ヲ總會議ニ提出スルコトニ決シタリ

第十條

(第一) 本條ハ前記法律小委員會ノ審議ヲ經ル暇ナカリシヲ以テ十月二十六日之ニ對スル委員會ヲ開催シタルカ和蘭代表側ヨリ本條第一項ニ關シ經濟委員會原案ノ書方ニテハ國際私法上ノ關係タル本國法其他ノ適用ヲ阻害スルカ如ク見ユルニ付之カ修正ヲ申出テ結局書方ヲ改メテ shall be treated on a footing of equality トシ實質的國民待遇ヲ保障スルコトトセリ

(第二) 日本代表側ヨリ patrimonial right ノ範圍明白ナラス且本邦ニハ右ノ如キ特定セル權利ヲ認メ居ラサルヲ以テ之ヲ削除スルカ又ハ明白ナル意義ヲ與ヘシムルヲ要スヘキ旨主張シ洪牙利側ヨリモ本項ノ書方惡ク國際私法ノ問題ニ觸ルル虞アルヲ以テ “placed on terms…… patrimonial right” 迄ヲ削除シ “shall have the right of acquiring……” トスヘキ旨ヲ主張シ埃及側之ニ和シタルモ少數ノ差ニテ否決セラレタリ、依テ洪牙利側ニ於テハ更ニ十一月二十八日ノ會議ニ於テ更ニ本條約ハ何等他條約ニシテ本條約以上充分ニ權利ノ得喪ヲ規定スルモノヲ阻害セストノ「プロトコール」ヲ插入スヘキヲ主張シタルモ否決セラレタリ、從テ我方ノ主張ハ委員會トシテ

認ムル處トナラサルニ付總會議迄我方ノ立場ヲ留保セリ

(第三) 右ニ關聯シ十月二十六日ノ會議ニ於テ埃及側ヨリ草案括弧中ニ記載スル事項ハ例示的ナルノミナラス之カ爲ニ國內法ニ制限ヲ與フル恐アルニヨリ削除スヘシト主張シ右可決セラレタリ

(第四) 「ルーマニア」、土耳其、丁抹、瑞典、諾威、「フィンランド」、「エストニア」、「ラトビア」洪牙利等ノ代表ヨリ土地所有ニ關シ全國ノ耕作地、特定地等ヲ一部又ハ全部外人ニ禁止シ居ル關係モアルヲ以テ現行法規ノ關スル限り例外ヲ認メ度旨主張シタルカ本邦及各國之ニ對シ例外規定ニ反對シ單ニ留保ヲ認メ得ルコトニ決シ且右留保ノ諸國國民ニ對シテハ各締約國ハ本條ニ基ク義務ヲ免セラルヘキ旨ノ規定ヲ置クコトニ決シタリ、尙右ニ對シ日本代表側ヨリ我國ノ土地所有ニ關シテハ何等制限ナキモ必要ニ應シ相互主義ヲ採用スルコトアルヘキ規定アルヲ以テ寧ろ相互主義的規定ヲ設クルコトヲ述ヘタルカ議長側ヨリ前記留保規定ヲ置ク以上特ニ本文ニ相互主義ノ規定ヲ要セサルヘシト述ヘ大體我方ノ主張貫徹セラレタルヲ以テ之以上ハ總會ニ於テ述フルコトトセリ

(第五) 波蘭、諾威、瑞典側ヨリ同國ノ國法ニヨレハ外人土地所有、鑛山所有ノ場合ハ公益ノ理

由ニヨリ豫メ許可ヲ受クルコトトナリ居ルヲ以テ本條ニ一項ヲ追加シ公益ノ理由ニ基キ該不動產所有ニ許可ヲ必要トスル時ハ許可ヲ受ケタル後所有スルコトヲ得ヘキ旨ノ一項ヲ挿入スルコトヲ主張シタルカ右ニ對シテハ異論多ク十一月二十七日ノ會議ニ於テ再ヒ討議ヲ重ネタルカ結局之ヲ認メ唯單ニ公益ノ理由ニヨル場合ハ自由裁量ノ範圍廣ク濫用ノ恐アルヲ以テ埃及側ノ提議ニ從ヒ右許可ノ條件ハ法律命令ノ定ムル處ニ從ヒテ決定セラルヘキノ但書ヲ附シテ之ヲ承認セリ、右ノ結果トシテ右ヲ本條約第五項トスルコトトセリ、案文ハ後述スヘシ

(第六) 右ニ關聯シテ伊太利側ヨリ第三項ノ “for reason of security or national defence” ヲ改メテ security to defence ノ區別困難ナルヲ以テ “national safety” トスヘキ旨主張シタルモ右ハ文字ノ意味ヲ不明トスル恐レアリトテ認メラレス又「ラトビア」側代表ヨリ同國ニ於テハ國防ノ爲國境地方ニ於ケル土地所有ヲ禁止シ居ルヲ以テ國境地域ノ所有ヲ禁止シ得ル様スヘシ即「プロトコール」第三項削除ヲ主張シ波蘭側之ニ贊シ採決ノ結果削除スルニ決シタリ、右ハ本邦トシテ樺太國境關係モアルヲ以テ之ニ贊シ置キタリ

(第七) 「ベネツェラ」代表側ヨリ第三項ヲ廣クシ general interest ノ理由ニヨリテモ禁止シ得ル様主張シタルカ右ヲ容ルニ於テハ本條ヲ全然無効トスルニ至ルヘキヲ以テ否決シタリ

(第八) 佛國側及「バナマ」側代表ヨリ美術保護ノ爲ニ各種美術品記念品ノ外國輸出ヲ禁シ度旨申出アリタルニ對シ報告者ヨリ右ハ内外人ニ等シク適用スル以上別ニ規定セストモ差支ナキコト當然ナリト述ヘ右ノ趣ヲ報告書ニ入ルコトトシテ佛國ハ其ノ主張ヲ撤回シタリ

(第九) 更ニ同日ノ會議ニ於テ日本側代表ヨリ日本銀行株式其他特殊銀行株式及日本無電株式會社株式等ハ國家利害ニ重大ナル關係アル株式ナルノミナラス上記各種銀行特別法律ノ下ニ設立セラレ居リ其ノ株式ハ右法律ニヨリ外國人カ之ヲ所有スルコトヲ禁シ居ル關係モアルニ付「for to menace to vital interest of the state」ナル字句ヲ “to a currency crisis” ノ次ニ挿入スヘキコトヲ主張シタルニ對シ報告者側ヨリ本件株式ノ所有禁止ハ既ニ第四項ノ豫想スル處ナルヲ以テ單ニ右ハ本條ニ牴觸セサルモノナル旨報告書中ニ記入スヘシト説明セルヲ以テ我方ヨリ右ノ趣ヲ委員會トシテ承認セル旨ヲ記入スルヲ條件トシテ右説明ヲ承認シタルカ委員會之ヲ認メタリ

(第十) 次ニ英國側代表ヨリ第四項ノ vital economic resources 中ニハ通信機關ヲモ包含スルコト原案者ノ想像スル處ナルヲ以テ右ヲ本文中ニ挿入シ度旨申述ヘ土耳其側之ニ贊シタルカ右ヲ記入スル時ハ却テ餘リニ第四項ノ意義ヲ制限スルトノ說出テ結局「プロトコール」トシテ右ノ趣

旨ヲ明ニスルコトニ決定セリ

(第十一) 「エストニア」代表側ヨリ原案第三項ハ所有權ノミナラス占有權及賃借權ヲモ第一項ト步ヲ一ニシテ記載スルヲ要スト述ヘ「ユーゴスラブ」側代表モ右ニ贊スル處アリ其ノ結果第三項 acquisition ノ次ニ possession and use ヲ挿入スルコトセリ、更ニ「ユーゴスラブ」側代表ヨリ第三項中ノ “certain” ナル字句ヲ削除シ度旨申出テ右ハ同國ノ現行法ニ顧ミ之カ存在ハ困難トスル處ナリト述ヘ右ハ「エストニア」側ノ贊スル處トナリ十一月二十八日ノ會議ニ於テ之ヲ削除スルコトニ可決セラレタリ

(第十二) 尙十一月二十七日ノ會議ニ於テ英國埃及側代表等ヨリ國旗保護ノ關係ヨリ航空機、船舶及船舶關係株式ノ所得ニツキ之カ所得ヲ外人ニ禁止シ度申出テ伊國、瑞典、諾威、「エストニア」、希臘之ニ贊シタルカ獨逸及奧國代表側ヨリ航空機及船舶ハ夫レ自體ノ所有ハ何等差支ナカルヘク國旗乃至船舶ニ關スル法律ハ別個ニ各國自由ニ決スル處ナルヲ以テ其ノ必要ナカルヘシト主張シタルカ外人カ國旗ヲ濫用スルコトアル虞アルヲ以テ之カ禁止ヲ必要トスト主張スルモノ出テ結局右ヲ認メテ「プロトコール」中ニ一項ヲ設クルコトセリ(案文ハ後述參照)

(第十三) 日本代表側ヨリ更ニ「プロトコール」中ニ一句ヲ挿入シテ本條中ノ動産中ニハ有價證

券即株式、公債等ヲ包含スル旨明記スヘキヲ主張シタルカ報告者側ヨリ各國ハ右ノ當然包含セラルルモノト了解シ居リ何等疑義ナシト述ヘ一項設置ノ必要ナカルヘシト述ヘタルニヨリ我方ヨリ右ノ趣ヲ報告書中ニ明記スルコトシテ一項設置ハ之ヲ見合セタリ

(第十四) 伊太利代表側ヨリ第一項ノ “in accordance with the lawd of the country” ナル字句ヲ其儘トスル時ハ國際私法上ヨリ見テ身分ニ基ク財産權ノ得喪ニ困難ヲ感スル場合アルヲ以テ之カ修正ヲ提議シ瑞典同様ニ述ヘタルカ土耳其側ヨリ寧ロ之ヲ削除スルコトセリ

(第十五) 濠洲代表側ヨリ十一月二十八日ノ會議ニ於テ同國ニ於テハ公有地ノ所有ヲ外國人ニ禁止スルヲ以テ右ニ關スル同國ノ立場ヲ明白ニ留保スル一項ヲ設ケ度旨述ヘタルニ對シ報告者ヨリ政府カ所有スル公有地ヲ如何ニ處分スルカハ何等本條ニ違反セスト述ヘ依テ濠洲側ヨリ右ヲ報告書中ニ記載スルコトシテ主張ヲ撤回セリ

(第十六) 以上討議ノ結果第十條ハ C.I.T.E. /32 (continuation 5) page 10 以下記載ノ通りノ案文トナルニ至レリ、而シテ本條トシテハ右 C.I.T.E. /32 (continuation 5) ノ通り報告書ヲ作成シテ之ヲ總會議ニ提出シタリ

(第一) 本條モ亦前記法律專門家小委員會案 (C.I. T. E. /Com. A/79) ヲ基礎トシテ十一月二十八日ヨリ討議ヲ開始シ右小委員會案第一項ニ關シテ小委員會報告者白國代表ヨリ説明シ本項ハ經濟委員會原案ヲ正確ニセルニ過キサルコト法理上ヨリ云ヘハ小委員會案「プロトコール」一項モ又不必要ナルモ各國ノ要求アリタル故之ヲ附屬トスルコトセリト述ヘ獨逸側ヨリ本項ハ寧ロ削除可然旨述ヘタルモ本項ハ既ニ各國ノ通商條約ニ規定セル上ヨリ見ルモ法理上ヨリスルモ當然存スヘキモノナリト説明シタリ、右ニ關聯シテ瑞典側ヨリハ guardianship ニツキ日本代表側ヨリハ witness, expert of evidence, interpreter 等ノ職務モ又「プロトコール」一項ノ除外例ニ記スヘキ旨主張シタルニ對シ報告者側ヨリ右ノ如キ特種義務ハ本項ノ關スル處ニアラス當然第一項ノ除外例ナルコト jury ト同様明ナルヲ以テ特ニ「プロトコール」ニ入ルニ及ハサルコトト述ヘタルヲ以テ我方ヨリ之ヲ報告書中ニ記載スヘキヲ主張シ右承認セラレタリ、尙埃及側ヨリ本件司法行政上ノ義務免除ハ外國人側ニ於テ參加ヲ要求セラレタル時之ニ參加スルハ勿論自由ナルヲ以テ “shall be exempt” ヲ “shall not be compelled” トスヘシト述ヘタルカ別ニ其ノ必要モナシトテ其儘トナレリ

(第二) 第二項以下ニ關シテハ十一月二十九日ヨリ討議ニ移リ報告者第二項ニ付説明ヲ加ヘ原案ノ all compulsory personal military contributions ヲリ military ヲ削除セルハ最近ノ法規ニヨレハ内國民ニ對シテハ單ニ軍備上ノ正規兵ノミナラス一般國防ノ爲使用セラルル場合モ起リ得ルヲ以テ範圍ヲ廣クシ右ノ場合ニモ外國人ハ其ノ義務ヲ免除セラルヘキコトセリト述ヘ委員會會之ヲ認メタリ

(第三) 伊太利側ヨリ同國々籍法ニヨレハ國民ハ自由ニ國籍ヲ變更スルヲ得ルコトヲ主義トシ居ル處我方軍事上ノ關係ヨリハ右ノ結果外國人トナレル場合ニ於テモ嘗テ伊太利軍役ニアリタルモノハ兵役ニ服スルコトヲ強要スル場合アルヲ以テ本項ニ右例外ノ場合ヲ認ムル趣旨ノ修正案 (C.I. T. E. /Com. A/18) ヲ提出シ度旨ヲ述ヘ獨逸及和蘭側代表ヨリ右ハ寧ロ國籍法ヲ變更スルヲ可トスヘシト主張シ結局伊太利側ヨリ “It shall be understood that the provisions of the present article do not affect question relative to the acquisition or loss of nationality and the consequences thereof” ナル「プロトコール」ヲ加ヘ度旨提議シ右ヲ認ムルコトナレリ

(第三) 和蘭側ヨリ二重國籍ヲ有スルモノニ對シ本法ノ免除ヲ與フルノ修正案ヲ提議シタルモ右ハ國際私法ノ問題ニテモアリ不必要ナリトシテ承認セス

(第四) 「サルヴァドル」代表ヨリ「ハヴァナ」條約ノ趣旨ヲ挿入シテ外國人ハ兵役ノ義務ナシトス

ルモ平時各種ノ災害防止、防火等ニ對シテハ義務ヲ負ハシムルノ規定ヲ置クヘキコトヲ主張シ埃及側ヨリ右ハ本條ニ兵役ノ義務以外ノ問題ヲ附加スルモノナルニ付其ノ規定ヲ置クヲ要セスト述ヘタルカ「サルヴァドル」側ヨリハ更ニ「外國人ハ災害其他ノ危險防止ノ爲一時的集軍 (temporary force) ニ參加スルヲ要ス」ル旨ノ修正案ヲ提示シ埃國側ヨリ右ニテモ右ハ本條以外ノ問題ナリト述ヘ右修正案ハ否決セラレタリ

(第五) 第三項ニ關シ報告者側ヨリ本項ニハ動産モ加ヘ且原案ノ第三項及第四項ヲ純理上ヨリ合シ又船舶ハ之ヲ除外セリト述ヘタルカ右ニ對シ「サルヴァドル」側ヨリハ requisition ノ場合及第四項 fair compensation ハ國民待遇以上ナル故不可ナリト主張シ「ルーマニア」側ヨリハ本條ハ此點ニ關シ原案ヨリ著シキ變更ナルヲ以テ寧ろ第三項以下ニ就テハ原案ヲ討議ノ基礎トスヘシト力説シタリ依テ此點ハ第四項ノ場合ニ合シテ審議スルコト、セリ

(第六) 第三項中ノ “established in the territory of another party” ハ勿論不必要ナリトシテ削除ニ決定ス、又前記動産ヲ附加スヘキヤ否ヤニツキテハ獨逸側ヨリ之ヲ原案通り加ヘサルヲ可トスル旨ヲ主張シタルカ大多數ニテ加フルコトニ決シタリ

尤モ船舶徵發ニ關シテハ各種ノ複雑ナル問題ヲ包含シ居ルニ鑑ミ第三項ハ船舶徵發ニ關シテ適

用セサルコト(尤モ船荷ニハ適用ス)ノ一項ヲ「プロトコール」中ニ設クルコト、セリ

(第七) 十一月二十九日夜九時ヨリ第四項ニ關スル討議ヲ開キ報告者側ヨリ小委員會案第四項ノ説明ヲ與ヘ最モ困難ナル問題ハ前掲第五ニ述ヘタルカ如キ fair compensation ナリト述フ智國代表側ヨリ右案文ヲ容ルニ於テハ本條約ノ原則タル國民待遇主義ヲ破リ第九條ノ規定ヲ無効トシ賠償問題ヲシテ難問題タラシムルモノナリト述ヘ「ルーマニア」、印度、「ユーゴスラヴ」、「サルヴァドル」等ノ代表側ヨリモ交々國民待遇ト爲スヘシト主張シタルニ對シ瑞西代表側ヨリ本件ノ如キ問題ニハ積極的規定ヲ設ケ私有財産ノ尊重ニ對シテハ充分 fair and just compensation ヲ與ヘサルヘカラス國民待遇ノ名義ニ於テ無償ニ等シキ待遇ヲ與フルコトハ國際法ノ破壞ニシテ忍フヘカラス今回ノ會議ニ於テ財産ノ尊重ヲ積極的ニ確保スヘキコトハ我政府ノ重要ナル訓令ノ一ナル旨ヲ力説シ埃國側又贊成スル處アリ議論續出シタルカ結局「ポーランド」側ヨリ右國民待遇主義ト絶對的財産尊重主義トノ間ニ調和點ヲ發見セサルヘカラスト述ヘ獨逸代表、和蘭代表及日本代表側ヨリ各修正調和案提出スル所アリタルカ委員會ニ於テ主義上ノ採決ヲ爲シタル結果國民待遇ヲ可トスルモノ多ク右ヲ採用スルコトニ決シ報告者ヲシテ經濟委員會原案ヲ基トシテ其ノ第三項以下第五項迄復活シテ前記第五以下所説ノ討議ヲ基トシテ案文ヲ作成スル

コト、ナリタリ、右原案ヲ復活スルコト、ナリタル結果私有財産尊重ニ付和蘭、獨逸側ヨリ修正案ヲ提出セルモ採用セラレサリキ、尤モ我方日本代表側ヨリ本條約ノ規定ハ何等國際法ノ原則ヲ阻害セサルモノナルコトヲ主張シ委員會側ニ於テモ右ヲ認メ此ノ點ハ尙講究ヲ要スヘキ問題ナルコトヲ承認シタリ

(第八) 以上審議ノ結果トシテ報告者側ヨリ提出セル報告ヲ更ニ十一月三十日第二讀會ニテ精査シ結局總會議ニ提出セラレタル案文ハ報告書 C. I. T. E. /Com. A/20 (continuation 6) page 9 以下記載ノ通りナリ

第十五條

(第一) 本條ニ關スル討議ハ十一月二十九日第十一條討議ノ後同日夜半ニ於テ審議セラレ差シタル問題ナカリシカ英國側ヨリ同條中ヨリ十二條及十四條ノ適用ヲ削除スルコトヲ提議ス、蓋シ十二條ヲ削除スルハ課税制度上ヨリ見テ内國人ニ對シテスラ一國ニ定住スルモノト然ラサルモノトニ對スル待遇ヲ全然同一トスルコト能ハサルハ各國税制ノ示ス處ナリ況ヤ右ノ如キ場合ニ外國人ニ對シテ同一待遇ヲ内外所在ノ關係ヲ顧ミス與フルコトハ不可ナリ且本條中第十四條ノ適用ヲ削除スルコトハ第二委員會側ニ於テ既ニ同條ヲ削除スルコトニ決セルヲ以テ今ハ之ヲ入

ル、要ナシト云フニアリ右何レモ承認セラル

(第二) 日本代表側ヨリハ嘗テヨリ本條ニ關シテハ C. I. T. E. /Com. A/33 記載ノ通り修正案ヲ提議シ置キタルカ時既ニ十一月三十日午前一時ニシテ右修正案ノ趣旨ヲ主張スル時間ナカリシ關係モアリ之ヲ本會議ニ於テ提起スルコトニ留保シ置キタリ、尙委員會トシテハ本條ノ行文ハ多少不明瞭ノ所アルニ付起草委員會ニ委シテ最後の決定ヲナスコト、セリ

(第三) 以上ノ審議ノ結果 C. I. T. E. /Com. A/20 (continuation 6) ヲ十二月二日ノ第二讀會ニテ精査シ同様ノ報告書ヲ總會議ニ提出スルコト、セリ

最終議定書 (Final act)

(第一) 本議定書ノ審議ハ十一月三十日午後之ヲ開始シタルカ全般的修正案ヲ波蘭側ヨリ提出シ右ヲ原案トシテ審議セラレタキ旨主張シタルヲ以テ之カ採否ヲ問ヒタル處否決セラレタリ、依テ經濟委員會原案ヲ基トシテ審議ヲ進メ伊太利側ヨリ修正案ノ提出アリタルカ (C. I. T. E. /Com. A/70) 第一部ニ於テハ第二項ニ行目ノ “of freedom” ヲ不必要トシテ削除シ伊太利提案ノ要求ニ從ヒ第三項ニ行目ノ “restoring” ヲ “permitting” ト改メ又 “free exchange of foreign labour” ヲ單ニ “exchange of foreign labour” ト改メ(A)項ノ “abolishing” ヲ改メテ “reducing as

much as possible” トス(B)項ニ “where this appears desirable” ヲ附加ス(C)項ニ於テモ worker ノ次ニ against the disadvantages which sometimes attach to their recruitment, transport, placing and employment abroad and” ヲ挿入ス

(第二) 第二部ハ變更ナシ

(第三) 尙委員會ハ第六條第二ニ説明セルカ如キ勸告案 C. I. T. E. /32/ (continuation 4/page 4) ヲ第三部トシテ採用スルコト、ス

尙委員會ハ和蘭側ノ提案ニ從ヒ「本條約ノ規定ニシテ二ヶ國間條約ノ既ニ取扱ヘル事項ニシテ該條約ノ規定以上寛大ナル條項ヲ含ム場合ニ於テハ本條約ハ該條約ニ優先スルモノナルコト」ヲ報告書ニ宣言スルコトニ意見一致シタリ十二月二日ノ會議ニ於テハ上記諸點ニ關スル第二讀會ヲ開キ精査ヲ加ヘ本議定書ニ對スル第一委員會報告書トシテ C. I. T. E. /Com. A/81 ヲ提出スルニ至レリ

以上ニテ第一委員會ニ附託セラレタル各條ハ審議ヲ終了シタルカ右ノ結果作成セラレタル各條ノ配列及整理ハ之ヲ起草委員會側ニ一任スルコト、セリ

第四章 第二委員會議事經過

第四章 第二委員會議事經過

第一節 緒 論

本委員會ハ十一月七日本會議ニ於テ第三條、第四條、第十二條、第十三條及第十四條ノ五個條ヲ審議スヘキ旨決定セラレタル委員會ニシテ「サルヴァドル」代表「デレロ」ヲ議長トシ丁抹代表「エンゲル」ヲ報告者トス、本委員會ニ出席セル各國代表ハ附屬書(C.I.T.E/Commission "B"/2)ニ記載ノ如シ、帝國側ヨリハ松島書記官及新納書記官之ニ出席セリ、十一月八日審議ヲ開始シ十一月十八日總會ニ對スル報告書(附屬書 C.I.T.E. 27)ヲ作成シ其ノ任務ヲ終了セリ

本委員會ニ附託セラレタル事項ハ外國品ニ對スル待遇(第三條、第四條及第十二條第二項)及外國人ニ對スル課税(第十二條第一項、第十三條及第十四條)ノ問題ナルカ第十二條第一項ヲ除キ其ノ他ノ條項ハ何レモ之ヲ本條約中ニ置クヲ適當ト認メサルモノアリ其ノ存廢ニ付激論アリ遂ニ意見ノ一致ヲ見ス其ノ作成セル前記報告書ノ如キモ後記ノ如ク僅少ノ差ヲ以テ可決シタルモノナリ

帝國委員ハ第十二條及第十三條ヲ除キ其ノ他ノ條項ニ付テハ何レモ削除ヲ主張スヘキ旨ノ訓令ヲ

受ケ其ノ目的ノ貫徹ニ努力シ第三條及第四條ノ削除ニ付テハ少數ノ差ヲ以テ其ノ目的ヲ達セサリ
シモ第十四條削除ニ付テハ成功セリ

此等諸條項ノ削除ニ付テハ本會議準備調書 (Preparatory Document) ニ掲載セラレタル各國回答ニ
依レハ相當多數ノ贊成國アリタル次第ナルカ本會議開催後各國委員ノ表明セル意見ニ依レハ其ノ
態度ヲ變更シタルモノ少カラス一般ノ空氣ハ準備調書ニ記載セラレタル各國意見ニ依リ考ヘラル
ルモノヨリモ遙ニ存置論ノ優勢ナルヲ見タリ、第三條及第四條ノ削除論者タリシ英國カ存置ヲ主
張シタルカ如キ同條削除論ノ急先鋒ト目セラレ居タル佛國カ必スシモ右諸條ノ存置ニ反對セスト
表明シ存廢ニ關スル投票ニ於テモ存置ニ投票シタルカ如キ第十三條及第十四條ノ削除論者タリシ
白耳義カ熱心ニ其ノ存置ヲ主張シタルカ如キ其ノ例ナリ
以下委員會ニ於ケル審議ノ手續ニ鑑ミ

- (一) 第三條、第四條及第十二條第二項
 - (二) 第十二條第一項
 - (三) 第十三條及第十四條
- ノ三項ニ分チ審議ノ經過及決定ヲ記載セン

第二節 逐條審議

第三條、第四條及第十二條第二項

(第一) 右ハ何レモ外國品ノ取扱ニ關スル規定ナルノ故ヲ以テ一括シ十一月八日及十二日ノ兩日
第二委員會ニ於テ一般討議ヲ行ヒ各國ノ意見ヲ聽取シタル後日、波、和、瑞西、「ヴェネズエラ」、
希臘、經濟委員會、商業會議所ノ代表(後ニ獨逸代表モ參加ス)ニ依リ組織スル小委員會ニ附議
シ同小委員會ニ於テ十二日午後及十三日午前審議ヲ行ヒ其ノ報告書ヲ作成シ (C.I.T.E/B/11)
委員會ニ於テ更ニ右報告書ヲ基礎トシ十三日十四日十五日ノ三日間討議ヲ行ヒ更ニ獨逸、希臘、
經濟委員會ノ各代表及第二委員會ノ報告者タル丁抹代表ヲ以テ組織スル小委員會ノ議ニ附シ報
告書案ヲ作成セシメ (C.I.T.E./Com. "B"/25) 之ヲ十八日ノ委員會ニ附議シ之ニ些少ノ修正ヲ
加ヘ第二委員會報告書 (C.I.T.E.27) 中ニ含マルルカ如キモノトナシテ可決シタリ

(第二) 今原案關係條項要旨ヲ記載センニ左ノ如シ

第三條 締約國ノ領域内ニ於テ物品ニ現ニ課シ居レル又ハ將來課スルコトアルヘキ生産、分配
又ハ消費ニ對スル國內稅ハ何人ノ爲ニ課スモノタルヲ問ハス他ノ締約國ノ生産品ニ對シ該締
約國自身ノ同種生産品ニ對スルモノヨリ高率ニテ又ハ一層重キ負擔ヲ負ハシムルカ如キ方法

ニテ如何ナル理由ニ依ルモ之ヲ認スルコトヲ得ス

第四條 取引ノ自由特ニ物品ノ販賣、販賣ノ申込分配及消費ニ關スル規定ニ付自國生産品ト他ノ締約國ノ生産品トノ間ニ差別ヲ設クヘカラス

第十二條第二項 商業及工業ニ課スル一切ノ稅率制定ニ付使用セラルル又ハ販賣ニ供セラルル物品ノ原產地ノ相違ニ基キ差別ヲ設クヘカラス

即チ是等條約ハ何レモ外國品ノ待遇ニ關スルモノナルカ右ニ關シ存置論者ト削除論者トアリタルコト前陳ノ通ナリ、今兩者ノ論旨ヲ記載センニ左ノ如シ

(イ) 存 置 論

外國人ヲ內國人ト同様ニ待遇スルコトヲ規定スルモ外國品ヲ內國品ト同様ニ待遇スルコトヲ規定スルニ非サレハ外國人ノ商工業經營ハ不可能トナリ其ノ實效ナシ、故ニ人ノ衡平待遇ハ當然ノ歸結トシテ物ノ衡平待遇ニ及ハサルヘカラス、外國品ニ對スル差別待遇ハ國際通商ノ重大ナル障害ヲナシ居レルヲ以テ本會議開催ノ機會ニ本問題ノ解決ヲ計リ外國品ノ待遇ニ關スル規定ヲ本條約中ニ設ケサルヘカラス

此論旨ニ賛成シタルモノニハ英、佛(註)、獨等アリ尙投票權ヲ有セサルモ國際商業會議所代

表、國際聯盟經濟委員會代表ハ何レモ熱心ナル存置論者ニシテ會議中屢次存置ノ主張ヲ爲セリ
(註) 佛ハ十一月八日ノ會議ニテハ其ノ意見ヲ留保シ十二日午前ノ會議ニ於テ必スシモ存置ニ

反對セスト述ヘ十三日存廢ノ投票ニハ存置側ニ投票セリ

(ロ) 削 除 論

外國品ニ內國品ト均等ノ待遇ヲ與ヘントスル一般の原則ニハ必スシモ反對セス、然レトモ各國ニハ夫々特殊ノ事情アリ、總テノ物品ニ付均等ノ待遇ヲ與フルコトヲ直ニ約束スルコトハ困難ナリ、本問題ハ複雑ナル問題ニシテ各國ノ事情ニ付夫々慎重ノ考量ヲ加フルノ必要アルヲ以テ二國間ノ通商條約ニ依リ之ヲ決定スルカ又ハ將來開催セラルルコトアルヘキ特別ノ國際會議ニ於テ解決ヲ計ルヘキナリ、抑モ本會議ハ外國人待遇問題ヲ審議スヘキ會議ニシテ外國品待遇問題ヲ審議スル會議ニ非ス、此ノ論者ニハ日、伊其ノ他アリ

右存廢兩論ハ十一月八日及十二日ノ委員會ニ於テ其ノ主張ヲ戰ハシタルカ日本側委員ハ大勢ハ存置ニ傾キ削除ノ主張貫徹ノ困難ナルコト又理論上存置說ノ方カ人ヲ納得セシムルモノアルヲ見タルニ依リ八日ノ會議ニ於テハ削除ヲ可ト認ムルモノナルコトヲ明ニシタル上若シ會議カ本條項ノ趣旨ヲ存置セント欲スルニ於テハ兩論ノ調和ヲ計ル妥協案トシテ第三條及第四條ヲ削除

シ其ノ代リニ外國品ニ對スル國內課税又ハ流通ノ規定ニ於テ本條約ノ趣旨ヲ沒却スルカ如キ差別待遇ヲ爲スヘカラストスル彈力性アル規定ヲ置クニ止メンコトヲ主張シ十二日及十三日ノ小委員會ニ於テモ前記趣旨ノ彈力性ヲ持チ締約國ヲ窮屈ニ拘束セサル規定ヲ置クニ止ムルカ或ハ又將來速ニ外國品待遇問題ヲ審議スル國際會議ヲ開催センコトヲ希望ストノ趣旨ヲ最終議定書ノ如キモノノ中ニ置クニ止メンコトヲ主張シタリ、右妥協案作成ノ主張ニハ英國其ノ他贊成シタルモ會議ノ大勢ハ存置ニ傾キ居タル爲メ小委員會ニ於テハ日本及其ノ他ノ削除論側カ主張スルカ如キ充分ニ彈力アル規定ヲ作ルコトニハ贊成セス其ノ作成セル案ハ附屬書(C.I.T.E./B/11)第七頁記載ノ如キ原案ト大差ナキ案タルニ終レリ、依ツテ日本委員ハ十三日ノ委員會ニ於テ小委員會ノ作成セル案ニハ尙多クノ疑問殘存スルヲ以テ此ノ上問題ノ更ニ錯綜スルヲ避ケンカ爲妥協案作成ノ提議ハ撤回シ本會議ニ於テハ第三條、第四條及第十二條第二項ヲ削除シ之ヲ將來國際聯盟ニ於テ召集スルコトアルヘキ國際會議ニ附スルコトヲ希望スル旨議定書中ニ記載センコトヲ主張シタリ、同日ノ會議ニ於テ右諸條項存廢ニ關スル投票行ハレタルカ其ノ結果十二票對十一票ヲ以テ存置側ノ勝利トナレリ

存置ニ投票セルモノ左ノ如シ

白耳義、加奈陀、「チエッコスロヴァキア」、佛蘭西、獨逸、英國、洪牙利、和蘭、
「ルーマニア」、西班牙、瑞西、「ヴェネズエラ」
削除ニ投票セルモノ左ノ如シ

日本、支那、玖馬、丁抹、希臘、印度、伊太利、波蘭、葡萄牙、「サルヴァドル」、瑞典
(註) 四十七國ノ代表者中投票セルモノ右諸國ニ過キサルカ他ハ投票ノ際缺席シ居リタルモノナリ

(第三) 偕之ヨリ先存置說ニ加擔シ居タルモノハ勿論削除ニ贊成シ居タルモノノ中ニモ存置ニ決定ノ場合ヲ慮リ關係條項ニ付或ハ修正案ヲ或ハ留保案ヲ提出シ一般討議ノ際既ニ之ニ言及スルモノモアリタルカ愈々存置ニ決定シタルニ依リ此等修正案又ハ留保案ヲ審議スルコトナレリ
仍リテ帝國委員ハ此等修正案又ハ留保案ノ審議ニ參加スルモ將來本會議ニ於テ削除ヲ主張スルノ自由ヲ害セラレサルヘキコトヲ明ニナシ其ノ審議ニ參加セリ、以下各條項ニ付右修正案及留保案ニ付説明ヲ加ヘン

(第四) 第三條

(一) 佛文「テキスト」第一行ニ「le conditionnement」ナル字句アルモ英文「テキスト」ニハ右

ニ相當スル譯語ナク又同字句ハ其ノ意義曖昧ナルヲ以テ之ヲ削除スヘシト白耳義委員ヨリ提議アリ右可決セラル

(註) 右語ハ本會議ニ於テ復活セリ、其ノ意義ニ付テハ本會議ノ報告書關係部分參照

(二) 英國委員ヨリ第三條第四行目 “a more burdensome” ノ代リニ “any other” ヲ使用スヘシトノ修正案アリタルカ丁抹代表ハ外國品ニ對シ内國品ヨリモ重キ課稅ヲナスノ趣旨ニ非サルモ全然同一ノ方法ヲ採用シ難キ場合アリ、例ヘハ酒類ノ課稅ニ付テ之ヲ見シニ内國品ニ付テハ其ノ品質明ナルヲ以テ各種ニ夫々適應スル稅ヲ適用シ得ルモ輸入酒ニ付テハ其ノ品質「アルコール」含有量等明ナラス而シテ各種ノ輸入酒ニ付一々檢査ヲ行フコトハ面倒ニシテ技術上實行困難ナリ、故ニ一般的平均課稅率ヲ定メ之ヲ適用スルコト必要ナリ、故ニ英國案ノ如ク “any other” ナル字句ヲ使用スルニハ贊成スルハ困難ナリト述ヘタルカ英國委員モ行政技術上ノ困難ヲ認メ修正案ヲ固執セサリシニ依リ結局同條末節ニ原文ノ趣旨ヲ變ヘサル字句ノ改正ヲ加ヘタルノミトナル (C.I.T.E./Com. “B” /P.V. 6 第六一七頁參照) 其ノ結果委員會ノ採擇セル第三條「テキスト」左ノ如シ

“Internal taxes on production, distribution or consumption, which are at present levied or which may in future be levied on goods, no matter on whose behalf, in the territory of one of the High Contracting Parties may not on any grounds be so levied on the products of the other High Contracting Parties as to involve fiscal charges more burdensome than those imposed on like products of the country itself.

尙準備調書第三頁ノ第三條「テキスト」第一行ニ “distribution” トアルニ同書第二十九頁ノ同條「テキスト」ニハ “treatment” トアル點ヲ英國委員ヨリ指摘シタルカ右ハ起草委員會ニ移牒スルコトトナレリ

(第五) 第三條「プロトコール」

原案ニ於テハ第三條ニノミ適用アル「プロトコール」ハ同條ハ “turnover tax” ニモ適用アリトノ一項ニ過キサリキ、然ルニ第三條審議中各國提議ニ依リ左記「プロトコール」ヲ新ニ設クルコト、ナレリ

(一) 和蘭ヨリ第十二條關係「プロトコール」即チ物品ノ輸出入ニ關スル稅ハ本條ニ適用ナシトノ規定ヲ第三條ニモ其ノ「プロトコール」トシテ置カンコトヲ主張シタルニ對シ第三條ハ國內稅問題ナレハ右ハ「プロトコール」ヲ待ツ迄モナク當然ニシテ其ノ必要ナシトノ說アリタ

ルモ和蘭委員ハ其ノ提案ヲ固執シ遂ニ之ヲ挿入スルコトニ決定ス

尙本提議ニ關連シ加奈陀委員ヨリ「ダンピング」防止ノ爲ノ課税ハ右和蘭提案ニ依リ差支ナキコトトナルヤトノ質問アリタル處經濟委員會代表ハ「ダンピング」防止税ハ補助的關稅ナレハ差支ナシト説明セリ（第二委員會議事錄第六第一五頁參照）

- (二) 獨逸委員ヨリ第三條ノ財政的負擔云々ハ單ニ稅率ニ關スルノミナラス徵稅方法ニ付テモ外國品ニ差別的ニ重キ負擔ヲ負ハシメサルノ趣旨ナルコトヲ「プロトコール」中ニ規定センコトヲ主張シ可決セラル

- (三) 土耳其委員ヨリ本條ハ內國品ト外國品トノ間ニ差別ヲ設ケサルコトヲ規定スルモ內國品中ニ輸入品ニ相當スルモノノナキ場合アリ、故ニ右ノ如キ場合ニハ締約國ハ該外國品ニ對シ最惠國待遇ヲ與フルモノナルコトヲ規定スヘシト提議セリ、日本委員ハ右ノ如キ場合少クトモ最惠國待遇ヲ與フルノ保障ヲナスコトハ妥當ナリト認メ之ニ贊成シタルカ經濟委員會代表ハ第三條ハ該當內國品ノ存在スル場合ノミヲ規定スルモノニシテ該當內國品ノ存セサル場合ニハ締約國ハ何等ノ拘束ヲ受ケサルモノナリト説明シ土耳其代表之ニ満足シ右趣旨ノ「プロトコール」ヲ設クルコトトナル、日本委員ハ最惠國待遇ヲ保障スルモノハ可ト認ムルモ右ノ如ク何等ノ保障ヲ與ヘサルモノハ第三條ノ趣旨ニ合致セサルモノト認メ之ニ反對シタリ（第二委員會議事錄第六第十三頁參照）

右ノ結果委員會ノ採擇セル第三條ノ「プロトコール」ハ左ノ如シ

- (1) The provisions of Article 3 shall also apply to the turnover tax (tax sur le chiffre d'affaires, umsatzsteuer, etc.). They shall not apply to Customs duties or to the other charges attaching to the import or export of goods.
- (2) The fiscal charges mentioned in the said Article cover not only the rate of taxation, but also the method of levying the taxes.
- (3) Article 3 is not intended by the High Contracting Parties to prejudice the question of the treatment applicable in the Contracting States when no national products of a like character exist in those states.

(第六) 第四 條

本條ニ付テハ左記修正案アリタリ

- (一) 第二條ニ從ヒ內國品ノ販賣又ハ展覽ノ爲或公市場ヲ留保スルハ妨ケストノ規定ヲ追加スヘシトノ案（英國提議）(C.I.T.E. II 參照)
- (二) 外國生産品タルコトヲ表示セシムルノ規定ハ本條約ノ精神ニ牴觸スルカ如キ差別的性質ヲ

有スルモノナラサル限り第四條ニ違反セストノ規定ヲ追加スヘシトノ案（英國及丁抹提議）
(C. I. T. E. II 參照)

而シテ右提議ハ何レモ可決セラレ第四條ノ第二項及第三項トシテ追加セラルルコトナレリ、
其ノ結果委員會ノ採擇セル第四條「テキスト」左ノ如シ

Article 4.

In regulating the freedom of trade, especially as regards the sale, offering for sale, distribution and consumption of goods, no distinction shall be drawn between products of the country itself and products of the other High Contracting Parties.

This provision shall not prejudice the right of the High Contracting Parties to reserve, subject to the conditions laid down in Article 2, certain public markets and fairs for the sale or exhibition of national goods.

Any measures taken in the matter of marks of origin applicable to imported goods shall not be deemed derogations to the provisions of Article 4, provided that they are not of a discriminatory nature incompatible with the spirit of the Convention.

尙本條ニ關シ「ヴェネズエラ」代表ハ通過問題ハ本條約ノ關係スルモノニ非サルコトヲ明ニセ
ンコトヲ請求シタルカ委員會カ右趣旨ヲ明ニ聲明シ之ヲ議事録ニ止ムルコトニ依リ同代表ハ滿

足セリ、又「エストニア」代表ハ同國ニ於ケル商人ノ鑑札ニハ三種アリ第一種及第二種鑑札ノ
所持者ハ一般ニ外國品ノ販賣ニ從事シ得ルモ第三種鑑札所持者ハ特定ノ外國品ノ外一般ニ外國
品ヲ販賣シ得サルコトトナリ居レルコト但シ鑑札ヲ受クルニ付内外人ニ差別ナキコトヲ述ヘ
(C. I. T. E. I² 參照) 又和蘭代表ハ一八五二年ノ法律ニ依リ金銀物品ニ付内外品ニ依リ差別的待
遇ヲナシ居レルコトヲ述ヘ委員會ノ承認ヲ求メタルカ (C. I. T. E. /B/10 參照) 右様ノコトヲ
承認スルヤ否ヤハ本會議ニ於テ決スヘキ問題ナリトシ右ニ關シ委員會ハ何等決定スルコトナカ
リキ

(第七) 第四條「プロトコール」

第四條ノミノ「プロトコール」ハ原案ニハナカリシ所「ラトヴィア」代表ヨリ同國ニ於テハ國
内産業獎勵ノ爲政府又ハ公共官憲カ入札ニ依リ物ヲ購入スル場合價格高キモ國內品ヲ購入スル
コトヲ得ル規定アルコトヲ指摘シ右ノ承認ヲ請求シタルカ (C. I. T. E. 21 參照) 政府又ハ公共
官憲ノ入札ニ依ル契約ニハ第一條ノ「プロトコール」ニ依リ自由ニ條件ヲ定メ得ルコトニナリ
居レルニ依リ右「ラトヴィア」ノ請求ヲ承認シ之ヲ認ムル「プロトコール」ヲ設クルコトニ決
定セリ、其ノ「テキスト」次ノ如シ

Protocol and Article 4.

The provisions of Article 4 shall be subject to any special conditions which the High Contracting Parties may lay down in connection with contracts concluded by the public authorities as a result of tenders.

(第八) 第三條及第四條ニ共通ノ「プロトコール」

原案ニハ專賣事業保護ノ爲租税ヲ課シ又ハ其ノ他ノ措置ヲ執リ得ルコト右專賣ハ個別的ニ指定セラレタル特定ノ產物ニ限ルモノナルコトノ規定アリタルカ右ニ付テハ各國共異議ナク其ノ儘可決セラレタリ、其ノ「テキスト」左ノ如シ

Ad Article 3 and 4.

1. The provisions of Article 3 and 4 shall not preclude the High Contracting Parties from introducing taxes or taking other steps to safeguard their interest in the matter of any State monopolies which they have instituted, or may institute in the future.

2. The High Contracting Parties declare that they refer solely to monopolies which, individually, are applied only to one or several specified products.

(第九) 第十二條第二項

(註) 第一項ニ付テハ後記參照

本條ハ何等ノ變更ナク原案通採擇セラレタリ、即チ次ノ如シ

In fixing the rates of taxation and duties of any kind levied on commerce and industry, no discrimination shall be made on account of differences in the origin of the goods employed or offered for sale.

但シ本條ニ關シ次項「プロトコール」ノ採擇セラレタルコトハ注意ヲ要ス

(第十) 第十二條「プロトコール」

第十二條ニ依レハ内外品ノ使用又ハ販賣ニ關シ課税上何等ノ區別ヲナスコトヲ得ス然ルニ埃太利「ブルガリア」埃及等ノ代表ハ自國ニ於テハ内國産業振興策トシテ内國品使用ノ工業ニ對スル課税ヲ輕減シ居レルコトヲ述ヘ右カ本條ニ牴觸セサルコトヲ明ニスル規定ヲ「プロトコール」ニ挿入センコトヲ請求セリ、本會議ノ準備調査ニハ右ノ如キ措置ハ該工業カ内國人ニ依リ經營セラルルト外國人ニ依リ經營セラルルトヲ問ハス同シク適用セラルルモノナルニ於テハ本條ノ原則ニ反スルモノニ非スト記載シアリ(同調書第四九頁中段 note 參照) 然レトモ右ハ内外品ニ對スル課税上ノ差別待遇ナルコトハ明ナリ

依ツテ十五日本問題カ委員會ニ附議セラルルヤ商業會議所財政委員會獨逸代表等何レモ右ノ如キ「プロトコール」ノ挿入ニ反對シ經濟委員會代表モ準備調書記載ノコトアルニ拘ラス之ヲ「プロトコール」ニ入レ一般的ニ承認スルコトトシテハ内外品均等待遇ノ原則ヲ弱ムルコト甚大ナルヲ以テ埃太利等ノ特殊ノ事情アル國ハ各別ニ留保シ其ノ承認ヲ求ムヘキモノナリト論スルニ至レリ、然ルニ伊太利、埃太利其ノ他ノ代表ハ特定國ニ對シテノミ右ノ如キ例外ヲ認ムルハ不當ナルヲ以テ之ヲ一般的ニ認メ其ノ趣旨ヲ明ニスル規定ヲ「プロトコール」ニ置クヘキモノナリトセリ

右ノ如クニシテ本「プロトコール」ノ採否ニ付論戰行ハレタルカ白耳義代表ヨリ前記ノ如キ産業獎勵策ハ恒久的性質ノモノニ非スシテ一時的措置ノモノナルヘシ、故ニ「一時的ノ」ト云フ形容詞ヲ附シ承認スヘシトノ說アリ各國委員右ニ贊成シ可決セラルルニ至レリ
右ノ如ク「一時的ノ」ナル形容詞アルモ期限ナキヲ以テ實際上ハ該形容詞ナキト殆ント異ル所ナシ

尙原案ニアリシ「第十二條ハ關稅其ノ他ノ輸出入ニ關スル稅ニハ適用ナシ」トノ「プロトコール」ハ其ノ儘可決セラタレリ、依ツテ採擇セラレタル第十二條「プロトコール」ヲ「テキスト」ハ

次ノ如シ

Ad Article 12.

It is understood that paragraph 2 of Article 12 shall not apply to Customs duties or any other duties connected with the importation or exportation of goods.

“The provisions of Article 12 paragraph 2 shall not prejudice any temporary legal provisions which, in countries affected by exceptional circumstances, are intended to promote national industry, and for this purpose grant certain facilities in the matter of taxation, irrespective of nationality, to undertakings established in the country which maintain installations therein and employ national products”.

第十二條第一項

(第一) 本條ハ内外人ノ間ニ租稅其ノ他ノ財政上ノ負擔ニ付差別待遇ヲナササルコトヲ規定セル條項ナルカ後記留保アリタル外何等ノ議論ナク第二委員會ハ原案ノ儘何等ノ變更ヲ加フルコトナク滿場一致ヲ以テ可決セリ

1. In the matter of taxes and duties of every kind of any other charges of a fiscal nature, irrespective of the authority on whose behalf they are levied, nationals of each of the High Contracting Parties shall enjoy in every respect in the territory of the other High Con-

tracting Parties, both as regards their person and property, rights and interests, including their commerce, industry and occupation, the same treatment and the same protection by the fiscal authorities and tribunals as nationals of the country.

(第二) 次ニ右「テキスト」ニ關シナサレタル留保左ノ如シ

(イ) 旅券査證料 十一月八日ノ委員會ニ於テ英國委員ヨリ本問題ハ本條ノ拘束スル所ナリヤト質問シタル所經濟委員會代表ハ右ハ手數料ノ性質ヲ有スルモノナレハ差支ナク本條トハ關係ナシト答辯セリ

(ロ) 國民ノ意義 國民ト雖モ國內ニ在ル場合ト外國ニ在ル場合トニ依リ其ノ取扱ニ差異アルヲ以テ本條末尾ノ“nationals of the country”ノ後ニ“like circumstances”ニ在ルモノト附加スヘシトノ案和蘭委員ヨリ提出セラレタルカ本條約中ニ使用セラレアル“nationals”ノ意義ニ付テハ第一委員會ニ於テ研究中ニシテ右ノ決定ニ依リ本問題ハ影響ヲ受クヘキモノナルニ依リ右決定迄宿題トナレリ

(註) 本問題ハ第一委員會ヨリ第四委員會ノ第二十八條小委員會ニ附議セラレタルカ同委員會ハ國民ハ廣義ニ解シ國內ニ住所ヲ有スルヤ否ヤニ付區別スヘカラストセリ、第四委員會報

告書參照

(ハ) 國民ヲシテ二重課税ヲ免レシムル爲ノ特別制度ヲ外國人ニモ適用スルコトニ關スル留保和蘭委員ハ同國ニ於テハ國民ヲシテ二重課税ヲ免レシムルノ制度ヲ採用シ居レルカ諸外國ニ於テハ右ノ如キ制度ヲ採用シ居ラス故ニ今本條ヲ其ノ儘承認スレハ外國ニ在ル和蘭人ハ何等ノ利益ヲ受ケサルニ和蘭内ニ在ル外國人ハ一般ニ該制度ノ利益ヲ受クルコトナリ和蘭ハ與フルノミニテ利益ヲ受クル所ナシ、故ニ該制度ヲ外國人ニ適用スルコトニ付テハ相互條件ニ非サレハ受諾シ難シ、右ノ如キ留保ヲ必要トスルハ和蘭カ自由主義ニ於テ諸外國ニ優レタルモノアル爲ナリト説明シタルカ(C.I.T.E./Com. B/16 參照)委員會ハ之ヲ妥當ト認メ之ヲ承認スヘシトノ勸告ヲ附シ總會ニ報告スルコトトセリ、西班牙代表モ同様ノ理由ニ依リ同様ノ留保ヲ要スト宣言セリ

(ニ) 入國保證金問題 瑞典代表ハ外國人ノ入國ニ際シ其ノ納税ヲ確保スル爲メ一定ノ保證金ヲ供託セシムル制度アルコトヲ提記シタルカ右ハ寧ロ第六條ト關係アルヲ以テ本委員會ハ之ヲ審議セサルコトトセリ、依テ同國代表ハ第一委員會ニ於テ討議スルノ權利ヲ留保セリ

第十三條及第十四條

(第二) 第十二條ハ外國人ニ對スル課税ノ一般原則ヲ定メタルモノナル處第十三條ハ本店ヲ有スル事業ノ支店ニ對スル課税ヲ規定シタルモノニシテ該支店ニ課スル税ハ其ノ支店カ所在國內ニ於テ使用シ居レル資本金又ハ同國內ニ於ケル活動ニ依リ得タル收益ヲ標準トシテ課スヘキコトヲ定メ又第十四條ハ兩國間ニ於テ運輸業ヲ營ムモノハ其ノ本店所在國ニ於テノミ課税セラレ他ノ國ニ於テハ免稅セラルヘキコトヲ定メ居レリ、但シ第十四條第二項ハ若シ運輸業者カ他國內ノ二地間ニ於テ其ノ業務ヲ營ムコトアル場合又ハ直接運輸ニ關係ナキ事業ヲ營ム場合ハ右關係部分ニ關シテハ第一項ノ免稅ノ利益ヲ受クルモノニ非サルコトヲ規定シ居レリ、尙右ニ屬スル「プロトコール」アリ

(第二) 右第十三條及第十四條ニ付テハ前記第三條、第四條及第十二條第二項ト同様存置論ト削除論トアリタルヲ以テ一括シ先ツ一般的討議ヲ行フコトナリ十一月八日及九日ノ兩日論議セラレタルカ存廢兩論ノ勢力相伯仲シ決スルニ至ラス、依テ獨、英、伊、伯、佛五國委員ヲ以テ小委員會ヲ組織シ(但シ國際聯盟財政委員會、經濟委員會及商業會議所代表モ之ニ參加シ其ノ審議ヲ援助ス)第十三條及第十四條ノ改正案ヲ作成セシムルコトニ決定セリ

本條項存置論ノ要旨左ノ如シ

本條項ハ公平ノ原則ニ適ヒ國際通商ヲ盛ナラシメ延テハ國民間ノ諒解ト親善トヲ増進スヘク國際平和ニモ貢獻スル所大ナリ此ノ種ノ規定カ二國間ノ條約ニテ定メラルルコトアルモ未タ廣ク行ハレ居ラス吾人ハ本會議ニ於テ公正ナル本條項ヲ採擇スヘキナリ

存置論ニ屬スルモノニハ英、佛、白(註)等アリ、國際聯盟經濟委員會代表、商業會議所代表モ熱心ナル存置論者ナリキ

(註) 白ハ曩ニ存置反對ノ意見ヲ國際聯盟ニ提出シタルモ本會議ニ於テハ之ニ再考ヲ加ヘ高所ヨリ見タル結果存置ヲ妥當ト認ムルニ至レリトテ當初ヨリ熱心ニ存置ヲ主張セリ

本條項削除論ノ要旨左ノ如シ

本問題ハ極メテ複雑ナル問題ニシテ早急ニ萬國條約ニ依リ之ヲ決定セントスルハ得策ニ非ス、例ヘハ第十三條ニ於テ支店關係ノ資本及收益ヲ標準トシテ課税スト云フモ本店關係ノ分ト支店關係ノ分トヲ明確ニ區別スル標準ナキヲ以テ複雑ニシテ解決困難ナル問題ヲ惹起スヘシ、尙第十三條及第十四條ハ二重課税防止ノ爲一部分ヲ規定シタルノミニテ全般ノ問題ヲ解決シ居ラス而カモ其ノ一部分ニ付テハ精細ニ過クル規定ヲ設ケ受諾ヲ困難トス、二重課税防止ノ問題ハ目下國際聯盟ニ於テ研究中ナレハ本會議ハ不完全ナル規定ヲ早急ニ定ムルコトナ

ク之ヲ削除スルコトトシ其ノ解決ヲ將來ニ待ツヘシ

削除論ニハ佛、伊等アリ、國際聯盟財政委員會代表モ同委員會ニ於テ研究ノ結果未タ良案ヲ得ルニ至ラス問題ハ極メテ複雑ニシテ其ノ解決困難ナレハ寧ロ削除ヲ可ト認ムトノ意見ヲ發表セリ

(第三) 偕前記小委員會ハ連日會合シ第十三條、第十四條ノ問題ヲ審議シタルカ全會一致ノ報告書ヲ作成スルコト能ハス十六日遂ニ多數說ノ修正條文案 (C. I. T. E./Com. B/20) ト右ニ修正ヲ加ヘントスル少數說意見 (C. I. T. E./Com. B/19) トヲ提出スルニ至レリ
右多數說ノ條文案ハ第十三條第十四條ヲ合シテ一條トナシ

第一項 外國人ノ支店ニ對シ同種ノ國民ノ支店ニ對スルヨリモ高キ租稅ヲ課セサルヘキコト

第二項 資本收益又ハ上リ高ニ對スル租稅ハ支店所在國ニ於テ投資シタルモノ又ハ得タルモノナルヘキコト

第三項 右租稅ハ右ノ因子ニ依リ直接又ハ前項記載ノ比例ニ依リ全資本收益又ハ上リ高ノ部分ニ又ハ本條末項ノ條件ニ依リ定メタル因子ニ依リ課シ得ルコト

第四項 前諸項ノ規定ニ拘ハラス締約國航海又ハ航空事業ニ關シテハ眞ノ經營本部所在國ニ於

テノミ課稅スルコトヲ二國條約又ハ其ノ他ノ取極ヲ以テ定メ得ルコト

第五項 締約國ハ必要アラハ本條適用ノ手續ヲ國內法ノ改正又ハ條約ヲ以テ定ムヘキコトヲ定メ尙之ヲ説明スル「プロトコール」ヲ附屬セシメタルモノナリ

右條文「テキスト」左ノ如シ

Article 13.

Each of the High Contracting Parties undertakes in its territory not to subject the permanent industrial, commercial or agricultural establishments of nationals of other High Contracting Parties whose principal establishment is situated in another territory to higher taxes or charges, taken all round, than those borne in like circumstances by its own nationals.

As regards taxes on capital, on industrial, commercial or agricultural profits or on turnover, each of the High Contracting Parties undertakes not to tax the nationals of the other Contracting Parties, save (according to the nature of the taxes) in respect of the capital which they have invested in its territory or the property which they own therein, the profits accruing to them, or the business operations conducted by them within that territory through permanent establishments.

Such taxation may be levied either directly, on the basis of the factors specified above, or on part of the total capital, profits or turnover of the undertaking, in relation to the aforesaid

factors or of any other factors fixed or to be fixed under the conditions laid down in the last paragraph of the present Article.

In derogation of the provisions of the preceding articles, and by means of bilateral or other agreements, the High Contracting Parties may decide that maritime or air navigation undertakings are taxable only in the State in which their real centre of control and management is situated.

The Contracting Parties will, if necessary, determine the procedure for the application of the present Article, either by adapting their internal legislation or by means of bilateral or multilateral agreements.

Draft Protocol ad Article 12.

The term "permanent establishment" shall be deemed to include branch establishments, mining and mineral oil undertakings, factories, workshops, agencies, shops, offices, warehouses and fixed installations. Any undertaking which has business relations with a foreign country through a genuinely independent agent (broker, commission agent, etc...) shall not for that reason be deemed to possess a permanent establishment in that country.

It is understood that the second paragraph of Article 13 only lays down a principle of taxation. As regards the application of this principle, very different rules of assessment may

be adopted, either based on the direct determination of the taxable assets or on the basis of the capital, revenues, or profits of the undertaking considered as a whole.

The provisions of Article 13, both in themselves and applied *mutatis mutandis* to companies under Article 16 § 8, do not refer to the taxation of transferable securities.

As regards the application of the penultimate paragraph of Article 13, it should be stated that if maritime or air navigation undertakings also engage in other activities independent of navigation (e. g., trade in goods, banking, warehousing) these activities shall respectively be subject to the other provisions of this Convention.

之ニ對シ修正意見ヲ固執シ少數意見ヲ提出シタルモノハ英國委員ナルカ修正ヲ希望スル點ニアリ其ノ一ハ多數案第二項末尾ニ支店ニ對スル課稅標準トシテ

“the profits accruing to them or the business operations conducted by them within that territory through permanent establishments.”

トアル代リニ

“the profits accruing to them from the business operations conducted or controlled by them within that territory through permanent establishments or the volume of such operations”

トスヘシト云フナリ、今多數案ト英國案トノ差ヲ見ルニ多數案ニ依レハA國內ニ在ル支店ハA

國ニ於テ得タル收益ニ付テノミ課税セラルルモ同支店カA國外ニ於テ活動シテ得タル收益ニ付テハ課税セラルルコトナシ、然ルニ英國案ニ依レハ同支店ノ管轄ニ屬スルモノナル限リ其ノ收益カA國ニ於テ收メラレタルモノナルト將又他國ニ於テ收メラレタルモノナルトヲ問ハス之ヲ總テ綜合シ之ヲ標準トシテ課スルコトヲ得ルナリ

尙英國修正案ノ第二ハ多數案文ノ第四項及第五項ヲ削除スヘシト云フニ在リ

(第四) 諸小委員會ニ於テ右兩說ハ途ニ調和點ヲ發見スルコト能ハサリシニ依リ其ノ儘委員會ニ回付セラルルコトナリ十六日審議ニ付セラルルコトナリタルカ日本委員ハ原案ノ第十三條ニハ贊成スルモ第十四條ハ複雑ニシテ一般的ノ取極ヲナスヲ適當ト認メス寧ロ地理的地位其ノ他ノ理由ニ依リ此ノ種ノ協定ヲ締結スルコトヲ望ム諸國間ニ於テ別ノ條約ノ締結ヲナスコトトスル方可ナリト思考スルコト、小委員會ノ多數案ハ大體日本ノ意見ト合致スルカ故ニ之ニ贊成スト述ヘタリ、然ル處瑞典代表ハ日本ト同趣旨ノ意見ヲ述ヘ「チエッコ」ハ全部削除スヘシトノ意見ヲ吐キ又別ニ小委員會案ニ對スル修正案ヲ提出スルモノモアリ再ヒ諸國委員ノ間ニ存置削除ノ論戰行ハルルニ至レリ、依ツテ議長ハ投票ニ依リ存廢ニ關スル委員會ノ意見ヲ決スルコトトシ先ツ小委員會案第十三條第一項ノ存廢ヲ投票ニ附シタル處存置ニ贊成スルモノ十、削除ヲ

主張スルモノ八ヲ以テ存置ニ決セリ

次ニ議長ハ小委員會案第十三條ノ殘リノ諸項ヲ一括シ其ノ存廢ヲ投票ニ付シタル處削除ヲ主張スルモノ十、存置ヲ主張スルモノ九ヲ以テ削除ニ決セリ、日本委員ハ右投票ニハ何レモ存置ノ側ニ投票セリ

諸右ノ如シテ第二項以下削除ニ決シタルカ伊太利委員ハ第一項ノミニテハ外國人支店ニ對シ締約國ハ課税上國民ノ同種支店ニ對スルト同様ノ待遇ヲ與フト云フノミナリ然ルニ國民カ其ノ本店ヲ外國ニ有チ支店ヲ本國ニ置クノ例ハ極メテ稀ナルヲ以テ殆ント無意義ナリト宣言セリ
(C. I. T. E./Committee "B"/26)

又商業會議所代表ハ本委員會カ第二項以下ヲ削除スルコトニ決定シタルヲ遺憾トシ本會議ニ對スル報告書中ニ右削除ハ僅少ノ差ニ依リ決定ニ至リタルモノナルヲ記載センコトヲ希望シ又一旦削除ニ決定シタル小委員會案第十三條末項ノ存置ニ付再考センコトヲ希望セリ、右ノ結果同條末項ニ再考ヲ加ヘ同項「テキスト」中ヨリ “if necessary” ヲ削除シテ採擇スルコトナレリ次ニ小委員會案「プロトコール」ノ審議ニ入レルカ第一項ハ五票對三票ヲ以テ採擇ニ決セリ、尙「プロトコール」第二項以下ハ第十三條案本文第二項以下削除ノ結果無意味トナリタルニ依

リ之ニ審議ヲ加ヘスシテ葬リ去ルコトナレリ
右ノ結果委員會ノ採擇セル第十三條本文及「プロトコール」「テキスト」左ノ如シ

Each of the High Contracting Parties undertakes in its territory not to subject the permanent industrial, commercial or agricultural establishments of nationals of other High Contracting Parties whose principal establishment is situated in another territory to higher taxes or charges, taken all round, than those borne in like circumstances by its own nationals.

The Contracting Parties will determine the procedure for the application of the present Article, either by adapting their internal legislation or by means of bilateral or multilateral agreements.

Draft Protocol and Article 13.

The term "permanent establishment" shall be deemed to include branch establishments, mining and mineral oil undertakings, factories, workshops, agencies, shops, offices, warehouses and fixed installations. Any undertaking which has business relations with a foreign country through a genuinely independent agent (broker, commission agent etc...) shall not for that reason be deemed to possess a permanent establishment in that country.

尙右採擇ノ案ニ對シ英國委員ヨリ第十三條案第二項以下削除ノ結果支店以外ノモノニ對シ締約

國ハ自由ニ課税シ得ル結果トナレルコトヲ指摘シ「プロトコール」中ノ眞ニ獨立セル代理店ハ支店ト看做サストノ辭句ハ自由ニ課税シ得ト云フコトトナルヘシト論シタリ、右ハ尤モノ意見ナルモ本會議ニ於テ更ニ審議シ其ノ缺點ヲ補正スルコトニ決ス

又和蘭委員ヨリ第十三條、第十四條ノ規定ハ同條ノ定ムル事項ニ付二重課税ヲ防止スル爲ノ二國條約ノナキ場合ニノミ適用アルモノトストノ規定ヲ「プロトコール」ニ插入センコトヲ提議シタルカ右ハ單ナル財政問題タルニ止マラス本條約ト二國條約トノ關係ニ及フ一般的重要問題ナルヲ以テ第四委員會ニ回付スルコトナレリ

尙第十三條及第十四條ニ付テハ削除論者ノ多數アリシコトハ前陳ノ通ニシテ本會議ニ於テ論議スルノ自由ヲ各國委員トモ留保シ居ルコト勿論ナリ

尙又原案第十四條ハ前陳ノ通第十三條ト合併セラレタルニ依リ最早之ニ付論スヘキモノナシ

第五章

第三委員會議事經過

第五章 第三委員會議事經過

第一節 緒 論

本委員會ハ十一月七日日本會議ニ於テ他ノ三委員會ト共ニ組織ノ決定アリタル委員會ニシテ第十六條（會社ニ關スル規定）ノ審議ヲ任務トシ獨逸代表「マルチウス」ヲ議長トシ瑞西代表「ディムシエール」ヲ報告者トス本委員會ニ出席セル各國代表ハ附屬書（C.I.T.E./Commission C/16）ニ記載ノ如シ、帝國側ヨリハ伊藤參事官、松島書記官及新納書記官之ニ出席セリ、第二委員會ノ議事終了ヲ待ツテ十一月十九日ヨリ審議ヲ開始シ同二十七日夜之ヲ終レリ、本委員會ノ本會議ニ對スル報告書ハ附屬書（C.I.T.E./44）ノ如シ

本委員會ノ審議中第一項ニ付テハ英國側ヨリ先ツ本條ノ適用アルヘキ會社ノ定義ヲ掲ケ次テ締約國ノ會社ハ他ノ締約國ニ依リ承認セラルヘキコトヲ規定スヘシトノ提議アリタルカ各國委員ハ右趣旨ニ賛成シ原案ニ變更ヲ加ヘ先ツ定義ヲ掲クルコト、セリ、右定義ニ付幾多ノ議論アリタルコトハ後述ノ如シ、第二項ニ付テハ來年三月海牙ニ於テ開催セラルヘキ國際私法會議ノ決定ヲ待ツコト、シ本會議ニ於テハ何等ノ決定ヲ爲ササルヲ適當ト認ムトノ理由及其ノ他ノ理由ニ依リ削除

スルコトニ決定セリ、第三項ハ別段ノ議論ナクシテ可決セラレタルカ第四項乃至第六項ハ會社ノ設立及活動ニ關スル許可制度ノ問題、相互條件主義ノ問題、最惠國約款ノ問題其ノ他ヲ含ミ第四委員會ニ審議ヲ委託セラレタル第十七條、第十八條、第十九條トモ密接ナル關係アリタルヲ以テ種々ノ議論出テ其ノ解決困難ナリシカ將來第十七條、第十八條、第十九條等ト共ニ一般問題トシテ討議スルコトアルヘシトノ諒解ノ下ニ第三委員會トシテハ兎モ角モ後記ノ如ク原案ト大差ナキ趣旨ノ規定ヲ多數決ニテ可決シタリ、又第七項及第八項ニ付テハ原案カ外國會社ニ最惠國待遇ヲ與ヘントスルモノナルヤ將又內國會社待遇ヲ與ヘントスルモノナルヤ或ハ又右兩者ヲ與ヘ締約國ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシメントスルモノナルヤ混雜ヲ極メ其ノ意義明白ナラス又第八項ニ準用スルモノトシテ掲記シタル條文中第一條及第七條ヲ缺キタル爲種々ノ議論乃至修正案ヲ提出ヲ見タルカ結局第七項及第八項ヲ合併シテ一項トナシ外國會社ニ內國會社ト同様ノ待遇ヲ與ヘントスルモノナルコトノ趣旨ヲ明ニシ又準用條文ニ第一條及第七條ヲ加フルコトナレリ

帝國委員ハ本條ニ關シ外國會社ノ行爲能力殊ニ商業及產業ヲ營ミ得ル旨ノ規定ハ最惠國待遇ノ趣旨ナリト解セラル、モ此ノ點ヲ確ムヘキ旨及外國會社ノ取得シ得ヘキ動産中ニ有價證券ヲ含ムコトヲ明瞭ニスヘキ旨ノ訓令ニ接シタルカ後者ニ付テハ第十條ノ準用ニ依リ自ラ解決スルコトナ

レルニ依リ前者ニ付テノミ附屬書 (C. I. T. E./Commission C/7) 記載ノ修正案ヲ提出シ其ノ目的ノ貫徹ニ努メタリ

以下各項ニ付委員會ニ於ケル審議ノ經過及決定ヲ記載セントス

第二節 各項審議

第十六條第一項

(第一) 本項原案左ノ如シ

1. Shareholders and other commercial companies, including industrial, financial and insurance companies, and companies providing communications or transportation, having their seat in the territory of one of the High Contracting Parties and being regularly constituted in accordance with its laws, shall likewise be recognised by the other High Contracting Parties as being regularly constituted, provided they pursue no illicit aims.

十九日及二十日ノ兩日一般の討議ヲ行ヒタル上佛、英、獨、瑞典ノ四國代表ヲ以テ小委員會ヲ組織シ同委員會ヲシテ各國提出ノ諸修正案 (C. I. T. E./Com. C/7- C/9- C/10- C/11- C/12 參照) 及本委員會ニ於ケル論議ヲ參酌シテ適當ナル改正案ヲ作成セシムルコトニ決定セリ、右小委員會ハ本項ヲ研究シ C. I. T. E./Com. C/13 ノ改正案ヲ提出シタルカ委員會ハ二十二日包含セラ

ルヘキモノトシテ列擧スヘキ會社ノ部分ハ第一委員會ニ於テ研究中ナリシニ依リ一時之ヲ留保スルコト、シテ右案ヲ可決シ二十七日更ニ審議ヲ行ヒ豫テ留保ノ部分即チ including……ノ部分ニ假ニ insurance companies, shipping and other transport companies, and also companies providing communications ナル文字ヲ挿入シ之ヲ第三委員會採擇ノ案トセリ (註)

(註) 保險會社等ニ關スル第一委員會ノ意見ハ二十七日ニ至ルモ未タ決定ニ至ラサリシカ故ニ假ニ挿入スルコト、ナレルナリ尙後記(ロ)參照

右可決ノ案左ノ如シ

1. For the purposes of the present Convention, limited liability and other commercial companies, and industrial and financial companies, including insurance companies, shipping and other transport companies, and also companies providing communications, being regularly constituted in accordance with the laws of one of the High Contracting Parties and having their seat in its territory, shall be deemed to be companies of that High Contracting Party.

The companies of each of the High Contracting Parties shall be recognised by the other Contracting Parties as being regularly constituted.

Protocol.

Ad Article 16, Paragraph 1.

“In the case of countries under whose laws the conception of the “seat” of a company does not exist, the condition laid down with regard to this matter shall not apply”.

(第二) 本項討議中ニ於ケル主要ナル議論左ノ如シ

(イ) 帝國ノ伊藤代表ヨリ外國會社ノ承認ト云フモ外國會社ノ活動ヲ承認セサル限り何等ノ實益ナシ、從テ本項ノ所謂外國會社ノ承認ハ當然同會社ノ或種ノ權利ヲ承認スルモノト解セサルヘカラサルカ果シテ然リトセハ第一委員會ニ於テ審議中ノ自然人ニ對スル待遇問題トモ不離ノ關係ニアリ第一委員會ニ於テ審議中ノ諸問題トノ關係ヲ如何ニ解シテ討議ヲ行フヘキヤノ問題ヲ提起シタル處本委員會ノ報告者タル瑞西代表ハ外國人會社ノ承認ハ人格者トシテ存在スルコトヲ承認スルニ止リ其ノ積極的活動ハ本條第三項以下ノ規定ニ依リ律セラル、所ナリ、尤モ外國會社ノ承認ハ當然司法上ノ手續ヲ執リ得ルノ權利ヲ認ムル等ノ結果ヲ來スヘシト説明セリ

(ロ) 愛蘭代表其ノ他ヨリ本條ニ規定スル會社ニ保險業、銀行業等ヲ營ムモノヲ含マシムヘキヤ

否ヤノ問題ヲ提起シタルカ第一委員會ニ於テ此等ノ業務ヲ外國人ニ當然許可スヘキヤ否ヤ、又許可ノ場合如何ナル制限ヲ附シ得ルヤノ問題カ決定セサル爲本委員會ニ於テハ懸案トシ最終的決定ハ之ヲ避ケタリ因ニ本問題ニ關シテハ第一委員會ニ於テ會社ノ問題ト密接ナル關係アルコトヲ認メ第一委員會及第三委員會共同ニテ小委員會ヲ組織シ之ヲ研究スヘキコトヲ決議シタルニ依リ第三委員會ニ於テモ右手續ノ妥當ナルコトヲ認メ二十三日ノ會議ニ於テ共同小委員會ニ參加ノコトヲ決定シタリ、而シテ右小委員會ハ保險會社ノ問題ニ付修正案ヲ提出セル白、英、「フィンランド」、伊、「ラトヴィア」、蘭、土及「ヴェネツエラ」委員ヲ以テ組織セラレタリ同委員會ニ於テ二十七日ニ至ルモ尙決定ヲナスニ至ラサリシコトハ前陳ノ如シ本問題ニ關シテハ第一委員會ノ報告書ヲ參照スルコトヲ要ス

- (ハ) 英國代表ハ本條ノ冒頭ニ先ツ本條ノ適用ヲ受クヘキ會社ノ定義ヲ掲クヘキコトヲ主張シ右ニ關スル修正案(C.I.T.E./1)ヲ提出シタルカ日本、伊太利其他ノ諸國委員之ニ贊成シ定義ヲ採用スルコト、ナレリ

- (ニ) 本條ノ適用アル會社ノ定メ方ニ付テハ幾多ノ議論アリ、或ハ會社ノ組織ヲ標準トスヘシト云ヒ或ハ其ノ活動ヲ標準トスヘシト云ヒ或ハ會社カ收益ヲ目的トスルヤ否ヤヲ標準トスヘシ

ト云ヒ或ハ又本店カ締約國內ニ在ルヤ否ヤヲ標準トスヘシト論セラレタリ、然レ共其ノ多數ハ組織活動及本店所在地ノ三ヲ重要ナル因子ト認メ前記條項ノ如キ決定ニ達セルナリ、但シ右三個ノ標準中本店(scat)ナル觀念ハ英國ノ法制ニナキ爲英國委員ハ之ヲ條文中ヨリ除去センコトヲ熱心ニ主張シタルカ多數委員ハ之ニ反對シ其ノ挿入ヲ希望シタル爲會社ノ本店ナル觀念ナキ國ニ付テハ本項ノ適用ニ付之ヲ省クコトヲ明ニスル「プロトコール」ヲ採用シ本文ニハ本店ヲ存置スルコト、セリ、右「プロトコール」「テキスト」前掲ノ如シ

尙會社ノ構成ヲ標準トスト雖モ各國ノ法制區々トシテ其ノ間ニ統一ナク各國ニトリ妥當ナル表示方法ヲ發見スルコト不可能ナルニ依リ limited liability and other commercial companies, and industrial and financial companies ト云フ漠然且概括的ノ言句ヲ使用スルコト、ナレルモノナリ、右ノ結果文字上ハ株式會社ハ常ニ本條ノ適用ヲ受クルコト、ナリ其ノ他ノ會社ニ付テハ其ノ事業カ商業、工業又ハ財政ニ關スルモノナリヤ否ヤヲ見サルヘカラサルカ如キモ其ノ眞意ハ一方株式會社ト雖モ經濟的活動ヲナサ、ルモノハ之ヲ含マシメス他方一般的ニ經濟的活動ヲナス會社ハ其ノ構成ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ含マシメントスルモノナルコトハ第三委員會報告書第五項ニ依リ觀取セラル、所ナリ(C.I.T.E./44 參照)、例ヘハ或ル國ノ法制上

慈善事業ヲ目的トスル會社アリトスルモ其ハ本條ノ適用範圍外ナリ

- (ホ) 第一項ハ先ツ定義ヲ擧ケタル後其ノ第二節ニ於テ他ノ締約國ノ會社ハ他ノ締約國ニ依リ正式ニ構成セラレタルモノトシテ承認セラルヘキコトヲ規定ス、經濟委員會作成ノ原案ニハ「不法ナル目的ヲ遂行セサルコトヲ條件トシテ」ナル字句アリシモ委員會ハ研究ノ結果之ヲ削除シタリ、蓋シ或ル國ニ於テ其ノ國ノ法律ニ從ヒ成立セル會社ハ其ノ國ニ於テ不法ナル目的ヲ有セサルコト明ナリ、而シテ同會社ノ外國ニ於ケル活動ハ活動ノ行ハル、國ノ法律ニ從フヘキモノナルコトハ別ニ規定アリ(經濟委員會案第三項第三委員會案第二項參照)、故ニ右ノ如キ條件ヲ存置セシムルノ必要ナシ、而シテ若シ右ノ如キ條件ヲ存置セシムルコト、センカ例ヘハ酒類販賣ヲ禁止セサル國ノ飲料販賣ヲ目的トスル會社ハ酒類販賣ヲ禁止スル國ニ於テハ不法ナル目的ヲ有スルカ故ニ其ノ存在サヘモ承認セラレサルコト、ナリ幾多ノ不都合ヲ來スヘシ、故ニ委員會ハ之ヲ削除スルニ決定セリ、但シ波蘭委員ハ其ノ存置ヲ希望シ委員會ノ決定ニ反對セリ

第二 項

(第一) 原案第二項左ノ如シ

2. The legality of their constitution and their capacity to appear in Court as plaintiffs or defendants shall be decided in accordance with their articles of association and according to the law under which they were constituted.

(第二) 本條ヲ削除スヘキ旨伊太利代表其ノ他ヨリ提議アリ委員會ハ削除ニ決定セリ、削除ノ理由左ノ如シ

- (イ) 本項ハ國際私法上ノ問題ナリ、然ルニ國際私法ニ關シ一九三〇年三月海牙ニ於テ國際會議ヲ開催スルコトニナリ居レリ、故ニ本國際會議ハ右海牙會議ニ敬意ヲ拂ヒ本項ニ付テハ何等ノ決定ヲモナサ、ルヲ可ト認ム、蓋シ本會議ニ於テ本項ノ決定ヲナストキハ海牙會議ニ於ケル自由ナル審議ヲ害スルコト、ナルヘク又假ニ海牙會議ニ於テ本會議ノ決定ト異ル決定ヲナスコトアリタリタル場合ニハ複雑ナル事態ヲ惹起スルヲ以テナリ

- (ロ) 會社合法性ノ問題ハ第一項ノ會社承認アルカ故ニ本項ニ於テ改メテ規定スルノ必要ナシ、又裁判所ニ原告又ハ被告トシテ出頭シ得ルノ規定ハ後ニ第九條ヲ準用スルノ規定アルカ故ニ(經濟委員會案第七項、委員會案第六項參照)之又本項ニ於テ特ニ規定スルノ必要ナシ

第三 項

(第一) 原案左ノ如シ

3. The operations of companies constituted under the laws of one of the High Contracting Parties shall, so far as they are carried on in the territory of the other, be subject to the laws and regulations of the latter.

(第二) 外國會社カ或ル國ニ於テ活動スルトキ右活動ニ關シテハ該國ノ法律ニ從フヘキコトハ一般ニ認メラレ居レル原則ナリ、故ニ別段ノ議論ナクシテ之ヲ可決セリ、但シ “constituted under the laws” ナル字句ハ第一項ニ於テ本條ノ適用アルヘキ會社ノ定義ヲ置キタル結果無用ノ字句トナリタレハ之ヲ削除スヘシトノ案英國委員ヨリ提議セラレ右ヲ削除スルコトニ決定セリ、尙本項ニ關聯シ伊太利委員ハ從フヘキ法律ノ性質ヲ明ニセサレハ外國會社ノ活動ヲ阻害スルコトヲ目的ノ法律ヲ制定スルコトモアルヘキヲ以テ危險ナリ、故ニ茲ニ右ニ關スル規定ヲ置クコトヲ要スト論シタルカ議長ハ外國會社ノ支店設置及活動等ニ付フハ經濟委員會案第四項乃至第八項ニ規定アリ本項ハ單ニ一般原則ヲ聲明シタルニ止マルト説明シ伊太利委員ノ提起シタル問題ハ第四項以下ノ討議ノ際論セラルヘシトセリ

第 四 項

(第一) 原案第四項ハ或ル締約國カ外國會社ノ operation ニ付特許制度ヲ採用シタルトキハ他ノ締約國ハ右締約國ノ會社ニ對シテ特許制度ヲ採用シ得ヘキコトヲ規定ス

(第二) 現在各國ニ於テ外國會社ニ付採用シ居レル法制ハ區々タルモノニシテ或ル國ニ於テハ特許制度ヲ施行スルモ或ル國ニ於テハ自由主義ヲ採用ス、經濟委員會ニ於テ本問題ヲ種々考究シタルカ今各國ニ同一ノ制度ヲ採用セシムルコトハ之ヲ不可能ト認メタルニ依リ各國ノ制度ハ其ノ儘之ヲ認メ各國ニ於テ外國會社ニ對スル特許制度ヲ採用セント欲スルトキハ之ヲ採用シ得ルノ原則ヲ承認シ其ノ代リ右ノ如キ特別制度ヲ採用シ居レル國ヲシテ成ル可ク自由主義ヲ採用セシメンカ爲本項ノ規定ヲ置キ特許主義ヲ採用シ居レル國ノ會社ニ對シテハ自由主義ヲ採用シ居レル國ニ於テ差別的ニ特許主義ヲ採用シ得ヘキコトヲ規定シタルナリ、即チ本項ヲ設ケタル元來ノ趣旨ハ自由主義ヲ普及セシメントスルニアルナリ、然レ共外國人衡平待遇ヲ目的トスル本條約ニ於テ右ノ如キ差別待遇ヲ承認スルノ規定ヲ置クノ可否ニ付テハ研究ノ餘地アリトス、本項一般討議中ニ行ハレタル主要ナル意見左ノ如シ (C.I.T.P./Com. C/P. V. 3 參照)

(イ) 相互條件ニ依ル特許制度採用問題

本問題カ委員會ニ附議セラル、ヤ英國委員ハ本項ノ削除ヲ主張シ我等ハ外國人衡平待遇ヲ目

的トスルモノナリ故ニ本條約ニ於テ斯クノ如キ差別的待遇承認ノ規定ヲ置カントスルコトニハ同意シ難シ本項及其ノ他ノ差別的待遇承認ノ規定ハ之ヲ全部削除シ一般的ニ最惠國待遇ヲ保證スル規定ヲ置クヘシト論セリ、但シ英國ハ特許制度其ノモノ、存置スルコトニハ反對スルモノニ非ス、今英國修正案ヲ掲シ左ノ如シ

(1) 第四項ヲ左ノ如クスルコト

“Each of the High Contracting Parties may make the carrying on of operations in his territories by the companies of the other High Contracting Parties subject to previous and revocable authorization.”

(2) 差別的待遇ヲ承認スル規定ヲ一掃シ最惠國待遇ヲ保障スル爲第十六條第五項、第七項第二節、第十七條、第十八條及第十九條第一項ヲ削除シ其ノ代リトシテ左記規定ヲ置クコト

“Each of the High Contracting Parties agrees that the treatment accorded to the nationals and companies of the other High Contracting Parties in respect of all matters, other than those referred to in the following paragraph, shall in no case be less favourable than that accorded to the nationals and companies of the most-favoured foreign country.

Most-favoured-nation treatment may not be claimed in respect of:—

- (a) The recognition of the equivalence of titles or guarantees required for the exercise of certain professions;
- (b) privileges arising out of agreements for the avoidance of double taxation.

(註) 英國修正案ニ付テハ C.I.T.E/11 參照、又英國ノ報復的手段採用承認ニ反對シ一般的最惠國約款ノ採用ヲ主張スルコトニ付テハ C.I.T.E./Com. C/15 參照

又伊太利委員モ本項ノ存置ニ反對シ伊太利ハ外國會社ヲ內國會社ト同様條件ニテ活動セシムヘシト主張スルモノナルカ本項採擇ノ結果ハ現在折角自由主義ヲ採用シ居レル國迄カ本項ノ規定ニ刺戟セラレ次第ニ特許主義ヲ採用スルノ結果ヲ來シ其ノ結果現在ヨリモ更ニ退歩的ナル制度カ廣ク行ハル、ニ至ルノ虞アリトセリ

之ニ反シテ佛國委員ハ外國會社ニ對スル待遇カ最惠國待遇ナリトスルモ將又內國會社待遇ナリトスルモ自由主義ヲ採用シ居レル國カ特許主義ヲ採用スル國ニ對シ同制度ヲ採用スルノ權利ヲ與ヘラルルニ非サレハ自由主義ノ採用ハ自國ノ不利ヲ招クヘシ、故ニ相互條件ニ依リ特許主義ヲ認ムル制度ハ存置ノ必要アリ、元來此ノ規定ハ特許主義ヲ採用スル國ヲシテ自由主義ニ轉セシメンコトヲ目的トスルモノナレハ妥當ナリト論シ本項ノ存置ヲ主張セリ

(ロ) 如何ナル事項ニ關スル許可ナリヤ

帝國ノ伊藤代表ハ外國會社ノ operation ニ關シ許可ヲ要スルコト、ナシ得ルコトヲ規定スト雖モ右 operation ノ意義明白ヲ缺ケリ右 operation ハ外國會社カ支店ヲ設置セントスルコトヲ指スヤ又外國ニ在ル會社ノ活動ヲ指スヤ或ハ又外國會社ノ支店ニシテ國內ニ設置セラレタルモノノ活動ヲ指スヤノ問題ニ付質問ヲ發シ之ヲ明白ニスルノ必要ナルコトヲ說ケリ、右ニ關シ第一項ニ於テ外國會社ノ承認ヲ規定シ居レル以上同會社ノ或ル種ノ活動例ヘハ會社代表者カ他ノ締約國ニ於テ物ヲ購買シ得ルカ如キコトハ當然ト云ハサルヘカラス茲ニ許可ヲ問題トシ居レルハ外國會社ノ支店設置ニ關スルモノナリト云フニ意見一致セリ

(第三) 儲本項並ニ其ノ他ノ條項ニ關シ二十三日午前ノ委員會ニ於テ起草委員會ヲ任命シ委員會ニ於ケル討議ヲ參酌シ修正案ヲ起案シ之ヲ委員會ニ提出スルコト、ナレルカ同起草委員會ヨリ新案ノ提出アリ二十七日午前及夜ノ第三委員會ニ於テ之ヲ審議セリ

(註) 起草委員會ハ英佛伊及瑞典ノ四國委員ニ依リ組織セラレ佛國代表ヲ議長トセリ
起草委員會ノ提出セル改正案左ノ如シ

“ If one of the High Contracting Parties makes the installation in its territory of permanent establishments of companies of the other High Contracting Party subject to previous and revocable authorization, the Party concerned shall have the right to take reciprocal action in regard to similar companies of the former Party ”.

(第四) 然ルニ二十七日ノ委員會ニ於テ英國委員ハ依然右案ハ相互條件ニ依ル差別待遇ヲ承認スルモノナルニ依リ之ニ贊成シ難シト述ヘ曩ニ第四委員會ニ於テ最惠國待遇ニ關スル第十七條及第十八條ノ削除セラレタルニモ鑑ミ本項ハ之ヲ削除シ本條約ニ於テハ最惠國待遇及相互條件ニ依ル差別待遇ノ問題ニハ全然觸レサルコト、スヘシト主張シ遂ニ委員會ヲシテ削除ニ同意セシメタリ、本項削除ノ結果各國ハ相互條件ニ依リ外國會社ニ差別待遇ヲ與ヘ得サルコトニナリタルニハ非ス、其ノ法律上ノ地位ニハ何等ノ變化ナキ次第ナルモ英國ハ條約ニ於テ差別待遇ヲ承認スルコトハ之ヲ好マス之ヲ條約外ニ置キ各國ノ自由ニ委シ置クコト、セルナリ、蓋シ何等ノ規定ヲモ置カサルトキハ將來差別待遇廢止ヲ主張スル場合ニ何等ノ拘束ヲ受ケス好都合ナルヲ以テナラン

第五項 (新第三項)

(第一) 原案第五項ハ左ノ如シ

5. The High Contracting Parties hereby declare that they will not, by granting the authorisation referred to in the above paragraph, hinder the establishment of companies engaged in business which companies of all countries are usually allowed to conduct.

即チ本項ハ原案第四項ニ依リ認メラレタル特別制度ヲ濫用シ一般ニ許サレ居レル營業ニ從事スル會社ノ支店設立ヲ害セサルヘキコトヲ規定スルモノナリ

(第二) 英伊兩國カ第四項ノ差別待遇承認ニ反對シタルコト前述ノ如キ處若シ第四項ニ依ル差別待遇ヲ禁止シ一般的ニ外國會社ニ內國會社ノ待遇又ハ外國會社ノ待遇ヲ與フルコト、セハ本項ハ不要ナルカ故ニ英伊等ハ本項ニ付テモ削除ヲ主張セリ、然ルニ前記ノ第十六條起草委員會ハ審議ノ結果左記案ヲ作り之ヲ委員會ニ報告セリ

“4. (formerly 5). Each of the High Contracting Parties hereby declares that it will not, by granting the authorization referred to in the above paragraph, hinder the establishment of companies engaged in business which is usually allows companies of all countries to conduct, under similar conditions”

然ルニ十一月二十七日委員會ニ於テ更ニ佛國側ヨリ舊第五項ニ代ルヘキA案及B案ノ兩案ヲ作り之ヲ提出スル所アリ (C.I.T.E./Com. C/19) 委員會ニ於テハ右B案ヲ最モ適當ト認メ之ニ些

少ノ字句修正ヲ加ヘタルモノヲ採用スルコトニ決定セリ

採用セラレタルモノ左ノ如シ

4 (formerly 5)—Draft B.

The High Contracting Parties who make the activities of foreign companies in their territory subject to authorization, whether these activities take the form of the installation of permanent establishments or any other form, hereby declare that they will not, by granting such authorizations, hinder the activities or the establishment of companies engaging in business which they generally allow companies of any other country to conduct under the same circumstances.

(第三) 英伊等カ當初本項ノ削除ヲ主張シタルコト前陳ノ通ナルカ二十七日ノ委員會ニ於テハ本項削除ヲ固執セス右挿入ニ同意セリ、蓋シ最惠國待遇又ハ內國會社待遇ヲ總テノ點ニ付テ採用セシメントスル案ハ後記ノ如ク既ニ第四委員會ニ於テ採用セラレサルコトニ決定シタルヲ以テ(原案第七項及第八項ノ規定アルモ總テノ事項ヲ「カバー」シ居ラス)差別待遇承認ノ第四項ヲ削除シタリト雖モ差別待遇禁止ノ保障ナシ、故ニ差別的待遇ヲ採用スル國アル場合ヲ豫想シ之ニ對スル保障ノ規定ヲ設クルハ意義アルコト、ナレルヲ以テナルヘシ、本項カ許可制度ハ一般

的ニ之ヲ適用スルコトヲ要スルヤ否ヤニ付何等言及シ居ラサルハ之ヲ殊更ニ避ケタルナリ、蓋シ右ニ言及スレハ差別待遇承認問題ニ關聯シ複雑ナル問題ヲ生シ前記第四項ニ關スルト同様ノ論議ヲ惹起スレハナリ、但シ何レニスルモ内國會社ニ適用シ居ラサル特許制度ヲ或ル種ノ外國會社ニ適用スルモ差支ナキコト、ナリ居レル次第ナリ (C.I.F.E./4 第十三項參照)

(第四) 尙本項ニ關シ埶地利代表ハ左記ノ二宣言ヲナシタルカ委員會ハ第十六條ノ精神ニ反セサルモノトシテ之ヲ承認セリ

“1. It is agreed that as long as one of the High Contracting Parties under the terms of its legislation makes the commercial operations conducted by both national and foreign companies subject to previous authorization, it shall retain the right to consider each case individually.

“2. It is understood, furthermore, that the fact of one of the High Contracting Parties applying to foreign companies the provisions applicable to the companies of that Party, shall not authorize any one of the other High Contracting Parties to treat the companies of the said Contracting Party less favourably than its own companies.”

第六項 (新第四項)

(第一) 原案第六項左ノ如シ

The High Contracting Parties agree not to prejudice acquired rights unless forced to do so, and consequently not to cancel an authorization once given except for an infraction of the laws and regulations of the country.

即チ本項ハ會社ノ既得權ヲ尊重スヘク已ムヲ得サル場合ノ外一旦與ヘタル許可ヲ取消スヘカラサルコトヲ規定スルモノナリ、伊太利カ相互條件主義ノ許可制度ヲ規定スル原案第四項ノ削除ヲ主張シタルコトハ前陳ノ通ナル處本項ハ右第四項ト關聯スルモノナルニ依リ同國ハ本項ニ付テモ又削除ヲ主張セリ、之ニ反シテ英國ハ第四項及第五項ニ付テハ其ノ削除ヲ主張スト雖モ本項ニ付テハ其ノ存置ヲ妥當ト認メタリ、但シ “consequently not to cancel” 以下ノ字句ハ更ニ精細ニ規定スルコト適當ナリトシ左記字句ヲ以テ之ニ代フヘキコトヲ提議セリ

“except in cases where the general laws and regulations of the country have been violated, not to prevent business which was previously permitted or to impose conditions to which the business was not previously subject, unless similar measures are applied also to their own companies.”

右ハ會社カ其ノ營業ヲ許可セラレタル後法令ノ改正アリタル場合ヲ豫想シ右ノ如キ場合ニハ新法令ニ基キ新シキ條件ヲ外國會社ニ課シ得ヘキコト但シ右條件ハ内國會社ニモ同様適用セラル

ヘキモノナルヘキコトヲ規定スルモノナリ

(第二) 本項モ亦原案第四項第五項ト同シク一般討議ノアリタル後二十三日午前ノ委員會ニ於テ起草委員會ニ回付セラレタルカ二十七日起草委員會ハ左記案ヲ委員會ニ提議シ委員會ハ二十七日午前及同日夜ノ會議ニ於テ審議ノ後之ヲ可決セリ

“4. The High Contracting Parties undertake not to prejudice the rights acquired by a foreign company as a result of its having engaged in business in their territory with or without authorization except in the case of an infraction of the laws of the country. They undertake in particular not to subject the activities of foreign companies to conditions not previously imposed on them, except in the case of new measures applicable under the same circumstances to national companies”

新案ハ原案ニ英國修正案ノ趣旨ヲ加ヘテ作成セラレタルモノナルカ尙茲ニ掲クル外國會社ノ既得權ニ關スル規定ハ會社カ國內ニ支店ヲ設置シ居レル場合ニモ然ラサル場合ニモ同シク適用アルヘキコトヲ明ニ規定シ居レリ

尙又新案ニ依レハ內國會社ニモ適用アル場合ニハ會社ノ活動ニ關スル條件ニ變更ヲ加フヘキコトヲ規定スト雖モ本條項討議中新條件ヲ課スルニ付テハ既得權ニ考量ヲ加フヘキノ當然ナルコト

ノ高調セラレタルコトニ注意スヘシ (C. I. T. E./44 第十八項參照)

第七項及第八項 (新第五項)

(第二) 原案第七項及第八項ハ左ノ如シ

7. Companies of each of the High Contracting Parties may, if they conform to the laws and regulations of the High Contracting Party into whose territory they are admitted, therein acquire, possess or lease movable and immovable property, and therein exercise their rights and conduct their industry or commerce, they shall have free and ready access to the Courts and administrative authorities, and shall enjoy, in general, the accorded under Article 9 and 10 to nationals of the High Contracting Parties, in so far as these rights are applicable to them.

In all cases, the above-mentioned companies shall enjoy, after their admission, the same rights as those which are or may be granted in this respect to companies of the same kind of the most-favoured-nation. Nevertheless, it shall not be possible for one of the High Contracting Parties to claim for its companies in virtue of the most-favoured-nation clause treatment more favourable than it is prepared to grant to companies of the other Party.

8. The treatment and protection to be accorded to companies of each of the High Contracting Parties, defined in paragraph 1, shall be identical with the treatment and protection

to be afforded to nationals of each of the High Contracting Parties under Articles 2, 3, 4, 5, 8, 11, 12, 13 and 14.

本項ハ外國會社ノ行爲能力其ノ他ヲ定ムル規定ニシテ第十六條中最モ重要ノモノナルカ委員會ニ於テハ審議ノ進行ヲ急キタル爲十一月二十三日ノ會議ニ於テ一般討議ヲ行ヒタル後直ニ英、佛、伊、瑞典ノ四國委員ヨリ成ル小委員會ノ審議ニ附託シ其ノ報告書ノ成ルヲ待ツテ十一月二十七日午前及夜ノ委員會ニ附議シ前記小委員會案ニ基キ後記ノ案ヲ採擇スルコト、ナレリ

(第二) 抑モ第十六條ハ一九二七年八月十七日ノ佛獨條約第二十六條ヲ本トシ之ニ必要ナル修正ヲ加ヘテ作成セラレタルモノナルカ原案第七項ノ規定ハ復雜ニシテ其ノ意義明白ナラス其ノ解釋ニ苦シム點少カラサリキ、帝國政府ニ於テハ外國會社ノ行爲能力殊ニ商業及産業ヲ營ミ得ル旨ノ規定ハ同項後段ノ規定ニ鑑ミ最惠國待遇ノ趣旨ナリト解セラル、モ此ノ點ヲ確ムヘキ旨訓令セラレタルカ原案其ノ儘ニテハ疑問ノ餘地アルヲ以テ帝國委員ハ附屬書 C. I. T. E./Com. C./6ノ如キ改正案ヲ提出シ本項ハ右行爲能力ニ付テハ最惠國待遇ヲ規定スルモノナルコトヲ明ニセシコトニ努メタリ、尙二十三日ノ會議ノ際帝國委員ハ第七項第一節ノ規定ノ明白ナラサルコトヲ指摘シ右規定ハ外國會社ニ內國會社ノ待遇ヲ與ヘントスルモノナルヤ將又最惠國待遇ヲ與ヘ

ントスルモノナルヤニ付經濟委員會代表ノ説明ヲ求メタリ、伊太利代表モ本項ハ極メテ混雜シ居レリ即チ第一ニ會社ハ財産ノ取得所有其ノ他ヲ爲シ得ルコトヲ規定スト雖モ右ニ關シ適用スヘキ原則ヲ述ヘス又內國會社ト比較スル所毫モナシ第二ニ本項ハ內國人ト同様ノ待遇ヲ外國人ニ與フヘキコトヲ規定スル第九條及第十條ヲ引用セリ而シテ最後ニ總テノ場合ニ最惠國待遇ヲ與フヘキコトヲ規定セリ而シテ更ニ第八項ヲ見ルニ國民待遇ヲ規定スル第二條ヲ引用ス或ハ本項ハ一般的ニ最惠國待遇ヲ保障シ特別ノ事項ニ付テノ國民待遇ヲ與ヘントスルモノナリト云ヒ得シモ第七條ヲ見ルニ特殊事項ニ付國民待遇ヲ適用セサルノ規定モアリ其ノ規定誠ニ混亂シ居リ之ヲ明ニスル必要アリト論セリ、經濟委員會代表ハ右ニ對シ本項ハ國民待遇ト最惠國待遇トヲ結ヒ付ケタルモノニシテ其ノ例ハ通商條約中其ノ例多ク締約國ヲシテ其ノ利益ニ從ヒ國民待遇ト最惠國待遇トノ中其ノ一ヲ選擇スルノ權利ヲ與フルモノナリト説明セリ

尙本項ニ關シ諸國ヨリ其ノ意義ヲ明白ニセンカ爲或ハ其ノ内容ニ受諾シ難キモノアリトノ理由ニヨリ修正案ヲ提出スルモノアリタルカ其ノ主要ナルモノ左ノ如シ (C. I. T. E./Com. C/7 參照)

(イ) 第七項ヲ削除シ第一條、第七條、第九條及第十條ヲ第八項ニ依リ準用セラル、條文中ニ加

（最惠國約款ニ關スル第七項第二節ノ規定ハ別ノ場所ニ置クヘシトスルモノ（瑞典））

（ロ） 第七項第二節ヲ削除シ之ヲ第三編ノ一般規定ニ於ケル最惠國約款ノ規定ニ包含セシメントスルモノ（英）

（ハ） 第七項第二節ヲ削除セントスルモノ（伊）

（ニ） 外國會社ノ土地所有、船舶所有、保險、銀行等ニ關シ制限ヲ加ヘントスルモノ（英、葡、
「ブルガリア」、「メキシコ」、丁抹等註參照）

（ホ） 第八項ニ於テ準用スル條文ニ第一條、第七條、第九條、第十條ヲ加ヘントスルモノ（英、
瑞典、埃等註參照）

（註） 各國カ茲ニ掲クル制限又ハ準用條文ノ全部ニ付同一ノ主張ヲナシタルニハ非ス、各國別
ニ之ヲ見レハ其ノ一部ニ付テノミナルカ便宜ノ爲同種ノ提議ヲ取纏メタルモノナリ、各國
別修正案ノ詳細ニ付テハ C. I. T. E./Com. C/7 ヲ參照スヘシ

（第三） 偕二十三日原案第七項及第八項ニ付一般討議ヲ行ヒ之ヲ前記ノ通小委員會ニ附議スルコ
ト、ナレルカ會議ニ於ケル一般ノ空氣ハ同項ハ其ノ内容複雑ヲ極メ意義ノ明瞭ヲ缺クカ故ニ之
ヲ書キ換ヘ其ノ意義ヲ明瞭ニスルノ必要ナルコトニ付テハ意見一致シ其ノ内容ニ付テハ自然人

ニ付國民待遇ヲ與ヘタルモノニ付テハ外國會社ニ內國會社ノ待遇ヲ與フルコトニ原則トシテ異
議ナク唯前記（ニ）ニ掲クル特殊事項ニ付テ幾分ノ制限ヲ加ヘントスルモノアルニ過キサリキ、尙
英國委員カ一般ニ外國會社ニ最惠國待遇ヲ與ヘンコトヲ高唱シタルハ注意ニ値ス、尤モ英國委
員ハ原案第八項ニ於ケル國民待遇ヲ與フヘキ諸條文ノ準用ニ賛成シ居レルヲ以テ此等ノ事項ニ
付テ國民待遇ヲ排斥セントスルノ趣旨ニハ非ス右ニ付テハ國民待遇ヲ保證シ尙其ノ他ノ事項ニ
付テハ最惠國待遇ヲ保障セシメントスルモノナリ
偕原案第七項及第八項ノ問題ハ小委員會ニ於テ審議セラレ二十七日左記ノ如キ一項ニ合併セラ
レタル案トナリ本委員會ニ提出セラレタリ

The companies of each of the High Contracting Parties shall enjoy in the territory of the
other Parties, whether they possess permanent establishments therein or not, treatment similar
to that provided under the same circumstances for nationals of the country under Articles 1,
2, 5, 7, 8, 9, 10, 11, paragraphs 3, 4 and 5, and under Article 12, as well as under the
provisions of the Protocol relative thereto, on the understanding, however, that foreign com-
panies shall not be entitled to claim treatment more favourable than that which is accorded
under the same circumstances to national companies.

本案ハ本條約ニ於テ外國人ニ對シ與ヘタル待遇ニシテ外國會社ニモ適用シ得ヘキモノハ之ヲ與フヘキコト但シ外國會社ハ內國會社以上ノ待遇ヲ要求シ得サルコトノ原則ヲ承認シ本條約第一編及第二編ノ各條項中會社ニ準用シ得ヘキ諸條項ヲ摘記列舉シタルモノナリ

原案ニアリタル第三條及第四條ノ準用力削除セラレタルハ右兩條カ物品ニ關スル規定ニシテ會社ニ直接ノ關係ナキカ故ナリ、第十三條ノナキハ第二委員會ニ於テ採擇セル案文ハ外國人ノ支店ニ對シ同種ノ國民ノ支店ニ對スルヨリモ高キ租稅ヲ課セサルヘキコトヲ規定スル一項ノミトナリタル處同種ノ國民ノ支店ト云フハ本店カ外國ニ存在シ支店カ內國ニ在ル場合ト解セラレ之ヲ會社ニ付テ考フレハ本店カ外國ニ存在スルモノハ其ノ經營者又資本カ何人ニ屬スルヤヲ問ハス其ノ本店所在國ノ會社即外國會社ト云フコトニナリ第十三條ハ外國會社ノ支店ニ對シ外國會社ノ支店ヨリモ高キ租稅ヲ課セスト云フ無意義ナル規定ニナルカ故ニ之ヲ省キタルナリ、又第十四條ノナキハ第二委員會ニ於テ同條ノ削除力決議セラレタルニ依ル

右ノ結果外國會社ニ付適用アルヘキ財政ニ關スル規定ハ第十二條ノミトナリ外國會社ノ支店ハ(外國會社ノ本店ハ存在スルコトナシ蓋シ本店カ存在スレハ即チ內國會社トナルヘケレハナリ)同種ノ內國會社ト租稅問題ニ付同一ノ待遇ヲ受クルコト、ナリ居レリ、然レ共實際ニ付テ見ル

ニ本店カ外國ニ在ル內國會社ノ存在スル筈ナキヲ以テ亦殆ント適用ノ餘地ナキ規定ニシテ唯地租、家屋稅、地方稅等ニ付幾分ノ適用アルノ程度ニ過キサレヘシ、財政條項ヲ會社ニ適用スルコトニ關シ特別小委員會ノ組織セラレタルコトハ前陳ノ通ナル處該小委員會ハ會社ニ對シテ更ニ財政問題ニ關スル保障ヲ與フルコトヲ必要ト認メ其ノ旨委員會ニ報告シ本委員會モ亦之ヲ必要ト認メタリ、然レ共會議ハ其ノ審議ヲ全部終ラスシテ解散スルコト、ナリタルヲ以テ遂ニ之ヲ議スルニ至ラザリキ

(第四) 尙原案第二十八條ノ植民地ニ關スル留保ノ規定ニ關シテモ會社ノ關係ヲ考究スルノ必要ナルコト認メラレタルカ右ハ第四委員會ニ回付スルコト、ナリ本委員會ニ於テハ何等ノ研究ヲナサスシテ終レリ

(參考) 第四委員會ニ於テハ第二十八條ノ規定ハ第十六條ニモ適用アルヘシトノ意見ヲ可決セリ第四委員會報告書參照

第六章

第四委員會議事經過

第六章 第四委員會議事經過

第一節 緒 論

本委員會ハ十一月七日總會ノ組織セル四委員會ノ一ニシテ第三編一般規定ノ諸條項ヲ審議スルヲ以テ其ノ任務トス、但シ一般規定中最後ノ第二十九條ハ第一編ノ規定ト密接ナル關係アルニ依リ第一委員會ニ委託セラレ本委員會擔當事項ノ範圍外トス、伊太利代表「ミケリス」ヲ議長トシ帝國代表伊藤參事官ヲ報告者トス、尙本委員會ニ附屬シ條約全般ノ起草ヲ任務トスル起草委員會アリ「ミケリス」ヲ議長トシ英國ノ法律家「ベケット」、佛國ノ法律家「ペバン」及葡萄牙ノ「ダ、ヴィラ、リマ」ヲ委員トス、帝國ノ伊藤代表モ報告者ノ資格ニ於テ之ニ參加セリ

本委員會ニ出席セル各國委員ハ C. I. T. E. Com. D/19. ノ如シ、帝國側ヨリ伊藤參事官、松島書記官、新納書記官及門脇官補出席セリ

十一月二十五日第一回會議ヲ開キ十二月四日午前ノ會議ニ於テ報告者伊藤參事官提出ノ報告書(C. I. T. E. "D"/30)ヲ審議シ之ヲ採擇シテ其ノ任務ヲ終レリ

本委員會審議事項ヲ左記ニ分類シ之ヲ記述セン

第十七條及第十八條

(最惠國待遇問題)

第十九條

(締約國ノ自由權濫用防止問題)

第二十條

(衡平ノ保障)

第二十一條

(既得權尊重)

第二十二條

(本條約ニ關スル國際紛爭解決手續)

第二十三條乃至第二十七條

(調印、批准加入、效力發生、脫退ニ關スル規定)

第二十八條

(植民地ニ關スル留保問題)

英國提議ノ新條項

(本條約ハ外國人及外國會社ノ取扱ニ關スル國際法上ノ義務ニ影響ヲ及ホサストノ規定及二國條約ニ依リ本條約ノ定ムルモノヨリモ優レル取扱ヲナスコトヲ規定セル場合本條約ハ右取扱ヲナスコトヲ免セシムルモノニ非ストノ規定)

英帝國ニ屬スル諸政府代表ノ宣言

(英帝國各地間ニ於テ英帝國國民ニ與ヘ居レル特惠待遇ハ他ノ外國人ニ及スヘキニ非ストノ宣言)

第二節 逐條 審議

第十七條及第十八條

(第一) 原案「テキスト」左ノ如シ

Article 17.

The provisions of Part I, which expressly lay down that national treatment shall be granted the nationals of all the High Contracting Parties, imply the unconditional granting of most-favoured-nation treatment.

This does not, however, apply to the special provisions which allow specific exceptions to the rule regarding national treatment.

Article 18.

1. The provisions of Part I not referred to in Article 17 above, and the provisions of part II, shall not, as regards the matters to which they refer, prevent any of the High Contracting Parties from granting more favourable conditions to one or more of the other High Contracting Parties under the terms of special agreements.

These more favourable conditions may be claimed on condition of reciprocal treatment by any High Contracting Party not enjoying the benefits of the most-favoured-nation clause under

a bilateral agreement and therefore unable to claim the free benefit thereof on that account.

2. Most-favoured-nation treatment, as granted under the previous paragraph and under Article 17, cannot be claimed :

(a) When two countries have agreed as to the conditions under which they shall mutually recognise the equivalence of titles or guarantees required for the exercise of certain professions ;

(b) In the case of bilateral agreements for the avoidance of double taxation.

即チ明ニ國民待遇ヲ規定シタル事項ニ付テハ最惠國待遇ヲ保障スルモ其ノ他ノ事項ニ付テハ相互條件ニ依ル最惠國待遇請求權ヲ認ムルニ止メ差別待遇實行ノ餘地ヲ認メタルモノナリ、帝國政府ニ於テハ第十八條第一項後半ノ趣旨ハ或ル二國間ニ有償主義ノ最惠國條款ヲ含ム協定アル場合ニ右兩國ノ一方カ單ニ相互待遇ヲ約スル旨ノ一方的意思表示ニ依リ最惠國ニ均霑ヲ要求シ得ルモノトスルモノナリト解釋セラル、處有償主義最惠國條款ヲ一般的ニ相互條件附最惠國條款ニ變更スルコトハ最惠國條款ニ關スル各國ノ重大ナル主義ノ問題ヲ包含スルノミナラス相互待遇ノ約定ハ屢々何等實益ヲ伴ハサル場合モアルヘキヲ以テ本項ノ如キ一般的且廣汎ナル規定ハ削除ヲ主張スル様訓令セラレタリ、仍リテ帝國代表ハ第十八條第一項後段ヲ削除スヘシトノ

修正案ヲ提出シ (C. I. T. F./Com. D/16 參照) 又第十七條第二節ニ付右ニ依ル差別待遇カ第三國民ノ利益ヲ害スルカ如キモノナラサルコトヲ保障スル爲ノ修正案ヲ提出シ (同文書參照) 十一月二十五日ノ委員會本會議ニ於テ右ニ説明ヲ加ヘ其ノ必要ヲ說ケリ

(第二) 然レ共最惠國待遇問題ニ關シ英國側ヨリ總テノ事項ニ關シ (原案ノ如ク國民待遇ヲ與フルコトヲ規定シ居レル事項ノミニ限ラス) 最惠國待遇ヲ與フルコト、シ締約國ハ總テノ締約國ノ國民及會社ニ對シ常ニ均等ノ待遇ヲ與フヘキコトヲ約スヘク差別待遇承認ノ規定ハ一切之ヲ削除スヘシトノ根本問題ヲ提起シ論議ノ結果最惠國待遇ニ關スル規定即チ第十七條及第十八條ハ削除ニ決シタルヲ以テ前記帝國提議修正案ノ問題ハ自然立消トナレリ、英國委員ハ本會議ニ於テハ自國主張ノ貫徹ヲ期シ難キヲ觀取シ差別的待遇承認ノ規定ヲ含ム條約ニ調印シ難キコトヲ強ク說キ差別的待遇承認ノ規定ヲ一切條約中ヨリ除去セシメンカ爲最惠國條款ヲモ犠牲ニ供シ全部ヲ一括シテ削除スルコトニ同意シタル次第ナルカ第三委員會ニ於テモ將又第四委員會ニ於テモ全般的ニ最惠國待遇ノ必要ヲ力說シタル點ヨリ察スルニ將來本問題ニ關スル國際會議開催ノ場合ニハ更ニ本問題ヲ提起スルコトアルヘシト考ヘラル、英國修正案ハ第三委員會議事報告中ニ既ニ記載シタルモ主トシテ第十七條及第十八條ニ關係スル事項ナルヲ以テ更ニ茲ニ掲シ

ニ左ノ如シ

『第十六條第五項第七項後段、第十七條、第十八條及第十九條第一項ヲ削除シ其ノ代リニ左ノ規定ヲ挿入スルコト

“Each of the High Contracting Parties agrees that the treatment accorded to the nationals and companies of the other High Contracting Parties in respect of all matters, other than those referred to in the following paragraph, shall in no case be less favourable than that accorded to the nationals and companies of the most-favoured foreign country.

Most-favoured-nation treatment may not be claimed in respect of:—

- (a) the recognition of the equivalence of titles or guarantees required for the exercise of certain professions;
- (b) privileges arising out of agreements for the avoidance of double taxation.”

(第三) 尙本條審議經過及各國主要意見ヲ記載センニ左ノ如シ

十二月二十五日第四委員會ニ於テ一般討議ヲ行ヒタル後伊藤參事官ヲ議長トシ日、獨、英、瑞典、佛、洪、瑞西、伊、西ノ諸國代表ヲ委員トスル小委員會ニ附議シタルカ同小委員會ハ同二十六日二十七日ノ兩日審議シタル後多數決ヲ以テ第十七條及第十八條ハ共ニ削除スルコトニ決定シ二十七日午後開催ノ第四委員會第三回會議ニ之ヲ報告シ右決定通り削除ノコトニ第四委員

會ニヨリ決定セラレタリ

本問題審議中英國カ熱心ニ全般的ニ最惠國待遇ノ保障ヲ無條件ニ與ヘンコトヲ主張シタルコトハ前記ノ通ナルカ右ニ對シ本條約ノ規定セサル事項ニ迄最惠國條款ヲ及ホサントスルハ不當ナリトスル議論アリ又多數國ハ特殊事情ニ基キ取極メタル特殊利益ヲ他國ニ無條件ニテ均霑セシムルコトヲ好マス英國案ノ受諾ニ反對シタル爲最惠國待遇ヲ全般ニ適用セントスル案ノ通過セサルコト殆ント明瞭トナリタルヲ以テ英國委員ハ遂ニ自國提案ヲ撤回シ之ト同時ニ差別的待遇ヲ承認シ居レル第十七條第二項及第十八條ノ削除ヲ強硬ニ主張シタリ

即チ第十七條及第十八條ノ削除セラレタルハ一方ニ於テハ英國ノ如ク廣ク最惠國待遇ヲ適用セントコトヲ主張セントスルモノアリ他方ニハ其ノ適用ヲ狹クセントスルモノアリ其ノ間ノ妥協成立セス又英國カ若シ一般的最惠國待遇ノ保障ヲ與ヘサルコトニ決定シタル場合ニハ少クトモ本條約中ニ差別待遇承認ノ條項ヲ存スヘカラス然ラサレハ英國ハ之ニ調印シ難シト強ク其ノ削除ヲ主張シタルニ依ルモノナリ、第十七條及第十八條削除ノ結果各國ハ現在有シ居レル差別待遇ヲ適用シ得ルノ權利ニ影響ヲ受クルモノニ非サルコト勿論ニシテ帝國ノ希望ハ自然ニ達成セラ

ル、結果トナレリ

尙第十八條第一項ノ規定ニ關シ相互條件ニ依ル最惠國ノ利益均霑ノ原則其ノモノニ對シ差別待遇ヲ承認スルモノナリトテ英國ノ如ク反對スルモノモアリタルカ和蘭ノ如ク壽府諸條約ニ重課税ニ關スル條約國際私法ニ關スル條約等ハ事ノ性質上相互條件ヲ必要トスルモノナリト論スルモノモアリキ、又地方的ノ特別協定(「バルチック」諸國間ノ取極、「スカンデナヴィア」諸國間ノ取極、「イベリア」半島諸國間ノ取極等)ニ依ル利益ヲ他ニ均霑セシムヘキヤ否ヤノ問題ニ關シ「ラトヴィア」、「葡萄牙」、「ブラジル」等ノ諸國ハ此ノ種ノ條約ニ依ル利益ハ他國ニ及ホスノ必要ナシトスル主張ヲナシタルカ獨逸ハ此ノ種ノ地方的協定ハ第三國ノ利益ヲ害セス又第三國ニモ加入ヲ許スモノナラサルヘカラストセリ、右地方的協定承認要求ノ一例トシテ「ブラジル」修正案ヲ掲シ左ノ如シ

『第十七條及第十八條ニ關シ左記趣旨ノ規定ヲ追加スヘシ

“*Regional combination*,” determined by special economic conditions, shall not be held to be incompatible with any of the provisions of the present Convention.』

尤モ本問題モ第十七條及第十八條ノ削除セラレタル結果之ヲ承認スルヤ否ヤヲ決スルニ至ラスシテ自然消滅トナレリ

第十九條

(第一) 原案左ノ如シ

1. The High Contracting Parties undertake, when availing themselves of the faculty accorded them under the present Convention to exclude foreigners from the enjoyment of certain rights or to subject the enjoyment of such rights to certain conditions and formalities, to make no discrimination which might seem to be an unfriendly act towards the nations of certain other High Contracting Parties.

2. Whenever the present Convention accords to foreigners the benefit of provisions applicable to nationals, the High Contracting Parties undertake not to draft these provisions in such a way that they would, in actual practice, amount to the absolute exclusion of foreigners, or lead to a system of differentiation to the detriment of foreigners.

(第二) 本條モ亦十一月二十五日委員會第一回會議ニ於ケル一般討議ノ後伊藤參事官ヲ議長トスル前記小委員會ニ回付セラレタル條項ノ一ナルカ英國委員ハ當初本條第一項ハ本條約カ各國ニ外國人差別待遇ノ權能ヲ與フルモノナルヤノ印象ヲ與フル字句アルカ故ニ削除スヘシトノ意見ナリシカ二十七日ノ小委員會ニ於テ右印象ヲ與フル字句ヲ他ニ書キ換ヘ又經濟條約ニハ使用セサルコトヲ以テ例トスル Unfriendly Act ナル餘リニ強キ字句ヲ他ニ變更スルニ於テハ必スシ

モ本條第一項ノ存置ニ反對セスト述ヘタリ、然ルニ波蘭代表ハ何カ非友誼的行爲ナルヤ不明ニシテ本條ノ如キ漠然タル條項ハ國際紛爭發生ノ機會ヲ多カラシムルカ故ニ削除スヘキモノナリト主張セリ、然レ共他ノ委員ハ本項存置ヲ可ト認メ多數決ニ依リ字句變更ノ上存置スルコトニ決定シ同日開催ノ委員會第三回會議ニ其ノ旨報告シタリ

然ルニ同會議中右第一項ニ代ハヘキ案トシテ獨、伊、波ヨリ夫々提案スル所アリ、遂ニ具體案決定ニ至ラサリシヲ以テ本問題ヲ起草委員會ニ回付シ審議セシムルコト、セリ、起草委員會ニ於テハ種々審議シタルカ原案第一項ヲ基礎ニスルトキハ各國ヲ満足セシムル案ヲ作成スルノ困難ナルコトヲ見タリ

依テ伊藤參事官ハ左記案ヲ提出シ第一項ニ代ヘンコトヲ提議シタルカ各國委員之ニ贊成シ第四委員會ニ之ヲ提出スルコト、ナシタリ、其ノ案左ノ如シ

“The High Contracting Parties undertake, if and when they avail themselves of the faculties reserved to them under the provisions of the present Convention, not to do so in a manner unfriendly towards the nationals of one or more of the High Contracting Parties.”

右案ハ十一月三十日委員會第五回會議ニ附議セラレタルカ波蘭一國ヲ除ク全會一致ヲ以テ可決

セラレタリ

又原案第三項ハ別段ノ反對ナク些少ノ字句修正ヲ加ヘタル上委員會ノ可決スル所トナレリ

(第三) 尚波蘭委員ヨリ本條第一項ノ非友誼ナル字句ヲ説明スル爲ノ「プロトコール」ヲ入レンコトヲ提議シタルカ右可決セラレタリ其ノ結果委員會ノ採擇セル第十九條及其ノ「プロトコール」左ノ如シ

1) *The High Contracting Parties undertake, if and when they avail themselves of the faculties reserved to them under the provisions of the present Convention, not to do so in a manner unfriendly towards the nationals of one or more of the High Contracting Parties.*

2) *Whenever the present Convention accords in the territory of one of the High Contracting Parties to nationals of the first-named Party, the latter undertakes not to establish this system applicable to the nationals of the first-named Party, the latter undertakes not to establish this system in such a way as to imply provisions the application of which would amount to the absolute exclusion of nationals of the other High Contracting Parties or would lead to a system of differentiation to the detriment of the said nationals.*

Protocol and Article 19.

The “unfriendliness” referred to in the first paragraph of Article 19 shall be estimated with due reference to the general conditions under which the faculties have been exercised.

第二十條

(第一) 原案左ノ如シ

The High Contracting Parties undertake not to prejudice the guarantee of equality for national and foreign undertakings, as laid down in the preceding articles, by means of exemption from taxes or duties or by differential regulations affecting production, trade or the level of prices.

(第二) 本條モ亦十一月二十五日委員會第一回會議ノ後伊藤參事官ヲ議長トスル小委員會ニ回付セラレタル問題ナリ

帝國政府ニ於テハ我國ノ現行ノ各種ノ補助金、獎勵金等カ本條ノ適用ヲ受クルヤノ疑アリ一方内外企業ノ均等待遇ハ既ニ他ノ條文ニテ充分保障セラル、樣認メラル、ニ付本條削除ヲ主張スルヲ得策ト認メラレ其ノ主張方ヲ訓令セラレタルニ依リ帝國側ヨリ本條削除ノ提議ヲ爲シタルカ削除ヲ主張スルモノハ日本ノ外「ユーゴースラブ」一國ニ過キス依テ會議ノ否決スル所トナレリ、然レ共國內産業獎勵ノ爲各種ノ手段ヲ採用シ居レルモノハ多數アルニ依リ洪、「ブルガリア」、埃、「チニコ」、西、「ラトヴィア」、土、印等ヨリ右保護手段ヲ例外トシテ承認スルコトニ條項ヲ改正セントスル大同小異ノ提案アリ右ノ中洪牙利、「ブルガリア」兩國改正案ヲ採用

スルコトニ決定シ他ノ諸國ハ右ニ満足シテ自己修正案ヲ撤回スルコト、ナレリ

右第二十條ニ前記ノ如キ例外規定ヲ認ムルコトニ付テハ相當強キ反對アリ二十七日小委員會ニ於テ右ヲ審議シタル際ニモ又同日委員會第三回會議ニ於テ審議シタル際ニモ可否投票ノ差ハ極メテ僅少ニ過キサリキ(註、缺席者多數アリシヲ以テ總會ニ附議ノ場合會議全體トシテノ空氣ハ何レニ傾クヤ俄ニ豫斷シ難シ)

委員會ノ採擇セル第二十條左ノ如シ

“Without prejudice to the stipulations of the laws on the encouragement of home industries, and of the laws relative to the award of contracts concluded by public authorities as a result of tenders, the High Contracting Parties undertake not to prejudice the guarantees of equality for national and foreign undertakings as laid down in the preceding articles by means of exemption from taxes or duties or by differential regulations affecting production, trade or the level of prices.”

(第三) 尙本案ニ關シ「ブラシル」代表ハ「ダンピング」防止ノ手段ニ付差別待遇アルモ其ハ承認スヘキナリトテ左記ノ追加ヲ提議シタルカ「ダンピング」ハ複雑ナル問題ナルコト及關稅ヲ以テ之ヲ防止シ得ヘキコト等ノ理由ニ依リ委員會ノ多數ハ之ニ反對セリ

“The principle of equality as between national and foreign undertakings shall not be deemed to be impaired by measures taken by way of penalties by one of the High Contracting Parties in regard to a national, a group of nationals, or a company controlled by nationals of another High Contracting Party, when such national, group or company has practised dumping, consisting chiefly of selling or attempting to sell national products in the territory of another High Contracting Party below cost price.”

第二十一條

(第一) 原案左ノ如シ

1. If after signing the present Convention, and within the limits thereof, a High Contracting Party places any restriction on the previously authorized operations of nationals or companies of the other High Contracting Parties, it must nevertheless as far as possible respect acquired rights.

2. Generally speaking, the High Contracting Parties undertake to avail themselves of the reservations provided for in the present Convention only in such a way as will cause least prejudice to international trade.

(第二) 本條モ亦十一月二十五日第四委員會第一回會議ニ於テ一般討議ノアリタル後伊藤參事官ヲ議長トスル小委員會ニ附議セラレタル條項ナルカ十一月二十八日小委員會第三回會議ノ際審

議セラレ原案ノ儘存置ニ決シ其ノ趣同日ノ第四委員會第四回會議ニ伊藤參事官ヨリ口頭ヲ以テ報告シ小委員會決定ノ通可決セラレタリ

本條ハ既得權尊重ノ規定ナルカ其ノ審議中或ル委員ハ本條ハ國家ノ賠償責任ト關係アルコトヲ指摘シ右責任ハ國際法上認メラレタル原則ナルモ責任ノ性質及範圍ヲ決定スルコト困難ナルノミナラス尙既得權カ何ナルヤモ明確ニ定メラレ居ラス殊ニ近ク國際私法ニ關スル會議モアルコトナレハ本條ハ削除スル方可ナリトノ意見ヲ述ヘタルカ多數ハ本條ノ原則カ正當ナルハ疑ナク又其ノ規定ハ充分ニ彈力性ヲ有スルモノナレハ之ヲ存置スルニ何等ノ差支ナク將來開催セラルヘキ國際會議ニ於テ如何ニ取扱ハル、ヤ不明ナルニ其ノ結果ヲ賴ミ本條ヲ削除スルハ不可ナリトノ意見ニテ之ヲ可決スルニ至レルモノナリ

(第三) 尙本條ハ締約國ハ本條約調印後(批准前ニモ)既得權ヲ尊重スヘシトノ規定ニテ條約ニ遡及效ヲ認ムルモノナルニ依リ調印後ヲ批准後ト修正スルカ或ハ又「調印後」ナル字句ヲ削除シ遡及效ヲ認メサル方カ適當ナルヘシトノ意見ヲ日本委員ヨリ開陳シタルカ此ノ種ノ遡及效ヲ認ムルノ例ハ他ノ國際條約ニ先例モアリトノ理由ニテ其ノ儘原案ニ變更ヲ加ヘサルコトトナレリ

(第四) 尙又佛國委員ヨリ第一項ノ終ヲ左ノ如ク改正スヘシト提議シタルカ多數ハ原案ノ方ヲ可ト認メ佛國修正案ヲ否決セリ、蓋シ原案ノ方カ既得權尊重ヲ確保スレハナリ

Modify the end of paragraph 1 as follows: ".....nationals or companies of the other High Contracting Parties, it must nevertheless take vested rights into account."

第二十二條

(第一) 原案左ノ如シ

The High Contracting Parties agree that all disputes which may arise between them relating to the interpretation or application of this Convention shall, if they cannot be settled by direct negotiations or by some other method of amicable settlement, be referred for decision to the Permanent Court of International Justice. The matter may be laid before the Court if necessary by means of an application from one of the Parties. Should both States between whom a dispute arises, or one of them, not be Parties or Party to the Protocol of December 16th, 1920, relating to the Permanent Court of International Justice, the dispute shall be referred, at the choice of the Parties and in accordance with the constitutional procedure of each, either to the Permanent Court of International Justice or to a Court of arbitration constituted in accordance with the Convention of October 18th, 1907, for the Pacific Settlement of International Disputes, or to some other court of arbitration.

(第二) 本條ニ付テハ二十六日委員會第二回會議ニ於テ討議行ハレタルカ獨逸代表ノ特別小委員會組織ノ提議 (C. I. T. E./D/14) ハ否決セラレ起草委員會ニ回付スルコト、ナレリ當日ノ主要論議左ノ如シ

(イ) 國際司法裁判所ニ附議スルニ先チ簡單ナル仲裁々判又ハ和解ノ機關ニ附議スルコト、スヘシ

此ノ論ハ本條約ノ適用及解釋ニ關シ生スル紛争ハ多數アルヘキ處之ヲ一々國際司法裁判所ニ附議スルトキハ其ノ解決ニ時間ヲ要シ又費用ヲ要スルカ故ニ適當ニシテ簡單ナル仲裁機關ヲ設ケ先ツ之ニ附議スルノ途ヲ定ムルヲ可トスト云フニ在ルナリ、此ノ議論ニ對シテハ本條ハ他ノ平和的解決方法ニ依ルヲ妨クルモノニアラサルカ故ニ特ニ右ノ如キ規定ヲ設クルノ必要ナカルヘク關係國ハ問題ノ性質ニ鑑ミ或ハ國際司法裁判所ニ附議スヘク或ハ他ノ方法ニ依ルヘシト論セラレタリ

(ロ) 和蘭ヨリ原案ニ代ヘ左記ヲ採用センコトヲ提議シタルカ多數ハ之ニ賛成シ同案ヲ基礎トシ本條ヲ作成スヘシトセリ

“The High Contracting Parties agree that all disputes which may arise between them relating to the interpretation or application of the present Convention shall, if they cannot be settled by direct negotiations, be referred, at the request of one of the parties to the dispute, to the Permanent Court of International Justice unless, in application of an existing convention or in virtue of a special agreement to be concluded, the dispute is settled by arbitration or any other means.”

(ハ) 瑞西代表ハ本條ハ國際司法裁判所ノ管轄權ヲ強制的ニ承認セシムルコト、ナリ居レルカ故ニ國際司法裁判所ニ加入シ居ラサル諸國ニトリテハ其ノ受諾ヲ困難トスヘシト論シタルカ多數ハ本條ハ他ノ平和的解決方法ヲ排斥スルモノニ非サルニ依リ其ノ議論ハ當ラストセリ

(ニ) 白耳義代表ハ國際司法裁判所規程第三十六條ノ選擇條項ヲ受諾セル國ト然ラサル國トノ間ニ差異アルニ拘ハラズ本條ハ之ヲ認メス右選擇條項ヲ承認セル國ニ付テモ國際司法裁判所以外ノ和解手續ヲ認ムルコト、ナシ居レルカ故ニ右選擇條項ヲ採用セル國ノ受諾ヲ困難トスヘシトノ議論ヲナシ左記ヲ挿入センコトヲ提議セリ

“The provisions of the present Article shall not affect obligations arising out of Article 36 of the Statute of the Permanent Court of International Justice.”

然レ共委員會ハ右ハ杞憂ニ過キス選擇條項ヲ受諾セル國ト雖モ留保ヲナスノ權利ヲ有シ又爭議解決ノ爲ニ別ノ條約ヲ作ルコトヲ妨クルモノニ非サルカ故ニ右ノ如キ條項挿入ノ必要ナシトセリ

(ホ) 其ノ他諸國ノ提議セル主要修正案左ノ如シ

洪牙利 國際司法裁判所ノ判決ハ最終決定トシ之ヲ遵守スヘキモノナルコトヲ條文中ニ記載スヘシ (準備調書第八十四頁參照)

土 仲裁々判所ノ代リニ仲裁人ニ附議シ得ルコトヲ明記スヘシ (C. I. T. E./Com. D/16 參照)

波 本條ノ適用ハ條約ノ解釋ニ關スル紛争ニ限り適用ニハ及ホサシムルヘカラス (C. I. T. E./Com. D/16 參照)

「ヴェネズエラ」 本條ノ末尾ニ左記ヲ附加スヘシ

“In no case may the provisions of the present Article affect the principle that disputes between a State and foreign nationals must be submitted to the decision of the former's Courts of Justice.”

伊 本條適用條項中ヨリ第七條(a)項及(b)項第十九條及第二十一條ハ之ヲ除外スヘシ(c)

1. T. E. 18 參照)

二十六日ノ委員會ハ右諸國修正案中洪、土、波三國提議ハ何レモ之ヲ採用スルノ要ナシト認メ「ヴェネヅエラ」修正案ニ付テハ同國代表ヨリ右ハ他國カ第二十二條ニ依リ干涉スルヲ防止スルノ保障ヲ得ンカ爲ノモノナリトノ説明アリタルカ右ハ單ニ外國人カ其ノ政府ニ對シ外交上ノ保護ヲ請求スヘキモノナリトスルノ意ナルヤ將又其レ以上ノ意義ヲ有スルモノナリヤ明白ナラストシ兎モ角モ「ヴェネヅエラ」代表同意ノ下ニ同案ハ起草委員會ニ回付スルコトニ決定セリ、尙伊太利提案ニ付テハ單ニ同國代表ノ陳述ヲ聞キタルノミニテ何等ノ決定ヲナサス將來ノ留保問題トシテ之ヲ殘セリ

(第三) 偕起草委員會ヨリハ左記案ヲ提出シ來リ十一月三十日委員會第五回會議ニ附議セラレタルカ之ニ對シ一國モ反對スルモノナク全會一致ヲ以テ可決セリ

其ノ條文左ノ如シ

“The High Contracting Parties agree that all disputes which may arise between them relating to the interpretation or application of the present Convention shall, if they cannot be settled

by direct negotiations, be referred, at the request of one of the parties to the dispute, to the Permanent Court of International Justice unless, in application of an existing convention or by joint agreement, the dispute is settled by arbitration or any other means.”

(第四) 帝國政府ニ於テハ本條項ノ削除ヲ希望セラル、趣ナリシモ會議參加國ハ總テ之ニ贊成シ一國モ其ノ削除ヲ主張スルモノナク強テ之ニ反對スルモノ其ノ目的ヲ貫徹シ能ハサルコト明瞭ナリシノミナラス徒ニ帝國ノ眞意ヲ誤解セシメ將來ニ惡影響ヲ及ホスノ虞アリト考ヘラレタルニ依リ帝國代表ハ本條ノ投票ニ際シテハ單ニ棄權スルニ止メ置キタリ、蓋シ委員會ノ決定ニ付テハ總會ニ於テ再審議スル筈ニシテ政府ノ御訓令ヲ待チ其ノ際必要ナル意見ヲ開陳シ得レハナリ

本問題ニ關シテハ將來ノ會議ニ對スル準備ノ御研究ニ際シ更ニ御詮議アラントヲ希望ス惟フニ日本ヲ除キ他ノ諸大國何レモ國際司法裁判所規程第三十六條ノ選擇條項ニ調印シ右ヲ受諾セル國ノ數既ニ約四十個國ニモ及ヘル今日ニ於テハ内容ニ重要問題ヲ含ム場合ト雖モ國際聯盟主催ノ下ニ開催セラルル諸國際會議ニ於テ此ノ種ノ規定ヲ削除センコトヲ主張スルモ到底其ノ目的ヲ貫徹スルコトハ不可能ナルヘク徒ニ日本ニ反感ヲ有スル惡宣傳者ニ好材料ヲ供スルニ

終ルヘシ、平和ノ爲危險ヲ冒スハ戰爭ノ危險ニ優レリトハ多數有識者ノ高唱スル所ニシテ國際紛爭解決ノ爲國際司法裁判所ヲ利用セントスルノ風愈々盛ニナラントシツ、アル今日ナレハ帝國ハ寧ロ進ンテ此種ノ規定ニハ贊意ヲ表シ他方德望高キ有爲ノ法律家ヲ海牙國際司法裁判所ニ送ルニ努メ以テ帝國ノ利益擁護ヲ確保スルコト可然哉ニ存セラル

第二十三條乃至第二十六條

右ハ條約ノ調印、批准、加入、效力發生、脫退等ニ關スル規定ニシテ別段重要ノ規定ナキカ故ニ單ニ議論アリタル點ヲ記載スルニ止メン、此等諸條項ハ委員會ヨリ起草委員會ニ附託シ同委員會ノ提案ヲ委員會カ可決シ決定ニ至レリ

(イ) 第二十三條ニ關シ十一月三十日ノ委員會第五回會議ノ際獨逸代表ヨリ關係國ノ請求ニ基キ國際聯盟事務局ニテ公認ノ譯文ヲ作り關係國ハ條約ノ適用ニ關シ自國ニ關シテハ右ヲ以テ正文ト看做シ得ルコトヲ規定スル左記規定ヲ第二十三條第二項トシテ加ヘンコトヲ請求シタルカ英國代表ハ本會議ハ右ノ如キコトヲ決定スルノ權限ナシトシ他ノ諸國代表モ或ハ公認ノ譯文ハ參加國總テノ承認ヲ要スルモノナリトノ理由、正式ニ效力ヲ有スルモノハ各國代表ノ調印シタル文書ニ限ルトノ理由ニ依リ之ニ反對シタリ、獨逸代表ハ各國ヲシテ條約正文ニ成ル可ク相違セサ

ル自國語ノ條約文ヲ得セシメンカ爲本提案ヲ爲シタルモノナルカ本問題ハ或ハ聯盟理事會又ハ總會ノ決定スヘキモノナルニ依リ本會議カ本提議ノ包含スル主義ヲ承認スルニ於テハ滿足スヘシト述ヘタリ、獨逸代表同意ノ下ニ本案ハ起草委員會ニ回付シ適當ト認ムルニ於テハ最終議定書中ニ何等カノ記載ヲスルコト、ナレリ、獨逸提案左ノ如シ

Official translations may, at the request and with the assistance of the interested Governments, be drawn up by the Secretariat of the League of Nations and deposited with the Secretary-General. It will be open for the Governments concerned to consider such translations as authoritative in their respective countries for the application of the Convention.

尙十二月四日ノ委員會第五回會議ニ於テモ獨逸代表ヨリ本問題ヲ提起シタルカ四對九ヲ以テ否決セラレタリ

獨逸ハ今後モ機會アル毎ニ此ノ種ノ提議ヲナスヘキコト、思考セラル、處公認譯文作成ノコトハ帝國ニトリテハ無用ノ手數ヲ増加スルノミニテ何等ノ實益ナカルヘク又各國カ夫々公認譯文ヲ有スルコトニナリテハ條約ノ適用上複雑ナル問題ヲ惹起スルノ虞モアレハ帝國側ハ之ニ反對シ置キタリ、因ニ起草委員會ノ本問題ニ關スル意見ハ左記ノ如ク同意見ハ十二月四日第四委員會ニ於テ可決セラレタリ

“D,” the Drafting Committee has examined with great care the German Delegation's proposal with regard to the preparation of official translations.

The Committee, while recognising the importance of each country's having as faithful a translation as possible of the authoritative texts of a Convention in order to facilitate its application, is unanimously of opinion that the question is not within the competence of an international conference, whose powers are confined to the preparation of a text in the language or languages regarded as authoritative.

It will be for each State to arrange for the preparation of an official translation if it thinks it necessary, but this translation cannot have any international value in the relations between the High Contracting Parties.

In these circumstances the Committee is of opinion that no wish or recommendation should be adopted on this point.

- (ロ) 第二十六條、原案ニテハ二國カ批准スルノミニテ効力ヲ發生スルコト、ナリ居ルモ英、「チエッコ」及其ノ他ノ諸國ハ之ヲ増加スルヲ適當ト認メ其ノ修正ヲ提議シ結句之ヲ十國ニ増加スルコト、ナレリ、和蘭ハ餘リニ多數トスルトキハ條約ノ効力發生ヲ困難ナラシムルトノ理由ニヨリ六國トセンコトヲ提議シタルカ委員會ハ之ヲ否決セリ

尙起草委員會ハ全然本條ヲ書換ヘ新ニ一定期日迄ニ條約ノ効力發生ニ必要ナル數ノ批准國ヲ得

サル場合ノ措置ヲモ規定セリ

(ハ) 第二十六條ノ二

原案ニハ留保ニ關スル規定ハ無カリシモ起草委員會ノ提議ニ依リ委員會ハ左記ヲ採用スルコトニ決定セリ、本案審議中留保承認問題ハ本會議ノ權限ナルヲ以テ委員會ハ之ヲ審議セサルヲ可トストノ意見アリタルカ各國代表ハ總會ニ於テ自由ニ本問題ヲ討議シ得ルヲ以テ委員會ニ於テ案ヲ決定スルモ差支ナシトノ理由ニ依リ多數決ヲ以テ之ヲ採擇シタルモノナリ
委員會ノ採擇セル第二十三條乃至第二十六條左ノ如シ

Article 23.

The present Convention, of which both the French and English texts shall be authentic, shall bear this day's date; it shall remain open for signature until March 31st, 1930 on behalf of any Member of the League of Nations, and of any non-Member State which was represented at the Conference of Paris or to which the Council of the League of Nations shall have communicated a copy for this purpose.

Article 24.

The present Convention shall be ratified as soon as possible. The instruments of ratification

shall be transmitted to the Secretary-General of the League of Nations who shall notify this deposit to all the Members of the League of Nations and all the non-Member States mentioned in Article 23.

Article 25.

As from April 1st, 1930, the present Convention may be acceded to on behalf of any Members of the League of Nations or any non-Member State mentioned in Article 23. Accessions shall be effected by notifications addressed to the Secretary-General of the League of Nations who shall notify their receipt to all the Members of the League of Nations and all the non-Member States mentioned in Article 23.

Article 26.

Without prejudice to the provisions of the second paragraph of this Article, the present Convention shall come into force two months after the date on which ratifications or definitive accessions on behalf of ten Members of the League of Nations or non-Member States mentioned in Article 23 have been received by the Secretary-General of the League of Nations.

If on December 31st, 1930, the number of ratifications or definitive accessions required for the entry into force of the Convention have not been received, the Secretary-General of the League of Nations shall consult the Members of the League of Nations and non-Member States on whose behalf

ratifications or definitive accessions have been deposited, as to whether they desire that the Convention shall be put into force between them on a date to be fixed by agreement. If the replies of the said Members of the League of Nations and non-Member States are unanimous in desiring the entry into force of the Convention as aforesaid, the date so agreed upon shall be communicated to the other Members of the League and non-Member States mentioned in Article 23, and the latter, if thereafter ratifications or definitive accessions are deposited on their behalf, shall be deemed to have thereby accepted the Convention in the conditions aforesaid. If the replies are not unanimous, all the Members of the League and non-Member States mentioned in Article 23 shall consider the course to be adopted after being consulted by the Secretary-General of the League of Nations.

Every ratification or definitive accession deposited or notified after the entry into force of the Convention shall take effect two months after the date of its deposit or notification.

Article 26 bis.

The High Contracting Parties agree to accept only those reservations to the application of the Convention which are set forth in the Protocol to this Convention and in respect of the countries therein named.

第二十七條

本條ハ條約脫退ニ關スル規定ナルカ之ニ關シ英國及和蘭ノ修正案提出アリ (C.I.T.E./Com. D/16).

效力發生ノ爲必要ナル批准國數ヲ増加シタルニモ鑑ミ適當ナル修正ヲ加フルコト必要ト思考セラ
ル、モ審議ノ時日ナカリシ爲本條改正ヲ審議スルニ至ラサリキ

第二十八條

(第一) 本條ハ植民地ニハ本國ノ加入ニ依リ必スシモ直ニ本條約ヲ適用セシメス本國カ加入ニ際
シ保留スルニ於テ該保留植民地ニ關シテハ各別ニ參加ヲナサシメ其ノ上ニテ效力ヲ發生スルコ
トヲ得セシムルノ規定ナリ、十一月二十六日委員會第二回會議ニ於テ一般討議ヲナシタル後
英、白、蘭、土、葡五國委員ヲ以テ組織スル小委員會ニ附議スルコトニ決シタルカ同小委員會
ハ原案ヲ基礎トシ之ニ字句ノ修正及追加ヲナシタル案ヲ作成シ之ヲ委員會ニ提出シタルニ依リ
委員會ハ十一月二十七日第三回會議、十一月二十八日第四回會議ニ於テ再審議ノ上之ヲ起草委
員會ニ附議シ十二月四日第六回會議ニ於テ起草委員會ノ提案ヲ採擇シ本條ノ審議ヲ終レリ
右小委員會提案左ノ如シ(「イタリック」ノ部分ハ修正又ハ追加セラレタル部分ナリ)

“The High Contracting Parties may at the time of signature, ratification or accession declare
that, in accepting the present Convention, they do not assume any obligations in respect of all
or any of their colonies, protectorates, overseas territories or territories under suzerainty or

mandate, and that the present Convention shall not apply to any territories named in such
declaration.

*No High Contracting Party shall be obliged to accord wholly or in part any of the benefits
provided for in the present Convention to nationals of any other High Contracting Party belonging
to any colony, protectorate, overseas territory or territory under suzerainty or mandate to which the
Convention does not apply.*

“The High Contracting Parties may give notice to the Secretary-General of the League of
Nations at any time subsequently that they desire that the Convention shall apply to all or any
of their territories which have been made the subject of a declaration under the preceding para-
graph, and the Convention shall apply to all the territories named in such notice ninety days
after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

“Similarly, the High Contracting Parties may at any time declare that they desire that
the present Convention shall cease to apply to all or any of their colonies, protectorates, overseas
territories or territories under suzerainty or mandate, and the Convention shall cease to apply to
the territories named in such declaration within one year after its receipt by the Secretary-
General of the League of Nations.

Protocol ad Article 28.

Nothing in Article 28 shall be construed as affecting the rights or obligations of mandatory Powers under the Covenant of the League of Nations or under the terms of the mandate or mandates which they exercise.

而シテ右ニ更ニ修正ヲ加ヘ委員會ニ於テ採擇セラレタル案ハ左ノ如シ

1. Any High Contracting Party may, at the time of signature, ratification or accession, declare that, in accepting the present Convention, he does not assume any obligations in respect of all or any of his colonies, protectorates, overseas territories or territories under suzerainty or mandate; and the present Convention shall not apply to any territories named in any such declaration.

2. Any such High Contracting Party may give notice to the Secretary-General of the League of Nations at any time subsequently that he desires that the Convention shall apply to all or any of his territories which have been made the subject of a declaration under the preceding paragraph, and the Convention shall apply to all of the territories named in such notice two months after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

3. Any High Contracting Party may at any time after the expiration of the period mentioned in Article 27 declare that he desires that the present Convention shall cease to apply to

all or any of his colonies, protectorates, overseas territories or territories under suzerainty or mandate, and the Convention shall cease to apply to the territories named in such declaration one year after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

4. The Secretary-General of the League of Nations shall inform all Members of the League of Nations and all non-Member States mentioned in Article 23 of all declarations and notices received in virtue of this article.

5. No High Contracting Party shall be obliged to apply the provisions of the present Convention to the nationals of any other High Contracting Party belonging to any colony, protectorate, overseas territory or territory under suzerainty or mandate of the latter High Contracting Party to which the Convention does not apply in conformity with the preceding paragraphs of the present Article.

Protocol ad Article 28.

Nothing in Article 28 shall be interpreted as in any way prejudicing the rights and obligations of any mandatory Power under the Covenant of the League of Nations or under the terms of any mandate or mandates which is exercised by such Power.

最後ニ採擇セラレタル案ト小委員會案トノ差異ハ單ナル字句ノ修正ノ外小委員會ニハナカリシ

「聯盟事務局長ハ植民地ノ加入及脱退ニ關スル通告ヲ本條約第二十三條ニ掲クル聯盟國及非聯盟國ニ通告スヘシ」トノ新規定ヲ第四項トシテ加ヘタルコト及小委員會第二項ヲ最後ニ置キ第五項トナシタル點ニアリ、帝國政府ニ於テハ將來朝鮮、臺灣、樺太、關東州等ヲ保留スル場合ヲ慮リ *overseas territories* ノ文字ヲ加フヘキコトヲ希望セラル、旨ノ訓令アリタルニ依リ前記小委員會ノ組織セラルルヤ右ノ趣ヲ英國委員ニ通シ依頼シタル處他ニモ同様ノ希望アル趣ニシテ其ノ快諾アリ右ハ容易ニ目的ヲ達スルコトヲ得タリ

(第二) 本條ニ關シ注意スヘキ各國ノ主張及提議左ノ如シ

(イ) 和蘭ハ植民地ノ加入ヲ容易ナラシムル爲調印ノ際本條第一項ノ留保ヲ爲サ、リシ場合ニ於テモ本條約ノ或ル條項ヲ植民地ニ適用スルコトニ付テハ後ニ留保ヲナスノ權利アルコト但シ右留保ハ締約國ノ同意ヲ必要トスルコト若シ後ニ植民地ヲ加入セシメントスル場合ニ於テハ之ヲ國際聯盟事務總長ニ通知スヘキコト國際聯盟事務總長ハ本條約ノ批准國及參加國ニ右植民地ニ關スル留保ヲ通知スヘク右通知ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ反對ナキトキハ右留保ヲ承認セラレタリト看做スコトヲ規定スル左記「テキスト」ヲ挿入センコトヲ提議シタリ (C. I. T. E. /Com. D/25)

The High Contracting Parties who, at the time of signature, do not make the declaration provided for in Paragraph 1 shall be entitled to make reservations with regard to the application of certain stipulations of the Convention to their colonies, etc. These reservations, however, must be approved by the other High Contracting Parties. Should they subsequently wish to accede to the Convention in respect of their colonies, etc., they shall notify the Secretary-General of the League of Nations of their intention. The latter shall immediately communicate these reservations to the Governments of all the countries on behalf of whom an instrument of ratification or accession has been deposited, asking them whether they have any objections to put forward. If within a period of six months from the said communication no country has raised an objection, the reservation in question shall be considered as accepted.

右ニ關シ十一月二十八日委員會第四回會議ノ際討議アリ英國代表ハ植民地ト雖モ其ノ留保ニ付テハ本國政府ト同様ノ手續ニ依ルヘキモノナリト論シタルカ和蘭委員ハ植民地ニ關シ特別ノ留保ヲ認メタル先例アリト應酬セリ、右討議ノ後本問題ハ前記第二十八條小委員會ニ附託セラレタルカ同小委員會ハ成ル可ク多數ノ植民地ヲ加入セシムルコトハ望マシク之ヲ實現セシメンカ爲ニハ植民地ノ爲特別ノ留保ヲ認ムルコト或ル場合ニハ必要ナルヲ以テ和蘭提案ハ受諾スヘシトノ意見書ヲ作レリ (C. I. T. E./Com. D/28) 十二月四日委員會第六回會議ハ右

小委員會意見ヲ可決セリ

- (ロ) 獨逸代表ハ十一月二十八日委員會第四回會議ノ際聯盟規約第二十二條末項ノ(e)ヲ引用シ本條約ヲ委任統治地域ニ對シテ適用スルハ當然ニシテ本條ニ規定スル特別留保ヲ同地域ニ對シテハ許スヘキニ非スト主張シ委任統治地域ナル文字ノ削除ヲ主張シタルカ多數ハ之ニ贊成セス委員會採擇ノ案ニハ依然同文字殘ルコト、ナレリ

- (ハ) 本條小委員會ハ national (resortissant) ノ意義ヲ研究シタルカ一般ニ採用セラレ又特ニ平和條約ニ採用セラレ居レル廣義ノ意味ニ之ヲ解釋スヘキモノナリトセリ、即チ締約國ノ殖民地、保護領、海外領土、委任統治ノ人民ヲ含ムヘキモノナリトセリ、小委員會案ノ新第二項(即チ委員會採擇案ノ第五項)ハ右解釋ノ結果殖民地ノ人民カ一方的ニ利益ヲ受クルコトヲ防止スル爲ニ設ケラレタルモノナリ (C. I. T. E./Com. D/23 Observation 參照)、第四委員會ハ右ノ意見ヲ可決セリ

- (ニ) 本條約第一條ニ關シ住民 (residents) ト非住民 (non-residents) トヲ區別スヘキヤノ問題カ第一委員會ヨリ第二十八條小委員會ニ附託セラレタルカ同小委員會ハ右ノ如キ區別ヲ認ムルハ適當ナラストセリ、右ノ如キ區別ヲナストキハ本條項適用ノ範圍ヲ著シク減シ其ノ結果面白

- カラス又多數條約ニ於テ右ノ如キ區別ヲ爲サストセリ (C. I. T. E./Com. D/23 a. 第1項參照)
- (ホ) 第三委員會ハ第十六條ハ殖民地保護領其ノ他ニモ適用アリヤノ問題ヲ第二十八條小委員會ニ附託シタルカ第十六條ヲ本條約ノ他ノ條項ト區別スルノ必要ナク從ツテ第二十八條ニ規定スル保留ハ會社ニモ同様適用アリトセリ、而シテ此ノ點ニ關シ何等ノ規定ヲ挿入スルノ必要ナキモ爭議ヲ避ケンコトヲ欲スルニ於テハ報告書中ニ記載シ置カハ可ナリトセリ (C. I. T. E./Com. D/23 a. 第二項參照)

- (ヘ) 十一月二十八日委員會第四回會議ニ於テ小委員會案審議ノ際同案第二項(第四委員會採擇第二十八條第五項ニ相當ス)ハ實際ノ適用ニ困難アリトノ點ヲ伊藤代表ヨリ指摘シタルカ英國代表始メ何レモ之ヲ認メタリ、而シテ英國代表ハ nationals ニ代ルヘキ適當ナル字句アラハ之ヲ使用スルニ吝ナラスト述ヘタリ、起草委員會ニ於テ研究スルコト、ナレルモ他ニ適當ナル表示方法ヲ發見スルニ至ラザリキ

英國提議ノ新條項

英國代表ヨリ十一月二十五日委員會第一回會議ニ於テ第二十條ヲ討議シタル際左記新條項ヲ第二十一條ノ後ニ別ノ條項トシテ加ヘンコトヲ請求シタリ

Article A.

“1. Nothing in the present Convention shall be held to derogate from the obligations in international law of any High Contracting Party with regard to the treatment of the nationals and companies of any other High Contracting Party.

2. The present Convention shall not absolve any High Contracting Party from granting to the nationals and companies of another High Contracting Party any treatment provided for in the terms of any treaty or agreement in force between the two Parties which is more favourable than the treatment provided for in the present Convention.”

右い起草委員會ニ付議セラレタルカ同委員會ハ審議ノ末第二十一條ノ二及第二十一條ノ三トシテ左記ヲ採用センコトヲ委員會ニ提議セリ、十二月四日委員會第六回會議ハ右起草委員會案ヲ可決セリ、「テキスト」左ノ如シ

Article 21 bis.

Nothing in the present Convention shall be deemed to prejudice any provisions in any other convention, treaty or agreement at any time in force between any of the High Contracting Parties, under which treatment more favourable than the treatment provided for in the present convention is granted to the nationals or companies of any other High Contracting Party.

Article 21 ter.

The present Convention shall not in any way affect rights and obligations arising from the Covenant of the League of Nations.

右第二十一條ノ二ハ日支條約等ノ關係ニ鑑ミ帝國ニトリテモ注意ニ値スル規定ナリ

英帝國ニ屬スル諸政府代表ノ宣言

十一月二十七日委員會第三回會議ノ際英國代表ハ英國カ英帝國所屬ノ各領土ノ人民及會社ニ對シ自由ニ第二條、第七條第二項、第八條ノ「プロトコール」、第十條第三項及第四項、第十六條第七項及第十七條ニ關シ特惠ヲ與フルコトヲ得ヘク右特惠ニ關シテハ他ノ締約國ハ之ニ均霑ヲ請求スルコトヲ得スト解釋スル旨ノ宣言ヲ爲シ印度、加奈陀ノ代表之ヲ支持シタルカ議長ヨリ右ハ總會議ニ於ケル問題ナリトノ意見ヲ述ヘタル爲其儘打切リトナレリ、英國代表カ宣言中ニ舉ケタル諸條項ハ條約中國民待遇ヲ規定スル條項ハ之ヲ除キタルモノナリ（宣言「テキスト」C. I. T. E./36 參照）

第七章

委員會報告審查及會期終了議定書作成

第七章 委員會報告審查及會期終了議定書作成

第一節 委員會報告審查

十一月七日以來委員會引續キ開催セラレ居リシ爲總會ハ久シク休會トナリ居リタル處十一月二十九日之ヲ再開シ討議ヲ終了セル委員會ノ報告書ヲ審議スルコトニ決シ先ツ最早ク事業ヲ終了セル第二委員會報告 (C. I. T. E. 27 及 C. I. T. E. 29) ヨリ審議ヲ開始スルコトトセリ

然ルニ二十九日及三十日ノ兩日右報告書ニツキ第三條、第四條及第十三條第二項並右各條關係議定書規定ヲ審查シ本委員會ノ意見ヲ決定シタル處第十二條第二項ニ關シ自由主義國ト制限主義國トノ主張離反シ到底各條審議ヲ續行スルコト不可能トナリタルヲ以テ會議ハ十二月二日ヨリ報告書審查ヲ中斷シ今後如何ニシテ事業ヲ繼續スルヤノ手續問題ヲ論シタルカ遂ニ十二月四日ニハ會議ヲ一時中止シ將來更ニ第二回會議ヲ開催スル趣旨ノ會期終了議定書ヲ採擇スルコトトナリ從テ第二委員會報告書審議モ中斷セラルルノ結果トナレリ

十一月二十九日及三十日ノ兩日ニ互ル第二委員會報告審查ノ要領左ノ如シ

(第一) 第三條及第四條存廢論

各國ハ各々其ノ立場ニ從ヒ第三條及第四條ノ存廢ニ關シ第二委員會ニ於テ發表セルト同様ノ意見ヲ述ヘ議論ヲ上下セリ

存置論（英、佛、獨、和蘭、洪牙利等）ハ本條カ經濟的見地ヨリ極メテ重要問題ナルニ鑑ミ實際的ニ之ヲ規定スルヲ要シ此ノ機會ヲ逸セハ再ヒ斯ル好機會ハ來ラサルヘク且此ノ種ノ原則ヲ外國人待遇條約中ニ規定スルコト何等不都合ナラサル旨ヲ主張シ廢止論（伊、西、「ヴェネズエラ」、「サルヴァドル」等）ハ本條ハ物品ニ關スル規定ニシテ之ヲ外國人待遇條約中ニ挿入スルコト不適當ナルノミナラス本問題ハ關稅及課稅問題ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ斯ル複雜困難ナル問題ヲ提起スルカ如キ條文ハ之ヲ削除スルヲ可ト認ムル旨主張シ「ヴェネズエラ」ノ如キハ本二條ハ農業國又ハ小工業國ト大工業國トニトリ大イニ價值ヲ異ニシ後者ニノミ利益ヲ與フル結果トナルヘキ旨ヲ説明セリ（伊國ハ元來廢止論者ナリシモ多數國カ存置論ナラハ之ニ反對セサルヘキ旨宣言セリ）

伊藤代表ハ本邦カ削除ヲ主張スル理由ヲ説明シ本條約ハ元來人ノ待遇ニ關シ物ノ待遇ニ關スルモノナラス又國內課稅ニ付均等待遇ヲ規定スルモ別ニ關稅アリ之ニヨリ外國品ニ差別的待遇ヲ與フルコトヲ得ルノミナラス世界ノ實狀ヲ見ルニ內國稅ニ付テハ差別的待遇ヲ設クルモノ稀ナ

リ、故ニ第三條、第四條及第十二條第二項ハ存廢ニヨリ其ノ實際的結果ニ於テ殆ント變ル所ナシ、殊ニ第四條ハ廣汎且曖昧ニ失シ受諾困難ナリ、又之等條項ハ適用上幾多技術上ノ困難アルコト諸國代表ノ開陳セル意見ニ依ルモ明カナリ、即チ日本代表ハ理論上ヨリスルモ實際的見地ヨリスルモ之ヲ削除スルコト可ト認ムルモノナルモ日本カ本條ノ主義原則ニ反對スルモノニアラサルコトハ勿論ニシテ右ハ日本カ本條ト同趣旨ノ條項ヲ有スル多數ノ條約ヲ締結シ居ルノ事實ニ鑑ミルモ明カナルヘキ旨ヲ陳述シタリ

右討論ノ後第三條、第四條及第十二條第二項ノ存廢ニ關シ投票ノ結果十七票對十三票（十七票ノ棄權又ハ欠席）ニテ存置ニ決定セリ

（第二） 各條内容ノ審議

（イ） 第三條——獨逸代表ヨリ曩ニ第二委員會ニテ削除ニ決定セル「Conditionnement」ナル語ヲ復活センコトヲ求メ投票ノ結果復活ニ決定シ第三條可決

（註） 右 Conditionnement ナル語ハ商品ノ荷造リ（Packing）若クハ整理（get-up）ヲ意味スルモノナリ

（ロ） 第三條關係議定書規定——第一項後段ハ「第三條ノ規定ハ關稅及其ノ他物品ノ出入ニ課セラ

ル、諸税ニ適用ナキ旨」ヲ規定スル處（第二委員會ニテ和蘭代表ノ主張ニヨリ挿入セル規定ナリ）獨逸代表ハ右「其他物品ノ出入ニ課セラル、諸税」トハ辭句明瞭ヲ缺キ二三少數國ノ法制ニ合センカ爲一般の例外規定ヲ條約中ニ挿入スルノ結果ヲ來スヘシトテ之カ削除ヲ主張セリ、原案提案者タル和蘭代表モ強イテ削除ニ反對セサリシヲ以テ會議ハ右削除ニ決定ス又智惠古代表ノ質問ニ答ヘ會議ハ本項營業税（*Chiffre d'affaires*）中ニハ奢侈移税ヲモ包含スルモノトナセリ

第二項ノ「課税方法」ノ語ニ關シ伊國代表ハ國內生産品ト輸入品トニ對スル課税方法ハ必然的ニ異ル處右ハ本項ニ牴觸セサルヤヲ質問シ第二委員會報告者丁抹代表ハ課税方法ノ相違如何ハ問題ニアラスシテ右相違ヨリ差別待遇ヲ生セサラシメンコトヲ規定スルモノナル旨ヲ說明シ本項可決

第三項ニ關シ獨逸代表ハ例ヘハ歐洲ニ於テ生産セラレサル珈琲ニ付歐洲ノ或ル一國ハ伯刺西爾珈琲ト「グアテマラ」珈琲トノ間ニ差別待遇ヲ爲シ得ルノ結果ヲ生スヘク右ハ第三條ノ規定ヲ無ニスルモノトシテ之カ削除ヲ求メタリ

本項ノ主張者タル土耳其代表ハ右ハ獨逸代表ノ考フルカ如キ差別待遇ヲ設クルノ趣旨ニハア

ラサル旨ヲ説明シ若シ本項ヲ削除セハ或ル物品ヲ產出セサル國ハ該物品ニ課税シ得サルノ結果ヲ生センコトヲ虞ル、旨ヲ述ヘタルニ議長ヨリ第三條本文ハ「外國品ニ對シ該品ニ類似ノ國內品ニ課セラル、負擔ヨリ重キ負擔ヲ課セサル旨」ヲ規定スルヲ以テ右ノ如キ類似內國品ノ存セサル場合國家ハ何等ノ拘束ヲ受クルモノニアラサルコトヲ説明シ土耳其代表モ右說明ニ満足シタルヲ以テ第三項ハ削除ニ決定セリ

以上ノ修正ヲ以テ第三條關係議定書可決ス

(ハ) 第四條及第四條關係議定書規定——論議ナク可決セラル、但シ伊國代表ハ本件議定書ノ規定ハ第一條關係議定書ノ規定ト殆ント同一ナルヲ以テ右第一條關係議定書ニ修正案ヲ提出スルノ條件ヲ以テ本件議定書ヲ承認スル旨ヲ述フ

第三條及第四條共通議定書ノ規定——獨逸代表ハ更ニ第二項ノ規定ヲ明確ナラシムル爲同項ノ終リニ「第一項ニ認ムル手段ハ當該專賣ノ目的タル物品ニ類似ノ物品ノミニ適用セラルヘキ旨」ノ規定ヲ追加センコトヲ求メ經濟委員會代表モ國家ニ認メラレタル例外的手段カ過度ニ擴張セラル、ヲ避ケントスル右獨逸案ニ賛成シ投票ノ結果獨逸案採用セラレ（右採用ニ反對ナリシハ「ラトヴィア」一國ナリキ）本議定書可決

尙右獨逸案中ノ「類似品」中ニハ「代用品」ヲモ包含スルモノト了解セラレタリ

(ニ) 第十二條及同條關係議定書ノ規定——智惠古代表ハ議定書第二項ニ依レハ或ル工業新設ノ場合其ノ設備ニ當リ内國製機械ヲ使用セハ課稅上ノ恩惠ヲ受クル結果トナリ之カ單ニ特殊ナル各場合ノミニ關スル限り反對ナキモ本項ハ一般的ニ不平等差別待遇ヲ招來スルノ結果ヲ生スヘシトテ之ニ反對セリ

本項ハ第二委員會ニ於テ埃國、勃牙利、埃及諸國代表ノ主張ニ依リ挿入セラレタルモノナレハ埃國代表ハ右智惠古代表ノ反對ニ對シ自國ノ事態ヲ説明シ同國ニハ工業ノ更新ニ關スル法律アリ(獎勵ニアラス工業機械ノ仕替ニ關スルモノナレハナリ)右ハ戰時中工場設備ヲ等閑ニ附シタルニ鑑ミ埃國ニ存スル工業ニ對シ一定ノ租稅免除ヲ規定シ且設備ニ關シ同種同質ノ物品埃國ニ存スル場合ハ之ニ對スル注文ハ必ス埃國ニ於テ爲サルヘキ旨ヲ規定スルモ右ハ極メテ自由主義ニ基キ適用セラル、モノニシテ本法ノ爲ニ利益ヲ享クル外國企業モ多數ナル旨ヲ説明シ且本項ノ内國品使用義務ヲ更ニ制限スル目的ニテ「自國內ニ同種同質ノ物品存スル場合」之ヲ使用スル者ハ課稅上ノ恩惠ヲ受クヘキ様修正シテ可ナルヘキ旨ヲ述ヘタリ

經濟委員會代表ハ埃國等ノ特殊地位ニ顧ミ之ニ個々ノ例外ヲ認ムルコト、スヘク議定書中ニ

内外品均等待遇ノ原則ヲ弱ムルカ如キ一般の規定ヲ設クルコトノ不可ヲ說キ英、獨、西等ノ代表等熱心ニ之ヲ支持シ議定書第二項ハ第十二條第二項ノ自由主義ヲ全ク無ニスルモノナリトシテ之カ削除ヲ主張シタルカ土耳其、波蘭等ハ内外企業ニ依リテ差別待遇ヲ設ケサル限り條約ノ趣旨ニ反スルモノナラストシ埃國ノ主張ヲ援助セリ

斯クテ論議ノ末議長ハ前記削除說ニ贊シ將來特定國ヨリ提出セラル、コトアルヘキ除外例ヲ審査スルノ條件ヲ以テ議定書第二項削除ヲ投票ニ附セントセシカ希臘代表「ポリチス」ハ先ツ第十二條第二項ヲ投票ニ附スヘク若シ之カ削除ニ決定セハ議定書ノ規定モ自ラ存セサルニ至ルヘキヲ以テ先決問題トシテ第十二條第二項ノ存廢如何ヲ決スヘキ旨提案シ議長モ右提案ヲ認メテ第十二條第二項ヲ投票ニ附シタル結果十七票對十四票(十六票ノ棄權)ヲ以テ本項削除ニ決シ從ツテ議定書第一項及第二項共ニ削除セラル、コトトナレリ

右ノ結果ニ對シ英獨代表ハ或ル國ニ對シ極メテ重要性ヲ有スル本條項ノ削除セラレタルヲ遺憾トシ第二讀會ニテ更ニ問題ヲ提起シ度キ意嚮ヲ示シタルニ埃國代表ハ第十二條第二項ヲ維持スルモ之ニ對スル除外例ヲ認メラレサル恐アルキヘテ同項削除ニ投票セル旨ヲ述ヘタルヲ以テ議長ハ前記投票ハ自由ナラサリシモノト認メ其ノ結果ヲ廢棄シ曩ニ自ラ提案セルカ

如ク議定書第二項ノ存廢ノミヲ投票センコトヲ提議セリ

然ルニ希臘代表ハ若シ議定書第二項ハ削除セラレ第十二條第二項ノミヲ承認セラレタル場合各代表ハ自國ノ特殊地位ニ顧ミ留保提出ノ權利アリトスルモ請訓其ノ他ノ關係上會議終了迄ニ之ヲ爲シ得サルモノアルヘシ、斯ル事態ニ際シ二ノ解決方法アルノミ即チ一ハ第十二條第二項及議定書各項ヲ削除スルコト、二ハ第二項ヲ承認スルト共ニ一般の例外（即チ議定書第二項）ヲ認ムルコトニ在リ、而シテ投票ノ結果會議ハ前者ヲ採用スルニ至レルモノニシテ右ノ投票ハ既得確定ノモノト認メサルヲ得サル旨ヲ説明シ伊藤代表ハ一度投票確定セハ同一問題ニツキ同一形式ノ下ニ更ニ審議スルコト不可能ナルモ第二讀會ニテ異レル形式ノ下ニ提案スルヲ妨ケサル旨ヲ述ヘ論議ノ末右投票ハ確定ノモノトスルモ第二讀會ニ於テ更ニ問題ヲ提起シ得ヘキモノトセラル

然ルニ和蘭代表ハ各種ノ修正案ニヨリ條約ノ效果薄弱トナルニ於テハ同國ハ之ニ署名スルコト不可能ナリトシ和蘭ト同様ノ意見ヲ有スル國モ多數アルヘケレハ之ヲ折衷シ先ツ條約ハ進歩主義ヲ認ムルモノタラシムルト共ニ特定國ニ對シテハ一定ノ期間ヲ設ケテ留保提出ヲ許シ（會期終了迄ニ之ヲ提出シ得サル國アルニ鑑ミ）之ヲ承認スルヤ否ヤハ更ニ第二回會議ヲ開催

シテ審議決定シテハ如何ト提言セリ

第二節 會期終了ト議定書作成

第一節所說ノ如ク第十二條第二項削除及留保問題ニ端ヲ發シ會議ハ委員會報告審査ヲ中止シ專ラ今後如何ニシテ事業ヲ繼續スルヤノ問題ヲ論スルコト、ナレリ

十二月二日ノ總會ニ於テ劈頭議長ハ會議ハ正ニ危機ニ遭遇シツ、アル旨ヲ注意スルト共ニ前記和蘭代表ノ意見ヲ容レ條約ハ進歩ヲ劃スルモノタラシメ以テ進歩主義國ノ署名ヲ得ルト共ニ特殊地位ニ在ル國ニ對シ後日留保提出ノ可能性ヲ認メテ又之カ參加ヲ得ルコト（此ノ留保ノ受諾如何ハ第二回會議ヲ開催シテ審議決定スルコト）最良ノ手段ナリトシ右ノ目的ニ添ハンカ爲輸出入禁止制限撤廢條約第六條及第十七條ト類似ノ規定ノ採擇方提案セリ（C.I.T.F-49）

英國、獨逸、和蘭代表等右議長案ヲ支持セルカ英國代表ハ小委員會ヲ構成シテ直チニ提出セラレ得ヘキ留保ヲ審査シ其受諾如何ヲ討論スルコトヲ提案シ獨逸代表亦小委員會ヲ構成シ各條中留保ノ提出セラレ得ヘキ條項ヲ審議スルノ案（C.I.T.F-50）ヲ議長案ニ對スル補足トシテ提出セリ

然ルニ伊國「サルヴァドル」代表等ハ議長案ニヨル條約ノ暫定的性質ヲ有スルニ至ルヘキコト後日

提出サルヘキ留保ノ如何ナルモノナリヤ不明ナルコトノ爲ニ署名困難ナル旨及議長案ハ第二回會議ニ署名國ノミヲ招集シ居リ本件會議ノ精神ニ反スルコト等ヲ舉ケ議長案ノ不備ヲ舉ケテ之ニ反對シ寧ロ會議ヲ中止シテ從來爲シ來レル事業ヲ各國政府ニ送付シ其ノ意見ヲ求メ更ニ本會議ノ繼續タル第二回會議ヲ開催シテ從來ノ事業ト各國政府ノ回答トヲ考慮シテ條約作成ニカムルコト得策ナリトシ伊國代表ハ左記ノ如キ議定書案 (C. I. T. E-51) ヲ提出セリ

The undersigned delegates of the Governments of:

(names of countries follow)

met at Paris on the invitation of the Council of the League of Nations and under the chairmanship of M. Albert Devèze, former Minister, with a view to the conclusion of a Convention concerning the establishment of foreigners, as a result of the discussions recorded in the reports of the Committees and in the minutes of the Conference,

noting that, notwithstanding a spirit of the widest co-operation, the complexity of the subject matter has made it impossible to find generally accepted solutions to certain questions requiring more detailed study,

being convinced that a second session of the Conference is necessary to achieve the end in view,

They have agreed:

1) to submit to the appreciation of their Governments "the draft conventions" resulting from the work of the Conference and representing majority and minority texts, together with a summary of the exceptions and reservations put forward by the delegates in regard to certain Articles or in regard to the whole of the aforesaid drafts;

2) to request their Governments to forward to the Secretariat of the League of Nations before April 1st, 1930, any observations and suggestions they may wish to make with regard to the draft conventions mentioned above, in order that it may be possible to obtain, with the authorisation of the Council of the League of Nations, the opinion of its advisory bodies and that of the International Labour Office as regards the part relating to the treatment of the foreigners described as "workers".

3) to request the Council of the League of Nations to fix, after consultation with the President of the Conference, the date of the second session of the present Diplomatic Conference, which should take place at Geneva before December 31st, 1930.

To this session will be submitted, in addition to the observations and proposals of the Governments, the opinions obtained in advance of the advisory bodies of the League of Nations and of the International Labour Office and any other technical opinions of a nature to supply the delegates with as complete a documentation as possible.

4) the delegates request the Council of the League of Nations to authorise the Secretariat of the League to proceed with the preparatory work and to undertake the tasks entailed by the carrying into effect of the present Protocol.

依テ茲ニ議長及伊國代表ヨリ提出ノ兩提案アリ右ニツキ各委員ヨリ意見ノ發表アリシカ佛國「エストニア」、「ヴェネズエラ」、洪牙利代表等何レモ伊國案ヲ支持シ何レモ今日迄爲シ來レル所ハ各國ノ立場ヲ明瞭ニシ極メテ有益ナリシ旨ヲ述ヘ他方「サルヴァドル」代表ハ前記伊國案ト趣旨ヲ同フスルノ提案(C. I. T. E-56)ヲナセルカ該案ノ伊國案ト異ル要點ハ(一)伊國案ハ「條約諸案」其他ヲ直接各國政府ニ送付スルコトヲ規定シ「サ」國案ハ聯盟事務局ヲ通シテ送付セントシ(二)伊國案ハ多數若クハ少數ニテ採擇セラレタル「條約諸案」及或種條項又ハ條約案全體ニ關シ各代表ヨリ提出セラレタル留保ヲ各國政府ニ送付セントシ「サ」國案ハ會議ノ事業ニ關スル一切ノ書類記録ヲ送付セントス(三)最後ニ「サ」國案ハ伊國案中ニ存セサル第二回會議準備ノ爲メノ委員會構成ヲ提案スルモ要スルニ會議ノ中止ヲ目的トスル點ニ於テ伊國案ト同一ナリ

希臘代表ハ熱心ニ右伊「サルヴァドル」案ニ贊成シタルモ今回ノ中止ハ決シテ會議ノ不成功ニアラサル旨ヲ反覆力説シ且ツ前記「サルヴァドル」案ノ準備委員會ハ本會議ノ幹部會之ニ當ルコト會議

ノ繼續性ニモ顧ミ必要ナルコトヲ述ヘタリ

最後ニ經濟委員會代表ニシテ本條約案起草者ノ一人タル「セルイス」氏ハ事態ノ現状ヲ認メテ伊「サ」兩案ニ贊成シ次回會議ニ對スル注意ヲ促セリ

唯白國代表ハ目下ノ事態ハ第十二條第二項削除ヨリ來ル留保問題ニ端ヲ發スル所最後迄事業ヲ遂行セスシテ會議ノ中止ヲ論スルコトヲ不可トシ逐條審議終了後留保ヲ要スル條項ト然ラサルモノトヲ區別シ又留保中ニモ原則ニ關スルモノト一時的ノモノトヲ區別シ原則ニ關スル留保ハ其ノ關係條文ヲ本條約中ヨリ削除シテ特別條約ニ讓リ一時的留保ニ關スル條項ハ一定期間後ニ實施サルヘキモノトナスヘシトテ一ノ提案(C. I. T. E-52)ヲナセルカ會議ノ注意ヲ惹クニ足ラサリキ

事情右ノ如クナリシノミナラス前記伊國希臘兩代表及「セルイス」氏ノ演説ハ滿場拍手ヲ以テ之ヲ迎ヘ會議ノ大勢既ニ中止案ニ一致セルノ觀アリシヲ以テ議長ハ其提案ヲ撤回シ伊國案ハ主義上會議ノ承認シタルモノト認ムル旨ヲ宣シ最終案作成ノ爲伊國、「サルヴァドル」、希臘、獨逸ノ四國代表ヲ以テ小委員會ヲ構成セシメ希臘、印度代表等ヨリ提出ノ修正案(C. I. T. E-53 及 C. I. T. E-55)ヲ移牒セリ

十二月四日ノ總會ニテ議長ハ前記四人委員會作成ノ議定書案(C. I. T. E-57)ヲ提出スルト共ニ各

委員會報告ハ委員會ニ於ケル討議ノ正確ナル反映タルニ止ルヲ以テ本會議ハ深ク之ヲ審議スルコトナク單ニ了承スルニ止ムヘク各代表ニシテ報告ニ對シ意見アラハ之ヲ報告中ニ追加スヘキ旨提案シ總會之ヲ承認シテ第一、第二、第三及第四各委員會報告ヲ何等ノ論議ナク了承セリ

次ニ議定書案ノ内容ノ審議ニ際シ同案前文第三項ハ「一切ノ協調努力ニモ拘ラス事項ノ複雑ナルカ爲或ル問題ニ關シ^〇一般的解決ニ至ラサリシ旨」ヲ規定スル處波蘭代表ハ右ヲ「全會一致ノ解決」ト修正センコトヲ提案セルモ本項ハ「會議ノ一般的意思ヲ表示スルニ充分ナル投票數ヲ得ラレサリシコト」ヲ表ハサントスルモノナレハ波代表ノ修正ハ受諾困難ナリトテ否決セラル其他伯國、智惠古代表等ヨリ二三修正案提出アリタルモ採用ニ至ラス

尙埃及代表ヨリ本會議幹部會ノ任務如何ト質問アリ希臘代表ハ今ヨリ之ヲ決定スルコトヲ得サルモ場合ニヨリ新條約案ヲ作成スルコトアルヘキ旨ヲ説明シタルモ伊國代表ハ寧ろ各種ノ「ドキュメントーション」ヲ整理スルコトニ止ルヘシトノ意見ヲ發表セリ

右ノ外二三字句ノ修正アリタルノミニテ議定書案ハ滿場一致ヲ以テ可決セラル即チ左ノ如ク決定ス

The undersigned Delegates of the Governments of: Germany, the Commonwealth of Australia, Austria, Belgium, Bolivia, the United Kingdom of Great Britain and Northern

Ireland, the United States of Brazil, Bulgaria, Canada, China, Colombia, Cuba, Denmark, the Free City of Danzig, the Dominican Republic, Egypt, Spain, Estonia, Finland, France, Greece, Guatemala, Haiti, Hungary, India, the Irish Free State, Italy, Japan, Latvia, Luxembourg, the United States of Mexico, Norway, Panama, Paraguay, the Netherlands, Peru, Poland, Portugal, Roumania, Salvador, Sweden, Switzerland, Czechoslovakia, Turkey, Uruguay, the United States of Venezuela and Yugoslavia, being assembled at Paris at the invitation of the Council of the League of Nations under the chairmanship of M. Albert Devèze, former Belgian Minister of National Defence, with the object of concluding a Convention concerning the treatment of foreigners,

having regard to the discussions recorded in the reports of the Committees and in the minutes of the Conference,

noting that in spite of every effort of collaboration, the complexity of the subject matter has made it impossible at the moment to find generally accepted solutions to certain questions, being of opinion that these questions are worthy of further study and that in consequence a second session of the Conference is necessary to achieve the end in view,

have agreed:

1) to submit to their Governments for consideration all documents relating to the work of the Conference;

2) to draw their attention to the expediency of drafting the proposed Convention on the most liberal lines, with the possibility of appending exceptions based on special situations of fact or of law at present existing, in view of which Governments would put forward their proposals;

3) to request their Governments to forward to the Secretary-General of the League of Nations before June 1st, 1930, any observations and suggestions they may wish to make with regard to the documents mentioned in paragraph 1 above, in order that it may be possible to obtain, with the authorisation of the Council of the League of Nations, the opinion of its advisory bodies, and, as regards the provisions relating to the treatment of those foreigners described as "workers", the opinion of the International Labour Office;

4) to instruct the Bureau of the Conference to remain in Office during the interval between the two sessions in order to examine the documents mentioned above and prepare the future work of the Conference as methodically as possible;

5) to leave it to the President of the Conference, after referring the matter to the Council of the League of Nations, to fix the date of the second session of the Conference which should be held at Geneva if possible before December 31st, 1930;

To this session will be submitted, in addition to the observations and proposals of Governments and the documents mentioned in paragraph 1, the opinions, already obtained by them,

of the advisory bodies of the League of Nations and of the International Labour Office together with any other expert opinions, in particular that of the International Chamber of Commerce so as to enable the delegates to be in possession of as full a documentation as possible;

6) to request the Council of the League of Nations to authorise the Secretary-General of the League to undertake the work necessary for carrying the present Protocol into effect.

In faith whereof the delegates of the above mentioned Governments have signed the present Protocol.

Done at PARIS on December 1929 in a single copy which shall be deposited in the archives of the Secretariat of the League of Nations.

尙議長ハ會議ノ事業全般ニ關シ一般の意見アル者ハ發表セラレ度キ旨述ヘタルヲ以テ先ツ和蘭代表ハ外國人待遇問題ヲ國際的ニ規律スルノ時機尙早ナリシ旨ヲ述ヘ第二回會議ハ其ノ時機ヲ見ルコトヲ要スヘク若シ時機至レル問題アラハ夫レノミヲ次回ニテ解決シ他ハ後日ニ讓ルヘシトシ條文ニ關シテハ特ニ第六、七、八條ニ對スル不滿ヲ述ヘ本會議ニ於テ他國力和蘭ト同様ノ自由政策ヲ實行セサルコトヲ承知セルモ之カ爲和蘭ハ從來ノ自由主義ヲ變更スルモノナラストス
智恵古代表ハ同國力會議ニ對シ全力協調セル次第ヲ述ヘ恰モ會議中止ノ責任解除演說ノ感アリキ

愛蘭代表ハ左ノ如キ宣言ヲ爲シ英國加奈陀代表共ニ右ト同様ノ宣言ヲナスヘキ旨陳述セリ

The Delegation of the Irish Free State wish formally to place on record the following declaration of their interpretation of Articles 2, 7 (2), Protocol Ad 8, 10 (3 and 4), 16 (7), 17 of the Convention :

“ Nothing in the said Articles shall prevent the grant of privileges by the Irish Free State, a Member of the British Commonwealth of Nations, to British subjects, protected persons or companies belonging to any other member of the British Commonwealth of Nations, whether the Convention has or has not been ratified or acceded to on behalf of such other Member, without thereby creating any obligation to extend these privileges to nationals of any other High Contracting Party ”.

支那代表ハ同國ハ目下二國間條約商議中ニシテ本條約作成ニ至ルト雖モ之ニ署名セサルヘキ訓令ヲ受ケタル旨ヲ述ヘ

羅馬尼代表ハ原案第十一條ニ關スル同國ノ態度ヲ更ニ聲明セリ斯テ各代表ハ十二月五日前記會期終了議定書ニ署名シ以テ外國人待遇ニ關スル國際會議第一回會期ヲ終了セリ

五 関税引上げ休止會議

1 「関税引上休止ニ関スル國際會議議事經過報告書」